

左ニ參考ノタメ相續ニ關スル規定ヲ掲ク

蒙古人ハ男子十八歳以上六十歳以下ノモノハ凡テ戸籍簿ニ登載ス但シ老年ノモノ病アルモノハ除名ス隱匿スルモノハ處罰ス

壯丁三人毎ニ驍騎一人ヲ加フ戰事ニ際セハ内二人ハ出征セシメ二人ハ家ニ留ム

壯丁ニシテ本業ヲ務メシテ私ニ喇嘛トナリ又ハ伍巴什トナルモノハ之ヲ罪シ婦女子モ老年又ハ不具者ニアラサレハ齊巴罕察トナルヲ許サス

蒙古人ノ戸口ハ戸籍簿ヲ以テ證トス若シ相續人ナキトキハ佐領ニ申出テ同族中相當ノモノヲ選シテ相續セシム可シ同族中ニ相續セシムルモノナキ時ニ限

リ他姓ノモノ養子トスルコトヲ許スモ凡テ私ニ養子ヲ立ツコトヲ得ス絶家シタルトキハ其財産ハ札薩克之ヲ沒收ス

同族中ニハ族長一人ヲ置ク素行其任ニ堪ユルモノヲ擇シテ之ニ充ツ臺吉以下ニシテ之ニ服從セサルトキハ告訴スルコトヲ得

毎十家ニ什長一人ヲ設ク十家ニ違法者ノ有無ニヨリテ什長ノ功過ヲ定ム什長

ヲ設ケサルモノハ王以下夫々處罰サル可シ

男女ノ關係ハ男尊女卑ニシテ男子ヲ上位トス蓋シ蒙古ハ古來武ヲ以テ國ヲ建テシヲ以テ男子ニ重キヲ置ケルカ如シ故ニ男女ノ分業ニ於テモ男子ハ凡テ外ニ在テ王事ニ勤メ演武狩獵等ニ力ヲ用ヒ女子ハ家ニ在テ家事内政ヲ掌ル男子ハ辨髮喇嘛ヲ除クヲ蓄フ日常ノ業務ハ家畜ヲ放牧シ燃料ヲ採收シ其農耕ヲナス地方ニ於テハ之カ耕耘收穫ニ從事ス

女子ハ男子ノ内助ヲナシ其日常ノ業務ハ家庭ニ於ケル一切ノ業務ヲ負擔スルノ外朝夕ノ搾乳ヨリ牛酪乾酪奶皮子ノ製造ニ任シ出テハ水ヲ井戸又ハ泉ヨリ汲ミ獸糞ヲ拾ヒ之ヲ乾シテ小屋ノ周圍ニ貯存シ又一家ノ者ノ爲メニ衣類ヲ作り靴ヲ製ス而モ必要アラハ男子ト同様乘馬シテ原野ヲ疾驅スル等實ニ婦人ノ業務ハ多端ナリ

蒙古婦人ハ頗快活ニシテ漢婦人ト全ク異ナリ深窓ニ束縛セラレ、コトナク全ク獨立ノ生活ヲ爲シ隨意馬ニ乘リ外出シ單獨ニ他人ノ居屋ヲ往訪ス妙齡ノ婦人カ男子ト馬ヲ並ヘテ語り行クモ人之ヲ恠シムナク男女ノ交際全ク自由ナル

ハ清國ニ在テハ真ニ意料外ノ事トス畢竟生活狀態ト單純ナル性質トハ男子ヲシテ一種ノ猜忌心ヲ有セシメサル結果ナランカ
 長幼ノ序ハ漢人ト同シク年長者ヲ尊フノ風アリ
 貧窮ハ同族間ニ於テ救恤シ之ヲ養ヒ寡婦孤子モ又同様ニ之ヲ慰撫ス故ニ蒙古ニ於テハ非民乞食ノ徒ヲ見ス
 又内蒙古東南部一體ノ地ハ漢人種ノ棲息スル地方多ク到ル處村落ヲ設ケ耕作ニ從事シ以テ其生計ヲ營メリ而シテ此等漢民ハ移住當初獨身ノモノ多ク從テ蒙古婦人ヲ娶リテ雜種ヲ生シ然ラサルモ蒙古人ハ漢人ノ感化ヲ受ケテ其風俗性質等全ク漢人ト同一タルニ至リ其性質ノ如キ狡猾誑詐ニシテ蒙古從來ノ朴實ナル風習ハ之ヲ發見スル能ハサルニ至レリ

第二章 衣食住

第一節 衣服

蒙古人ノ服裝ハ地方毎ニ多少ノ差異アルモ元來清朝ノ服制ニ由ルモノニシテ

衣服馬裝等各部略規ヲ一ニス唯タ之ヲ滿漢人ニ比スルモ一般ニ寬濶ナルト上衣ハ赤色紫色黄色等多ク目立ツ色合ヲ用ユル差アルニ而シテ蒙古人ノ服ハ清朝制定ノ服裝ニ比シ外被ハ通常丈ケ長クシテ束帶ヲ解ケハ地ニ達スヘシ故ニ就寢ノ際ハ以テ掛布團ノ代用トナスニ足リ着裝時ハ僅カニ引キ上ケ絹又ハ木綿ノ帶ヲ以テ腰部ヲ緊束ス故ニ彼等ノ側背部ニハ著シク其皺襞ヲ見ル帶ハ其中央ヲ背後ヨリ前方ニ繞ラシテ交又シ腰部ノ兩側ニ挿ミ其端末ヲ垂下ス束帶ノ前部ニハ嗅烟草入ヲ右側ニハ食事用ノ小刀ヲ後部ニハ燧石ヲ下ケ烟袋ハ左腰ニ下ケ烟管ハ或ハ之ヲ長靴中ニ挿入シ或ハ左腰ニ挿ムヲ普通トス而シテ其上ニ更ニ上衣(夏冬ノ二様アリ)ヲ用ヒ革製又ハ布製ノ靴ヲ穿テ常ニ帽子ヲ冠リ或ハ手拭ヲ以テ鉢卷ヲナシ手ニハ珠數ヲ持テ頸ニハ佛像ヲ吊シ外出ニ際シテ必ス鞭(長二尺餘ノ藤ノ杖多シ)ヲ携ルナリ
 右ハ東部蒙古全部ヲ通シテ記シタルトモ所ニ由リ又ハ人ニ由リ多少ノ差アリテ悉ク皆上記ノ全部ヲ纏フモノニハアラス例ヘハ燧石ノ如キハ中以下ノ人ニ用ヒラレ上流ノモノハ之ヲ携ヘサルカ如シ

今清朝一般ノ服制ヲ舉クレハ大略左ノ如シ

衣服ヲ大別シテ官服及ヒ便服即チ通常服ノ二トス

官服ハ玉公以下ノ爵位官等アルモノ、着用スルモノニシテ凡テ上衣ト下衣ト

ヲ合シテ三部トス下衣ヲ褌衣トス(即チ下着)通常上半部ト下半部ト異ナリタル

材料ヲ用ヒテ縫ヒ合ス故ニ兩截褌ト云フ

褌衣ノ上ニ袍子(上着)ヲ穿ツ袍子ノ下半部ハ前後共其長ノ半分丈開キアリ宗室

ハ左右共ニ開ク之ヲ開勤兒ト云フ

袍子ノ上ニ着ルモノヲ褂子ト云フ其長サハ袍子ノ半ニ過キス約我カ羽織ト見

ナス可シ但シ袍子及ヒ褂子共ニ襟ハ對襟ニシテ中央ニテ合ス褂子ノ兩袖ハ極

メテ寛ナリ而シテ官服ノ上衣ノ襟皆裏ヨリ表ニ折リ返シアリ之ヲ捲領ト云フ

褂子ノ中央ニハ胸背共ニ各補子ヲ附ス之レ文武官及ヒ其品級ヲ示スモノナリ

補子ヲ附シタル褂子ヲ又補服ト云フ

補子ハ普通用ユルモノハ方形ノ刺繡ニシテ上部ニ垂雲紅白下部ニ海水左右兩

邊ニ八寶又ハ八仙ト稱スル人物又ハ寶物ノ模様アリ而シテ中央部ニ文官ハ飛

鳥武官ハ走獸ヲ刺繡シ一見以テ其品級ヲ分ツ假令ハ一品官ハ文官ハ仙鶴ヲ武
官ハ麒麟二品官ハ文官ハ錦雞武官ハ獅子ト定ム故ニ此補子ニヨリテ直チニ其
人ノ何品ノ文武官タルコトヲ知ルヲ得可シ補子ハ之ヲ取り脱シ置キ必要ニ應
ジテ縫ヒ着クルヲ得

親王郡王貝勒貝子等ノ官服ニ用ユル補子ハ圓形ニシテ胸背ニケ處ノ外猶ホ左
右ノ肩ニ各一個アリ合セテ四個トス何レモ褂子ニ縫着シアリテ容易ニ脱スル
ヲ得ス

官服ハ袍子褂子共ニ四季ニヨリテ變ス棉入ノモノ、袷單物ニシテ夏季ハ紗ヲ用
ヒ冬季ハ毛皮ヲ着ク

袍子ハ各種ノ材料ヲ用ユルヲ得レトモ褂子ハ必ス緞子ニ限ル但シ夏季ハ袍褂
共ニ紗ヲ用ユルヲ得

官服ヲ着シタルトキハ補子ノ上ニ頸ヨリ珠數ヲ掛ク珠數百八顆ニシテ其色ハ
各品級ニヨリテ差アリ珠數ノ背後ニ垂ル、部分ハ碧玉珊瑚等ヲ用ユ其前面左
右ニ垂珠三掛アリ左二掛右一掛トス

通常服

吉事及ヒ凶事ニ用ユル禮服ハ其制官服ニ同シ只褂子ノ色ヲ異ニスルノミ而シテ凶事ニハ補子ヲ附セサルヲ例トス

通常服禮服ヲ問ハス脚部ニハ褲子ト稱スル股引形ノ物ヲ穿テ足ニハ襪子即チ足袋ヲ穿ツ褲子ノ上部ハ腹部ニ達ス褲子ノ上ニ別ニ短キ褲子ヲ加フ之ヲ套褲ト云フ套褲ハ前ハ腿部ニ達シ後ハ膝部ニ達シ紐ヲ以テ之ヲ腹ニ於テ帶ニ吊ル褲子又ハ套褲ノ下部ハ足首ノ所ニ於テ別ニ幅狭ヲ布片ヲ以テ幾重ニモ卷キテ之ヲ縛ス褲子套褲共ニ單夾綿ノ三種アリ

通常服ハ内部ニ穿ツモノヲ衫及ヒ大袂トス衫ハ單衣ニシテ肌着ニシ大袂ハ上着ニシテ又夾棉皮ノ三種アリ通常服ニハ共ニ身分ノ別ナキモ其材料ハ貧富ニヨリ普通自宅ニアルトキハ布ヲ用ヒ外出ノトキニ緞子絹等種々ノ材料ヲ用ユ

大袂ノ上ニ又別ニ短衣ヲ加フ即チ馬褂ウマカサ及ヒ坎肩カンカサ見之ナリ馬褂見トハ褂子ノ下半部ヲ去リシモノニシテ我カ羽織ニ近ク坎肩見ハ袖無シニ似タリ共ニ四季ニヨリテ紗夾棉皮ノ別アリ

禮帽

通常服ハ男子ニアリテハ滿漢蒙古人大差ナキモ婦人ニアリテハ漢婦人ノ服ハ著シク差異アリ而シテ滿蒙旗人婦人ノ通常服ハ大體男服ニ似タリ但シ身分アルモノハ大袂即チ上衣ノ長サ身長ヨリモ長ク靴ヲ蔽フニ至ル

飾帶ハ宗室ハ黄色覺羅ハ紅色ヲ用ヒ皇族以外猥リニ之ヲ用ユルヲ許サス其他文武官品級ニ應シ一定ノ制アリテ官服ヲ着シタルトキハ腹前ニ金具ヲ以テ止ム通常服ヲ着スルトキハ必シモ之ヲ用ヒサルモ或ハ之ヲ結ヒテ腰後ニ垂ルモノアリ

帽子モ又禮帽及ヒ通常帽アリ

男子ノ禮帽ハ即チ官帽ナリ之ニ夏冬ノ別アリ夏帽ハ涼帽ト稱シ王公及文武官吏ノ戴クモノハ籐皮ヲ用ヒテ圓錐形ニ編シ紗ノ帽裏ヲ附ケ表ニハ羅衣ヲ張り縁ヲ取り帽ノ表面ニハ紅纓ヲ附シ帽頂ニハ頂子ヲ附ス通常民ノ用ユルモノハ籐皮ヲ用ヒテ編ミ紅色ニ染メタル絹絲ノ纓ヲ附ス

冬帽ハ暖帽ト稱ス夏帽ヲ用ユルノ外ハ春秋共ニ之ヲ用ユ冬帽ニ二種アリ一ハ黑羅紗又黒フランネルニテ作り帽ノ四周ニ別ニ稍外上方ニ向井タル縁ヲ附ス

高サ三寸位帽ノ中央ニ紅纓ヲ附シ頂上ニ頂子アリ一ハ皮帽ニシテ縁全部ヲ毛皮ニテ飾リ其幅前ノモノヨリ狭シ
王公官吏ハ夏冬ヲ通シ帽頂ニ所謂頂子ヲ附ス其制一定セリ王公ハ紅寶石ヲ用ヒ爵位ニ由リテ多少色合ヲ異ニス文武官ハ一二品ハ珊瑚三品ヲ透明藍色ノ寶石四品ハ不透明藍色五品ハ水晶六品ハ不透明白色ノ玻璃ヲ用ヒ七品以下未入流ハ金色ノ頂子ヲ附ス又帽頂ノ後部ヨリ斜ニ背ニ向ヒテ孔雀ノ羽毛ヲ垂ル夫ニ三眼双眼隻眼ノ制アリ三眼ハ皇族ニ限り賜ハル

通常人ノ冬帽ニハ頂子ヲ附セス頂子ノ大サハ徑七八分高サ一寸強ノ楕圓形ニシテ螺子ヲ用ヒテ緊着スル装置ナリ

通常帽ハ小帽兒又ハ帽頂兒ト名ク夏時ヲ除クノ外他ノ三季ハ常ニ用ヒラルハモノニシテ其形下部ノ圓クシテ寬ニ上部ハ窄ク六辨ヲ合セテ縫テ作ル下方ノ周邊ニ幅一寸程ノ縁ヲ附ス頂ニハ紅色ノ打紐ヲ結ヒテ作リシ飾ヲ附ス帽ノ前面ニハ寶石等ヲ附シテ飾トナスモノアリ斐ニアルトキハ帽頂ノ打紐ノ色ヲ變ス滿人ハ黒漢人ハ白トス又滿蒙旗人ハ冬季ニ毡帽ヲ用ユ毡帽ハ即チ毛毡ニ

通常帽

テ作り官帽又ハ便帽ニ似タリ

夏季ハ一般ニ帽ヲ用ヒス麥藁帽子ハ兵士及ヒ下級民ノ外一般ニ用ラレス但シ蒙古ニハ以上ノ外蒙古固有ノ便帽アリ自家製ニシテ多クハ夏季之ヲ用ユ大清會典ニヨルニ蒙古王貝勒貝子公ノ冠服及ヒ護衛ノ制度ハ凡テ清國皇族ニ均シク只馬韉ノミハ特賜ニヨラサレハ金色黄色紫色ヲ用ユルコトヲ得ス又臺吉以下ハ凡テ其品級ニ從ヒテ滿漢人同等ノ冠服ヲ用ユルコトヲ得セシムトアリ

故ニ蒙古王公官吏ノ官服制ハ大體上述セル滿漢人ノ服制ニヨルモノナレトモ土地僻遠ノ地方ナルヲ以テ元ヨリ嚴格ニ此規定ヲ守ル能ハス故ニ或ハ略衣ノマ、官帽ヲ頂クモノアリ北京來朝ノ時ニ限り所定ノ官服ヲ着クルモノアリ臺吉以下ノ小官吏ニ至テハ大低官帽ヲ有スルノミニシテ官衣ヲ所持セサルモノ多シ(内蒙古ノ官帽ハ滿漢人ノモノト同一ナレトモ外蒙古人ノ用ユル官帽ハ其形狀稍異ナレリ)

其普通人民ノ 裝ニ就テモ大體ハ滿漢人ノ服制ニヨルコト前ニ述ヘタレトモ

其細目ニ至リテハ或ハ略帽ノ形狀カ平扁ニシテ縁邊反上セルモノヲ用ユル如キ或ハ氣候ノ關係上夏季ト雖衫衣ヲ用ユルコトナク冬季ハ凡テ羊裘ヲ着スルカ如キ風土ノ異ナルニヨリ多少ノ差別ナキニアラズ今更ニ概言ニ述ヘタル地方區分ニ從ヒ其異同ノ大要ヲ説述ス可シ

一、興安嶺ノ東南部 東部蒙古中最モ文化ノ進ミシ地方ニ屬スルヲ以テ衣服モ其西北部ニ比スレハ稍進歩セリ此部モ大体ニ於テ左ノ三部ニ分ル

甲、開拓地方ニ在スル蒙民ハ殆ンド滿漢移民ト同一ナリ此等ノ地ニアル蒙民ハ一見漢民ト見別シ難シ

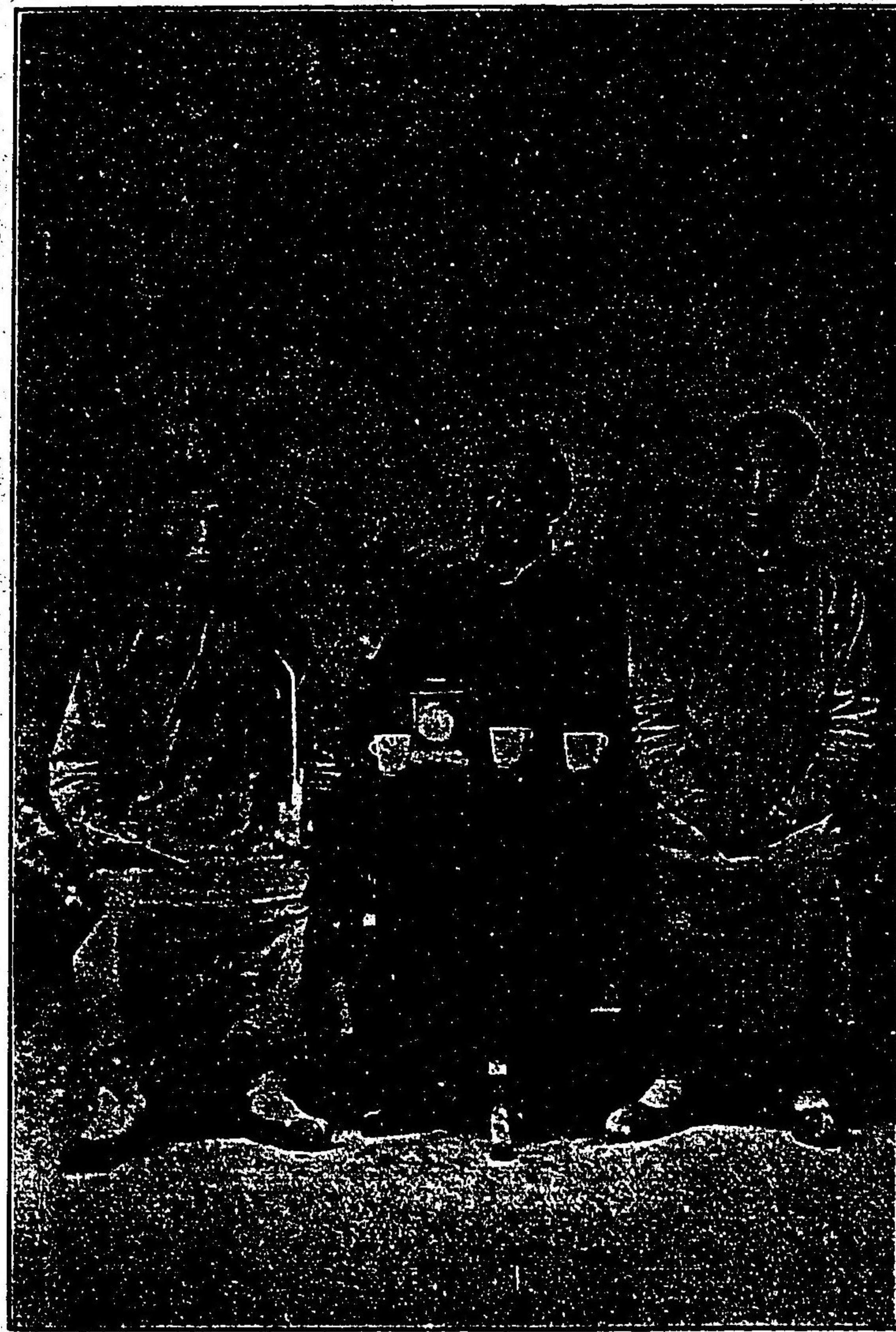
乙、開拓地隣接地方ニ住スルモノハ年々移住民ノ感化ヲ受ケ不知不識同化サレツ、アレトモ之ヲ滿漢移民ニ比スレハ一般ニ粗野ニシテ判然見別シ得ラル

丙、興安嶺山麓地方ニアルモノハ(乙)ヨリモ更ニ粗野ニシテ且ツ着裝更ニ不潔ナリ

以上三小區域中後二者ハ靴帽子等多ク自家ニテ製シ滿漢民又ハ甲者蒙民ノ如ク既製品ヲ用ユルコト少シ又婦女ハ種々ノ刺繡ヲナシ靴ノ製作ハ彼等婦女ノ



(方地古蒙) 裝服ノ時夏



(方地民住移) 態状ノ内室



移住民地方(移住民)

尤モ誇リトスル作業ノ一ニ屬ス又ク此區域ノ婦女ハ右ノ外男子ノ烟草入喫烟
草入等刺繡精巧ニシテ遠來ノ珍客等ヨリ物品ノ贈與ヲ受クルアレバ其刺繡ア
ル烟草入等ヲ返禮トシ贈ルモノモアリ

二、興安嶺ノ西北部ニ於ケル住民ハ之ヲ其東南部ニ比スレハ遙カニ粗野ニシ
テ一部地方ヲ除ク外ハ市場ニ遠ク且ツ土地概シテ磽确ナルヲ以テ資産乏シキ
カ故服裝モ甚シキ差アリ而シテ此等ノ地方ハ清朝ノ制定服ニ從フモ古來蒙民
ノ本據タリシヲ以テ蒙古固有ノ習慣ヲ有シ殊ニ外蒙古ニ至リテハ更ニ甚シキ
差異アリ左ニ參考ノタメ外蒙古地方風俗ノ寫眞ヲ挿入ス
此區域モ大約左ノ三區ニ分ツヲ得

甲、外蒙古ニ住スルモノハ男女共著シク服裝ヲ異ニス就中婦人ノ服裝ヲ然
リトス帽子ハ内蒙古ニ於テ見ルヘカラサル頂上尖リタルモノヲ用ユ

乙、錫林郭勒盟及其西部内蒙古地方ニ住スルモノハ興安嶺ノ東南部(丙)部住
民ト外蒙古トノ中間ニアリテ一部外蒙古ヲ習ヒ大部分内蒙古ト同シ女子ノ
衣服等ハ其飾東南部ト全ク異ナレリ

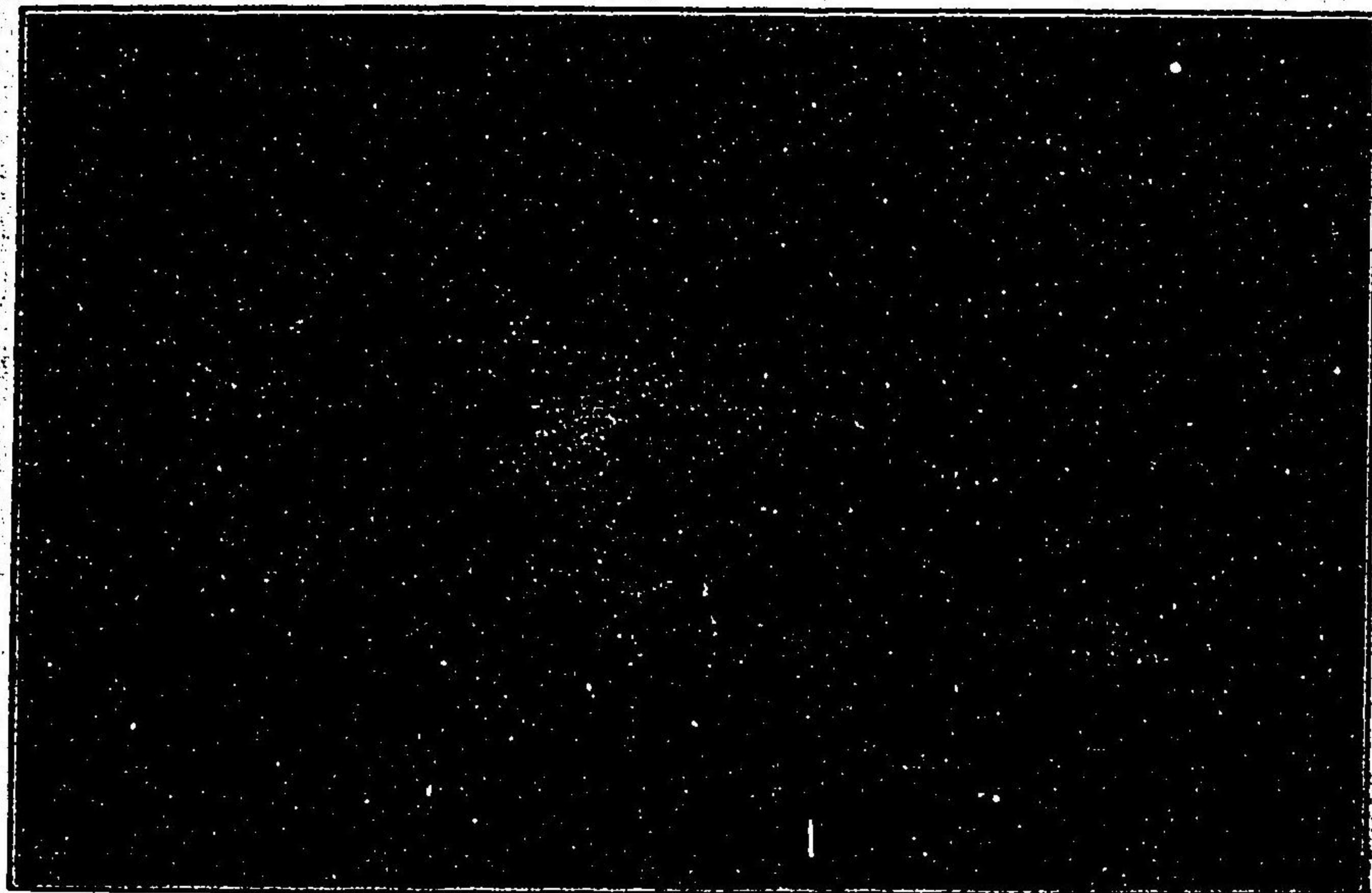
丙、察哈爾并ニ其西部ニ住スルモノハ近時移民ノ漸次ニ侵入スルニ從ヒ次第ニ其同化ヲ蒙リ服装ニモ多少ノ變化ヲ來スカ如シ然レトモ尙大部分ハ乙者ト同シ

以上ノ各部ハ通シテ深キ廣濶ナル牛革靴ヲ穿ツ此地方ノ女子ハ刺繡ニ巧ミナラス靴帽子其他烟草入ノ類ニ至ルマテ大抵漢民ノ手ニナルモノヲ購入使用シ靴ノ如キ男女同一ノモノヲ用ヒ自家ニ於テ製スルモノ殆ントナシ裁縫方法ハ知ラサルニアラサレトモ(一)部ノモノヨリ更ニ拙劣ナリ
之ヲ要スルニ蒙民ハ滿漢人ニ比シ一般ニ貧窶ニシテ生活ノ程度低キカ故ニ絹布ヲ用ユルコト少ナク概ネ綿布凡テ無地ニテ青赤淺黃等ノ染色ヲ好メリヲ用ユ又喇嘛ハ主ニ黃服ヲ着用ス衣服ハ一度ヒ新調セラル、ヤ爾後洗濯ヲ行ヒ修繕ヲ加フコトナク如何ニ汚垢ニ染ムモ又如何ニ破損スルモ之ヲ注意セサルモノ、如ク大破シテ愈々用ヒラレサルニ至リ始メテ之ヲ棄テ新衣ヲ買フ總シテ不潔清潔ノ觀念ナク食後食指ノ汚レハ之ヲ衣服ニテ拭ヒ食器ノ汚塵モ亦自己ノ袖又ハ衣服ノ一端ニテ拭フ加フルニ日々家畜ニ接シ馬ニ跨リ地上ニ坐シ風雨



外 蒙 古 風 俗

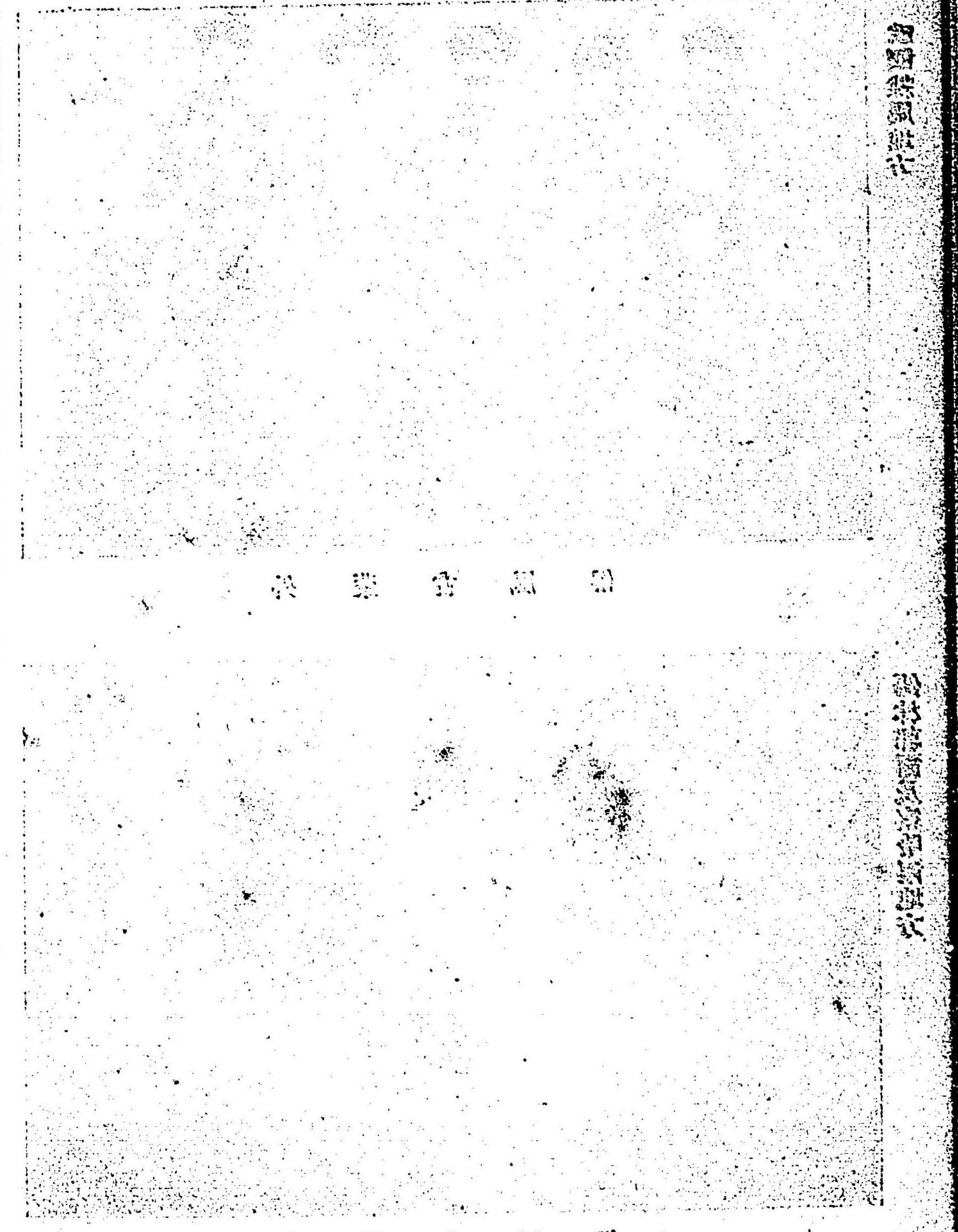
察哈爾及察哈爾地方



內 蒙 古 風 俗

察哈爾及察哈爾地方

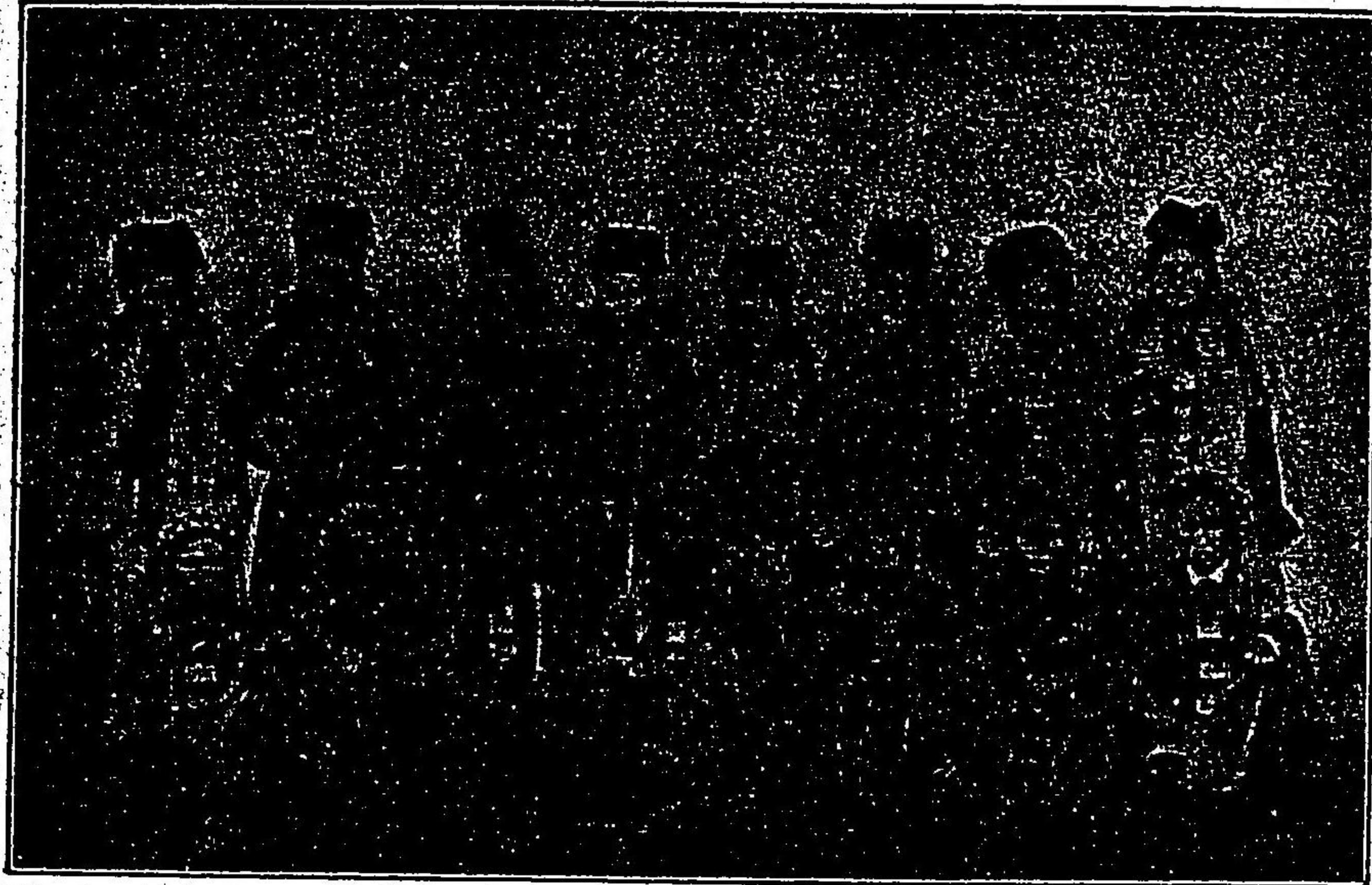
ニ曝サルルヲ以テ衣服ノ保存ノ難キハ當然ニシテ常ニ汚穢ニ染ミタル襪襦ヲ
 經ヒ居ルモ亦タ偶然ナラサルナリ
 蒙古人使用靴ノ一般ノ形式モ又滿漢人ノ用ユルモノト同シ而シテ其制式ハ左
 ノ如シ
 靴ハ長靴形ノモノヲ云ヒ鞋ハ短靴ヲ云フ靴ニ官靴通常靴ノ別アリ文武官共均
 シク表ハ黑緞子ニテ作り底ハ牛皮ヲ用テ作ル高サ大低一尺餘ナリ(但シ長短少
 シモ一定セス通常靴モ其形狀官靴ト同シ只其材料ノ差アルノミ
 鞋ハ平靴形ノミニシテ毛毡或ハ木綿ヲ以テ作り或ハ棉鞋ト稱スル黑天鵝絨ニ
 テ棉ヲ入レタルモノヲ用ユルアリ其形狀大同小異ナリ
 蒙古人着用ノモノハ已ニ前記セルカ如ク興安峯ノ東南部各旗ノ住民ハ布製ノ
 長靴ヲ穿ツモ烏珠穆沁以西ニアリテハ男女共ニ四季ヲ通シテ牛革製ノ長靴ヲ
 用ユ蓋シ防寒及騎乗ノ便ヲ顧慮スレハナリ靴下ハ粗毛布製ノ同形ノモノヲ用
 ユ此革製長靴ハ主トシテ庫倫張家口多倫諾爾等ノ漢人ニ依ツテ輸入セラレ重
 量頗ル重ク且ツ革質硬クシテ行歩ニ便ナラス



内 蒙 古 靴 鞋

蒙古婦人ノ服装モ地方ニヨリ多少異ナリ今其ノ顯著ナルモノニ就キ略述セン
 哲里木盟内ノ婦女ハ漢人ノ服装ニ比シ極メテ寛カナル廣袖ノ衣服ヲ着シ其裾
 殆ント足ヲ蔽ハントス靴ハ手製ノ長靴又ハ短靴ニテ縷子天蔴絨又ハ綿布等ニ
 テ作り頭髮ハ前頭ニ於テ兩方ニ別ケ後頭部ニ於テ結束ス而シテ美シキ花簪ヲ
 挿スルモノ多ク處女ハ前頭ヲ二ツニ分ケ後部ニ於テ辨髮トシテ垂下シ其根本
 ハ紅色ノ毛糸等ニテ結ヘリ外出ノトキハ多ハ車ヲ用ヒ乘馬少ク帽子ヲ冠ラス
 シテ木綿無地ノ手拭ヲ冠ル照鳥遠卓索圖等又同一ナレトモ此地方ニ於テハ既婚
 ノ女子ハ後頭部ヲ長ク突出セシメ恰モ握拳ヲ附シタルカ如キモノヲ飾付クル
 モノアリ錫林郭勒及察哈爾地方ニテハ珊瑚又ハ硝子製ノ瓔珞様ノモノヲ前額
 部ヨリ後頭部ニ垂下シ其扉ヲ耳ノ前ノ方ニ頸マテ垂ル又上衣ニ著シク飾ヲナ
 ス靴ハ長靴ヲ穿テ短靴ヲ用ユルモノ少シ

外蒙古ニ於テハ頭髮ヲ分チテ二トナシ之ヲ扇狀ニ開キタル上更ニ耳ノ後部
 ニ於テ眞鍮製ノ管筒ニ挿入シ垂下セリ又多クハ帽ヲ戴キ衣服ハ肩怒リ胸窄ク
 迫リ殆ント西洋婦人ノ服ニ類似ス常ニ長靴ヲ穿ツ



外蒙古ノ婦女



蒙古婦女ノ乗馬

四子部落ハ帽瓔珞等ハ前同然ナレトモ少シク結髪ノ法ニ差異アリ即チ兩分シタル頭髮ヲ捻リテ之ニ黒絲ヲ連接シ耳ノ後部ヨリ胸ニ垂シ乳房ノ稍上方ニ於テ兩個ノ眞鍮製管筒ニ挿入スルナリ
哲里木及卓索圖照烏達ノ一部ヲ除ク外ハ女子モ巧ニ馬ニ跨リ外出ニハ乘馬スルコト多シ

以上ノ如ク區分スレトモ元ヨリ判然タル區劃アルニアラスシテ只旅行者カ實見セル一班ヲ示シタルニ過キス而シテ各地ヲ通シテ同一ナルハ婦女ハ滿人ト同シク纏足セス何レモ耳ニ孔ヲ穿テ諸種ノ耳環ヲ垂レ飾ヲ附シ處女ト既婚者トハ各地均シク髪ノ結法ニ區分アリテ處女ハ皆組ニテ後方ニ垂下セリ又均シク長キ烟管ヲ携フルコト等ナリ而シテ極下等ノモノニアラサレハ跣足トナルモノナキカ如シ

第二節 食物

蒙古人ノ常食ハ大體ニ於テ乳、茶、羊肉、及黍、又ハ其他ノ雜穀、小麥粉、干餛飩等ナレ

トモ本書説ク所ノ區域廣大ニシテ其間已ニ屢々記セル如ク氣候又ハ土壤ノ關係等ヨリ產物ニ多少ノ差異アレハ一様ニ説明シ難シ由テ煩ヲ厭ハス各地區ニ付キ異點ノ概略ヲ述ヘントス

一、興安岑ノ東南部

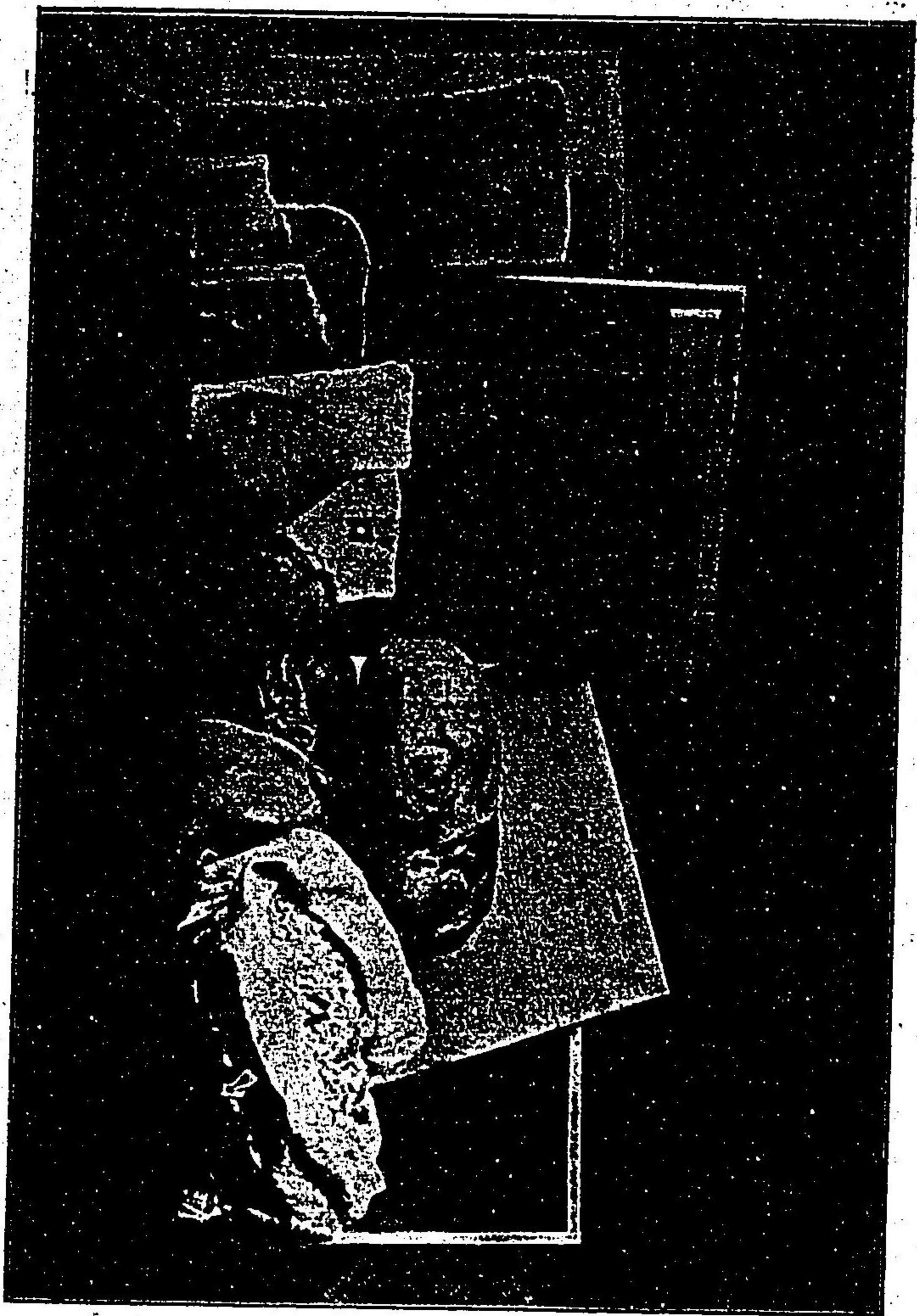
(甲) 開拓地方ニ在テハ移住民ト均シク高粱、粟、小麥、黍其他ノ雜穀、野菜類ヲ用ヒ牛乳及其製品ヲ用ユルコト殆ントナシ

(乙) 開拓地隣接地方ニ於テハ黍及粟ヲ主食トシ牛乳又ハ其製品、獸肉ヲ混用シ野菜類ヲ用ユ

(丙) 興安嶺麓地方ニ於テハ黍ヲ用ヒ稀ニ野菜ヲ食シ牛乳及其製品、獸肉ヲ多量ニ用ユ

二、興安嶺ノ西北部

(甲) 外蒙古及錫林郭勒盟地方ニ於テハ雜穀、野菜共殆ント全ク耕作セラレザルヲ以テ黍ハ甚タ貴重ナリ故ニ一人一食僅ニ一握位ヲ食スルニ過キヌ此地地方ニ於テ主食ト見ルヘキハ茶、乳及羊肉等ナリ小麥粉、干饅飽ノ如キハ珍ラシ



(ニ)(ム)(ロ)(イ)
豆漿
炒米
烏珠穆沁旗食糧



(一) (二) (三) (四) (五) (六) (七) (八) (九) (十) (十一) (十二) (十三) (十四) (十五) (十六) (十七) (十八) (十九) (二十) (二十一) (二十二) (二十三) (二十四) (二十五) (二十六) (二十七) (二十八) (二十九) (三十) (三十一) (三十二) (三十三) (三十四) (三十五) (三十六) (三十七) (三十八) (三十九) (四十) (四十一) (四十二) (四十三) (四十四) (四十五) (四十六) (四十七) (四十八) (四十九) (五十) (五十一) (五十二) (五十三) (五十四) (五十五) (五十六) (五十七) (五十八) (五十九) (六十) (六十一) (六十二) (六十三) (六十四) (六十五) (六十六) (六十七) (六十八) (六十九) (七十) (七十一) (七十二) (七十三) (七十四) (七十五) (七十六) (七十七) (七十八) (七十九) (八十) (八十一) (八十二) (八十三) (八十四) (八十五) (八十六) (八十七) (八十八) (八十九) (九十) (九十一) (九十二) (九十三) (九十四) (九十五) (九十六) (九十七) (九十八) (九十九) (一百)

牛乳

キ馳走トシテ富者又ハ王公等ニアラサレハ用ユルコト稀ナリ
(乙) 察哈爾及其西部ニ住スル人民モ又(甲)者ト畧同一ノ状態ナレトモ近時開墾ノ進捗ニ伴ヒ漸次雜穀豊カトナリ且ツ從來ト雖モ市場ニ近キヲ以テ(甲)者ニ比シテ遙カニ便多カリシヲ以テ穀物ヲ食スルコト稍多量ナリシヤ必セリ以上ノ如ク區分スルモ元ヨリ判然タル區劃アルニアラス旅行者ノ實見ニ由ル判斷ノミ以下更ニ詳細記スル所アルヘシ

イ、牛乳 蒙古人ノ牛乳ヲ用ユルコトハ頗ル巧ナリ但シ生乳ハ多ク下痢ヲ醸スノ恐レアルヲ以テ普通用ユルコト稀ナリ牛乳ハ開拓地ヲ除キテハ各地共豊富ナリ然レトモ牧畜ハ天然草ニ由ルヲ以テ野草青々タルノ間ニ於テ搾取スルノミニシテ冬季間ハ搾取スルコトナシ夏季牛乳ノ搾取ハ豫メ放牧ニ際シ犢牛ハ悉ク一群トシテ家ニ止メ母牛ノミ終日野ニ在テ十二分ニ草ヲ食ハシメ夕刻乳房便々トシタルトキ之ヲ家ノ側ニ導キ先ツ一ツツ、犢牛ヲ出シ母牛ノ乳ヲ吸ハサシメ直ニ犢牛ヲ別所ニ置キテ母牛ノ乳ヲ搾取シ搾リ了ラハ又犢牛ヲシテ自由ニ飲マシム其他凡テ此ノ如シ而シテ一牛一日ノ搾取量ハ平均四五合ナリ

一家ニハ大抵四五頭乃至十數頭ノ乳牛アリテ之ヲ搾ルルハ女子ノ作業ナリ搾乳ヲ了レハ之ヲ三四升入位ノ鍋ニ入レ暫ク煮テ其上ニ凝集スル脂肪分ヲ一回乃至二三回ニ取り去リ之ヲ別ニ貯ヘ其殘餘ハ桶ニ入ル日々如斯シテ貯ヘタル脂肪分ハ之ヲウルモ(漢語奶皮子)ト稱シ其一部ハ茶ニ入レテ飲用ニ料シ又ハ其儘來客等ニ供ス此ウルモハ牛乳中ノ精トシテ尤モ貴重セラルル而シテ其大部分ハ集メテ黄油ヲ作ル黄油ハウルモヲ強ク煮テ油トナシ又凝結セシムルモノニシテ其味頗ル佳良ナリ油ヲ取りタル殘滓モ捨ツルコトナク之ヲ食ス其別ニ置キシ脂肪ヲ去リタル殘部ハ又諸種ノモノヲ製セラルル其一ハ之ヲ豆腐形ニスルニアリ其法ハ乳ヲ煮テ水分ヲ去リ常ニ攪拌シテ練リ充分水分ノ蒸發スルヲ待テ恰モ我邦ノ蘿蔔ヲ製スルカ如ク木製ノ箱ニ入レ方形ニ切り日光ニ晒ラシテ乾ハカシ茶ニ入レテ用ヒ又ハ貯藏シテ冬季ノ用ニ供ス之ヲウオチカ又ハ「ボシルガ」ト云ヒ漢語之ヲ奶豆腐ト云フ又一種ノ酒ヲ製ス其法ハ牛乳ヲ腐敗醱酵セシメ之ヲ蒸餾スルニアリ恰モ燒酎ヲ製スルト同法ナリ之ヲ「スー」ト云フ又牛乳ヲ腐敗セシメ其酸味ヲ帶ヒタルモノヲ用ヒ小麥粉ヲ混シテ

乳菓ヲ製スルコトアリ奶豆腐ハ内蒙古ニ於テハ種々模様ヲ附シ又ハ果汁ヲ混シテ赤色ニ染メタルモノヲ製スル等稍意匠ヲ凝セトモ烏珠穆沁及外蒙古等ニ於テハ單ニ手ニテ握リ木箱ニ入ルルノ勞ヲ省キテ乾スモノモ少カラス奶豆腐ハ牛乳製品中尤モ多量ニ用ヒラルルモノニシテ旅行ノ時等ハ大抵之ヲ携ヘサルコトナシ乾キタルモノハ甚タ固ク之ヲ食スルトキハ火ニ炙リテ用ユ牛乳ノ外興安岑ノ西部ニ於テハ羊乳ヲ搾取シテ之ヲ用ユ羊乳ハ一種ノ臭氣ヲ有シ亦タ稍色ヲ帶フルモ應用ノ道ハ牛乳ト同シ

前ニモ云ヘルカ如ク冬季ハ全ク搾乳出來サルニアラサレトモ青草ノ存スルトキヨリハ其量甚シク少ク犢牛ノ食料ニ必要ナルヲ以テ普通之ヲ搾ラサルナリ黄油ハ黍ヲ食スルトキ混シテ用ヒ又之ヲ羊ノ胃囊ヲ乾シタルモノニ詰メ其口ヲ糸ニテ結ヒテ冬季ノ貯藏ニ用ヒ其一部ハ商人ノ手ニ入リ北京其他蒙古周圍ノ市場ニ販賣セラル良質ニシテ一斤(市斤)ノ價十七八錢乃至二十四五錢ナリ又蒙古人ハ北京ヘ參勤ノ際之ヲ携ヘ贈答ニ用ユ

乳酒ハ白色透明ニシテ無臭無味清水ニ異ラサルモ之ヲ用ユルトキハ酔フ蒙古

人ハ酒ヲ好ムコト甚シク毎月大抵乳酒ヲ釀造スルモ其量多カラス故ニ日常用
 ユルコトナク偶々行商漢人ノ燒酎ヲ携フルカ又ハ市場ニ出テタルトキニ破格
 ニ多量ヲ用ヒ醉ヒテ前後ヲ忘却スルコトアリ
 大清會典ニヨレハ内蒙古王公ノ貢物ハ羊一雙乳酒一瓶トアリ蓋シ是レ清朝ノ
 國初ニ當リ始メテ彼等カ投歸セルトキ進メタル所ノモノニシテ爾來紀念ノタ
 メ貢物トシテ右二種ヲ撰ヘリト云フ此制今日ニ至ルモ實施サレツ、アリ
 口、茶 凡テ蒙古人ハ茶ヲ喫スルコト極メテ多量ナリ茶葉ハ支那本土ヨリ輸入
 スルモノナレトモ其用法ハ滿漢人ト全ク異ナリ即チ茶水ノ中ニ牛乳ト少量ノ
 鹽ヲ混シタルモノニテ奶子茶又ハ蒙古茶ト云フ蒙古内ニテ單ニ茶ト稱スルト
 キハ即チ此茶ノコトナリ近時開拓地附近ニ於テハ漸次支那式ノ喫茶法(茶ノ葉
 等ニ入レ湯ヲ入レテ出スコ)ニ倣フモノアレトモ尙甚タ少數ナリ然シテ喫茶ノ量
 ト我邦ニ行ハルモノト全ク異ニシコトニ倣フモノアレトモ尙甚タ少數ナリ然シテ喫茶ノ量
 ハ興安嶺ノ東南部ヨリモ西北部ニ多キヲ見ル
 蒙古ニ於テ用ヒラル、茶ハ約三種アリ
 一、靛茶 粗茶我番茶ノ如キヲ壓搾シテ煉瓦形ニ固メタルモノ

二、茶葉 普通ノ支那茶
 三、代用茶 萩ノ若葉ニシテ茶ノ代用トスル地方アリ哲里木盟及照烏達盟
 ニ多シ

右ノ内靛茶ハ尤モ廣ク用ヒラル茶葉之ニ次キ代用茶ハ一部地方ニ限ラル
 奶子茶ノ製法ハ靛茶ナラハ先ツ小刀又ハ斧ニテ之ヲ削リ其他ノ茶ハ其儘ニテ
 之ヲ小サキ臼(木ヲ削リテ製セルモノニテ高サ一尺乃至二尺直徑七八寸各戸ニアリ)ニ入レ小槌様ノ手杵ニテ之ヲ粉
 碎シ之ヲ白湯アル鍋中ニ入レ煮沸シ他器ニ移シ其茶滓ヲ去リ少量ノ乳ト鹽ヲ
 入レテ又煮沸シ茶ヲ入レテ飲用ス
 茶ノ飲用ハ時ヲ定メスト雖モ一日平均三四回乃至六七回ニ及フ興安嶺ノ東南
 部及察哈爾地方ノ大部分ニ於テハ粗末ナル陶器類ノ茶碗ヲ用ヒ貧者ト雖其家
 族ノ人員以上ニ備付クルモ其西北部烏珠穆沁外蒙古等ノ地方ニテハ王公又ハ
 富裕ノ家ニアラサレハ陶器ノ茶碗ナク皆木ヲ削リタル一種ノ碗ヲ用ヒ各自一
 個宛ニテ來客ニ供スル備ナシ外出スルトキハ常ニ之ヲ懷中シ何レノ家ニテモ
 喫茶ニ應セラル、如クス木碗ハ喫茶シ了レハ各自舌ヲ以テ内部ヲ甜メ清ムル

外之ヲ洗フコト稀ナリ蒙古ニ於テモ來客アレハ必ス茶ヲ勸ムルノ風アリテ隣人喇嘛其他何人ノ來ルモ皆圍座喫茶ス

ハ、鳥獸肉ニハ牛、馬、羊、豚、雞其他鹿、兔、野羊、雉子等ノ野生鳥獸肉ヲ用キ牛ハ富者ニシテ大典アルトキニ限り屠殺スルコトアルモ平常ハ只斃死ノ牛肉ヲ食スル位ニテ其用量極メテ少シ馬肉モ斃死ノモノヲ用ユ羊肉ハ各地共尤モ多量ニ用ヒ豚、雞ハ開拓地方ニ於テ僅カニ用ヒラレ野獸肉ハ兔尤多ク狼、野羊、鹿等ハ一部地方ニ狩セラル、ノミ雉子モ少カラス野獸ハ春秋及冬季ニ於テ狩シ夏季ハ少シ

獸肉ハ少量ノ鹽ヲ入レテ味ヲ附ス但シ開拓地附近ニテハ若干ノ味噌又醬油ヲ混用ス獸肉中牛馬又羊等ハ一部ヲ乾肉トシテ貯フ凡テ獸肉ハ皮ヲ剝キ取リテ行商人ニ賣リ必需品ト交換シ又ハ敷物衣類等ニ用ユ

獸肉ヲ煮ルニハ五斤十斤位ノ小片ニ切り分ケタル後沸騰セル白湯中ニ僅カニ鹽ヲ入レ此中ニ肉片ヲ入レ熟煮ヲ待テ取リ上ケ其ソツプヲ飲ミ其肉ヲ食フ然シテ最後ニソツプ中ニ少量ノ粟又ハ黍、飯、飽等ヲ入レ粥様ノモノヲ製シテ食フ肉

ヲ食フトキハ小刀ヲ用ヒ各自與ヘラレタル小片ヲ手ニシテ邦人カ梨又ハ柿等ヲ切食スル如ク細片トナシテ口ニス而シテ小刀ヲ用ユルコトハ甚タ巧ニシテ臟腑軟骨及骨髓等ヲモ餘ス所ナク悉ク之ヲ食フ又タ彼等ノ肉ヲ食フハ副食物トシテ用ユルニアラスシテ單ニ肉ノミヲ食フ故ニ肉ヲ食フトキハ大抵ハ他ノ食ヲ用ヒス

如斯肉食スルモ家畜ハ尤モ貴重ナル財産ナルヲ以テ平常ハ數日又ハ十日位ニ一回其他來客祝祭日等特別ノ場合ニ於テノミ之ヲ屠殺ス

二、雜穀及野菜類 穀物ハ黍ヲ主トシ小麥粉之ニ亞ク開拓地ニ於テハ漢移民ノ用ユル高粱粟等ヲ用ユルコト已ニ記スル所ノ如シ野菜類ハ白菜、葱、胡瓜等開拓地方又ハ其隣接地方ニ於テ食スルニ過キス烏珠穆沁ヨリ西北方ニ於テハ絶テ野菜ナシ而シテ此地方ニハ野生ノ菲アリ稀ニ之ヲ食フ雜穀ハ東南部各地ニ産スルモ西北部ニ産セス

黍ハ梗黍ニシテ東南部ノ產地ト雖モ殆ント野生的ニ耕作スルニ過キス其收穫當時ハ之ヲ「ナミーズ」ト稱シ之ヲ炙リテ臼ニ入レ搗キタルモノヲ「チャフミイ」ト

云フ蒙古人ハ之ヲ「モングバタ」若クハ「ホレバタ」ト稱ス「ホレバタ」ハ前記セル奶子茶ヲ喫スルトキ茶碗ニ入レテ數回茶ヲ入替テ之ヲ食ス西北部ニテハ箸ヲ用ヒサレトモ東南部ノモノハ箸ヲ用ヒ茶ノ量ヲ少シク「ホレバタ」ヲ多ク用フ蓋シ西部ハ土地ニ産セサルヲ以テ甚タ貴重ナレバナリ

「ホレバタ」ハ味ヒ僅カニ苦味ヲ有スルモ香リ良ク少量ニシテ満腹トナルノミナラズ少量ノ水タニ得レバ何地ニテモ用ヒラレ頗ル輕便ナルヲ以テ旅行等ニハ必ス之ヲ携フ

「ホレバタ」ハ如斯輕便ニシテ軍用的ナルヲ以テ或特別ノ場合携帶行糧トシテ代用スルコトヲ得ヘシ旭主計ハ約半ケ年間餘此穀物ト前記乳肉トノミ食シタリジモ敢テ苦痛ヲ感セサリキト云フ

小麦粉又ハ干糧餛ハ王公又ハ富有者等上流一部ニ用ヒラル、ニ過キス而シテ東南部各地ニ於テハ滿漢人ノ如ク或ハ饅頭或ハ餅ニ作り用ユルモ西北部ニ於ハ主トシテ餛餹トシテ食ス鳥珠穆沁アリ西北各地ノ王府等ニシテ皆珍客ニ饗スル馳走トシテ餛餹ヲ供スル風アリ以テ民度ノ低キヲ察知スルニ足ラン

以上食料ノ調味品トシテハ鹽ヲ用ユルニ過キス

庖厨ニ用ユル器具及ヒ食器トシテハ一戸大抵一乃至二三個ノ鍋二三升ロ、水桶、移轉スル遊遊牧民ハ車ニ載セ牛乳桶二三、臼、手杵、略家族數ノ碗ト箸等ニシテ頗ル簡單ナリ猶ホ蒙古人ハ各自平常肉切用小刀及ヒ箸ヲ携帶シ居ルコト嘗テ述ヘタルカ如シ

之ヲ要スルニ蒙古人ノ食時ハ不定ニシテ其食品ハ甚タ粗惡ナリ故ニ日常家ニ在ルトキモ日暮レテ後ニ食ヲナシ晝間ハ屢々茶ヲ飲ム復タ往々食溜メヲナスモノアリテ平常ハ美味ヲ用ヒサルヲ以テ偶々之ヲ得レハ度ヲ過スマテ多量ニ食スルモノモアリ

左ノ記事ハ青海地方ノ事ニ屬スルモ食溜ノ一例ナラン但シ東部蒙古ニ於テカハルコトヲ見ス

米人ロツクヒル「前駐清米國公使カ青海地方ニテ遭遇セル三人ノ乞食喇嘛ハ全氏ノ眼前ニテ瞬ク間ニ二鍋小鍋ナリシナラン」茶ヲ飲ミ四五斤ノ羊肉ト二斤ノ牛酪ト一袋ノ「ツアンバ」黍ナラン」ヲ食ヒ了リ平然タル容体ナリシト

此ノ如キ大食家タルト同時ニ數十時間ノ絶食ニ堪ヘ甚シキ苦痛ヲ感セザルモ亦タ蒙古人ノ特性ニシテ大井ニ利用シ得ベキ所トス蓋シ蒙古人ノ大食ナルト絶食ニ堪エ得ルトカ此ノ如キハ何人モ皆然リトハ云ヒ難キモ畢竟食ヲ得ルコトノ困難ヨリ起レルモノニシテ蒙古人ハ僻遠ノ地ニ住シ物品食物ヲ得ルコト至難ナルヲ以テ其心中ハ常ニ之ヲ得ントスルノ慾念ヲ以テ滿タサレアリ然レバ蒙古人ハ旅客ヨリ金錢ノ贈與ヲ受クルヨリモ食物ヲ與ヘラル、カ若シクハ物品ヲ與ヘラル、ヲ以テ最モ恩惠のナリトシテ感謝スルモノ、如シ酒ト煙草ハ多クノ蒙古人ノ好ム所ニシテ十五六歳以上ノ男子カ蒙古小刀ト共ニ燧石ヲ腰ニスルハ即チ其喫烟家タルヲ示スモノナリ酒ハ前述セル乳酒ヲ用ユルノ外彼等ノ最モ愛好セルハ滿漢人カ輸入スル強烈ナル高粱酒トス酒ノ嗜好ハ一般ニ亘リ且ツ之ヲ愛スルコト甚シク酔フテ狂態ヲ演スルモノサヘ多シ是レ滿漢人ニ見ルヲ得ザル現象トス

ハ、燃料 蒙古ニ於ケル一般ノ燃料ハ獸糞ナリ獸糞中最モ良好ナルモノハ羊及山羊ノ糞ニシテ其乾キタルモノハ容易ニ燃燒シ火力極メテ強シ蒙古人及西

燃料

藏人ハ諸種ノ鐵器ノ製作ニモ亦此火力ヲ用ユ鐵火棒ヲ中ニ置ケバ忽チニシテ白色ヲ放ツ以テ其火力ノ一般ヲ知ルニ足ル

羊糞ニ亞クモノハ牛糞ニシテ又之ニ亞クモノハ馬糞ナリ駱駝ノ糞ハ燃燒惡シク最下等ト目セラル

獸糞ハ牧草地ニ在テハ到ル處發見セラレ旅客モ之ヲ拾ヒ以テ燃料トナス然レトモ濕潤セルモノハ勿論乾燥ノ度不十分ナルモノモ燃燒困難ナルガ故常ニ乾燥セル獸糞ヲ貯存携行スルヲ必要トス

戈壁地帯ノ牧草ニ乏シキ地方ニ於テハ獸糞ヲ得ルコト困難ナリ殊ニ沙漠地方ニ於テ然リトス然レトモ天ノ配劑ハ不可思議ニシテ此クノ如キ地方ニ於テハ灌木生シ住民及旅客ヲシテ之ヲ伐採シ又ハ其根ヲ掘リ以テ燃料ニ用ユルヲ得セシム灌木ハ通常若干ノ高サマテ生長シテ枯死スルモノナルカ故燃料トシテハ極メテ良好ナリ

其他東部ニ於テハ、ネルテンゴロン流域及西喇木倫上流ノ地方ハ樺柏楊柳ノ密生セル箇所少ナカラサルヲ以テ此等ノ地方ニ於テハ樹枝ヲ燃料トナセリ又北

方札資特方面及ヒ庫倫附近ニ至レハ廣大ナル森林ヲ有シ薪炭ヲ得ルコト容易ナリ

又開拓地方ニ於テハ主トシテ高粱稈ヲ用ユ

第三節 住家屋

家屋ハ地方ニ由リテ其構造ヲ異ニスルコトハ既ニ屢々叙述シタルモ本節ニ於テ更ニ其詳細ヲ記セントス

大體蒙古ハ牧畜ヲ生業トスルカ故ニ毎戸廣大ナル地域ヲ要シ之カ爲メ村落ハ集團スルコトヲ許サズ點々散居シ其生業ヲ容易ナラシム故ニ一村落ハ多キモ二三十少ナキハ二三戸ニ過キス而シテ此等ノ家屋ハ互ニ隔離シ軒ヲ接スルコトナシ而シテ村落相互ノ距離モ亦著シク遠隔シ近キモ一二里遠キハ數里又ハ十數里ヲ隔ツル所アリテ其寂寞全ク想像ノ外ナリ故ニ蒙古ニハ開放地ヲ除クノ外全ク市街地ナシ

家屋ノ構造ハ地勢及水草ノ豊否ニ由リ大差アリ由來蒙古人ハ均シク天幕式蒙

古包ニ住シタルモノナルモ人文ノ發達ニ伴ヒ漸次定住ノ家屋ヲ構フルモノアルニ至レリト云フ而シテ現今家屋ノ構造ニ由リ之レヲ區分スレハ大略左ノ如シ

イ、興安岑ノ東南部 此地方ノモノハ殆ント皆移轉セシ是レ水草共ニ潤沃ナレハナリ而シテ開拓地及其隣接地ニアル蒙民家屋ハ大抵滿漢式土塊又煉瓦家ニ住シ其周圍ニハ土壁又柳枝柵ヲ繞ラシ家屋門前ニハ經文ヲ書キタル尺大ノ白又ハ赤布ノ小幡ヲ樹テ家ノ附近ニハ家畜ヲ圍フヘキ土壁アリ家ノ前面又ハ側面ニハ牛糞ヲ小丘ノ如ク高ク積上ケ燃料ニ供ス

又沙漠中及興安岑麓ノ住民ハ蒙古包ニ住シ或ハ蒙古包ニ類スル小土塊小屋ニ住ス此等モ常ニ移轉スルコトナク周圍ニ樹枝等ニテ圍ヲナス牛糞ノ堆積前ヨリ小ナリ小幡ハ多ク家屋ノ屋上ニ掲ケラル家ノ周圍ニ車輛アリ

ロ、興安岑ノ西北部 此地方ハ大抵皆天幕式蒙古包ニ住シ春雪融解ノ頃ヨリ低平地ニ出テ水草ヲ逐フテ移轉ス而シテ家屋ノ周圍ニハ常ニ車輛五六輛乃至十數輛ヲ排列シ常ニ移轉ノ準備シアリテ炎天ニテ草少ナキ時等ハ一所ニ牧養

スルコト三四日ニシテ順次他處ニ轉牧ス冬季結氷スル頃ニ至リ小山ノ陽部ヲ撰ミテ定居ス此レ冬ハ山上ニ草顯ハレ平地ハ雪ヲ吹寄セ草沒スルト且ツ雪ヲ飲料ニ供スルヲ以テ低地ニアルノ必要ナキトニ由ル此等ノ地方ニ於テハ家屋ノ周圍ニ何等ノ固定の設備ナシ只冬季移ルヘキ地ニハ牛糞ヲ集メタルニ過キス

此地方ノ西南部ハ東南部ト同シク漸次文化ヲ蒙リ稍定住スルモノアルニ至レリ以上ハ家屋ノ定住スルモノト移轉スルモノト大別シタルモノナルカ以下此等家屋ノ構造ニ就テ述フ可シ

蒙古包

一、蒙古包 游牧民ハ未タ毫モ往古草味ノ風ヲ脱スルコトナク皆氈幕ノ内ニ起居シ吾人ノ意義ニ於ケル家屋ヲ構成セス其構造ノ如キ甚タ粗惡ナレトモ能ク寒暑風雨ヲ防護スルニ足リ且ツ解體携行ニ便ナルカ故ニ水草ヲ逐テ四方ニ流寓スル爲メニハ最も便利ナルモノナリトス之ヲ蒙古包ト云フ蒙古包ニハ大小數種アルモ普通ノモノハ高サ約十三四尺ニシテ下部ハ高サ約四尺位中徑ハ

家ノ大小ニヨリ七八尺乃至十七八尺ノ圓筒ヲナシ此圓筒上ニ傘形ノ屋蓋ヲ戴ク圓筒部ノ骨ハ經一寸内外ノ柳條ヲ四ツ目ニ編ミシ弧形編條ヲ五個乃至六個連接シタルモノニシテ組立分解共ニ容易ナリ屋蓋ノ骨モ亦柳條ニテ作ラレ其形普通ノ傘骨ニ類シ且ツ自由ニ開閉セラル唯タ尖頭部ニ特別ノ框ヲ附スルノミ

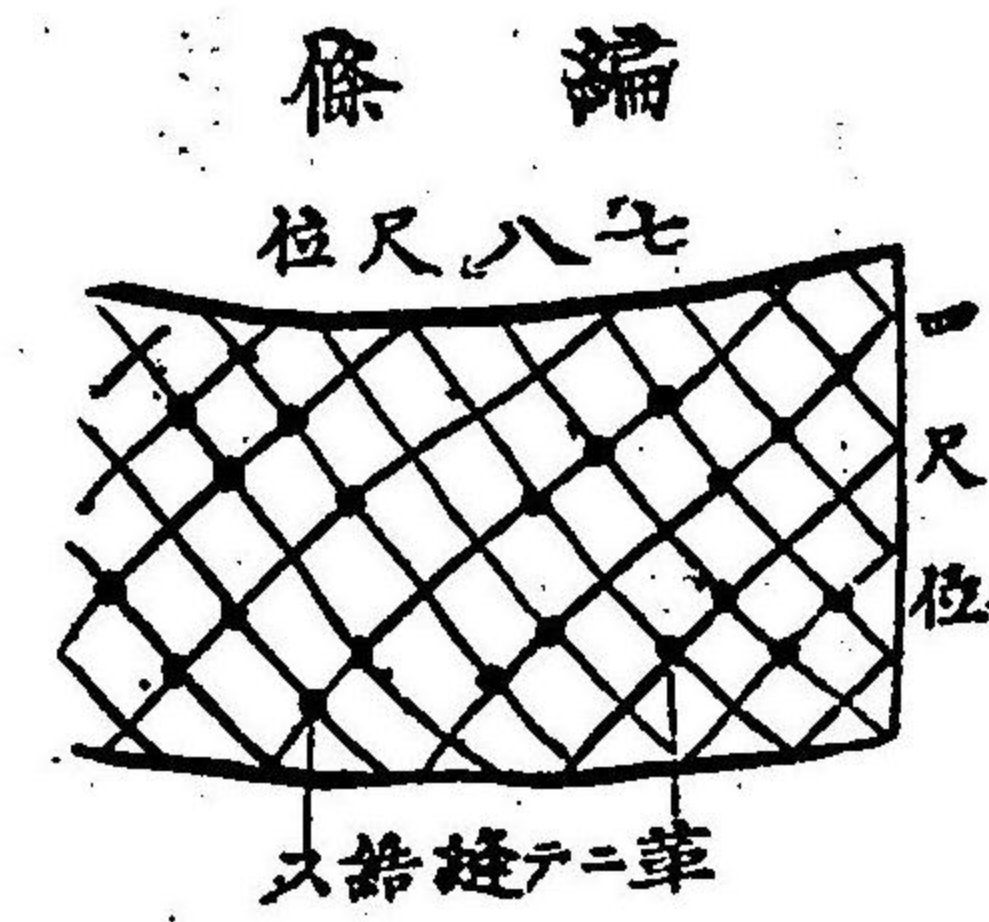
此ク組立テラレシ骨形ノ全部ハ羊毛ヲ重ネテ作レル毡子(毛氈)ニテ一重又ハ二重ニ包マレ其墜落又ハ飛散ヲ防ク爲メ駱駝ノ毛ニテ絢ヘル繩ヲ以テ外部ヨリ上下左右ニ相縛シ尖頭部ニ限リ毡子ヲ游動シ得ル如クシ必要ニ應シ繩ニテ開閉ス開クトキハ光ヲ屋内ニ送り又タ屋内ノ烟ノ逃ヲ容易ニス宛カモ我國ノ家屋ニ於ケル引窓ノ如シ小屋ノ入口ハ凡テ南々東ニ面シ高サ三尺五六寸幅約二尺五六寸ノ框ヲ附シ之ニ二枚ノ小扉ヲ裝ス

又タ木扉ニ換フルニ單ニ絨繒製ノ垂幕ヲ以テスルモノアリ或ハ之ヲ併用スルモノアル等一定セス

烏珠穆沁部及其以北ノ純遊牧地帯ニ於テハ王公ト雖モ猶ホ且ツ此蒙古包ニ

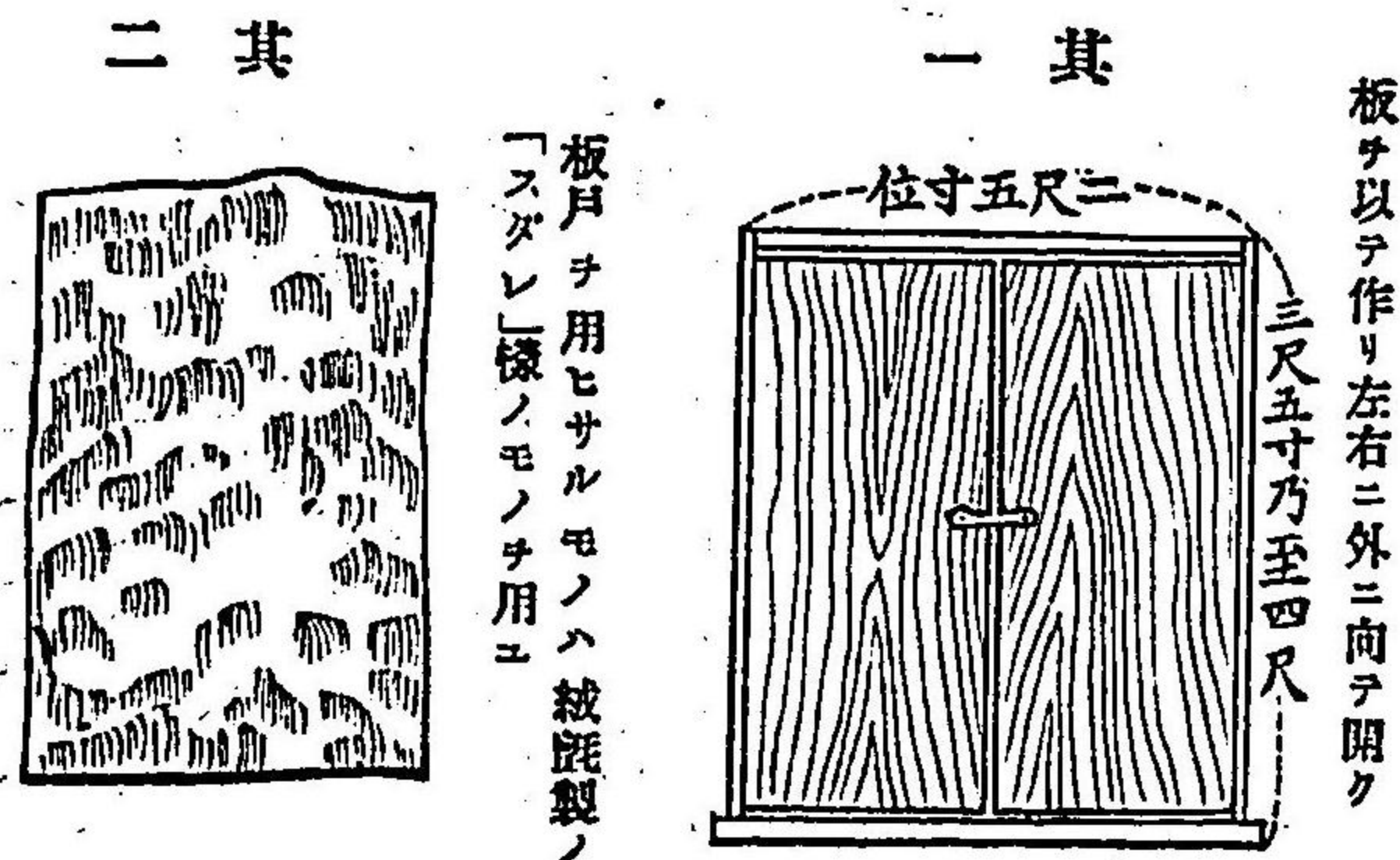
住ス唯タ其異ナル點ハ其形稍大ナルト家屋ノ頂上ニ赤色ノ絨繒ヲ用ユルノ
 左ニ參考ノ爲メ蒙古包ノ圖樣ヲ掲ク

部一ノ造構壁圍包古蒙



蒙古包周圍ノ四壁チナス一部ニシテ
 徑二寸乃至三寸位ノ丸木又ハ角木
 (徑二寸位ハ角木ニシテ大家チ作ル
 ニ用ヒ普通ニアラス) チ用ヒ之チ僅
 カニ曲クノ如ク上部ハ屋根チ受
 クルニ便ナル如ク毎三四寸位ノ方
 形ニ縫ヒ牛皮チ以テ之チ堅クシ其
 兩端チ結ビテ解脫セザル如ク且ツ
 粘轉ノ際多少伸縮出來ル如ク構造セ
 一家チ作ルニ此ノ如キモノ大抵五個
 チ以テシ大ナルモノハ六個チ見ル毎
 片ハ家チ組合ストキ接續スル如クシ
 アリ

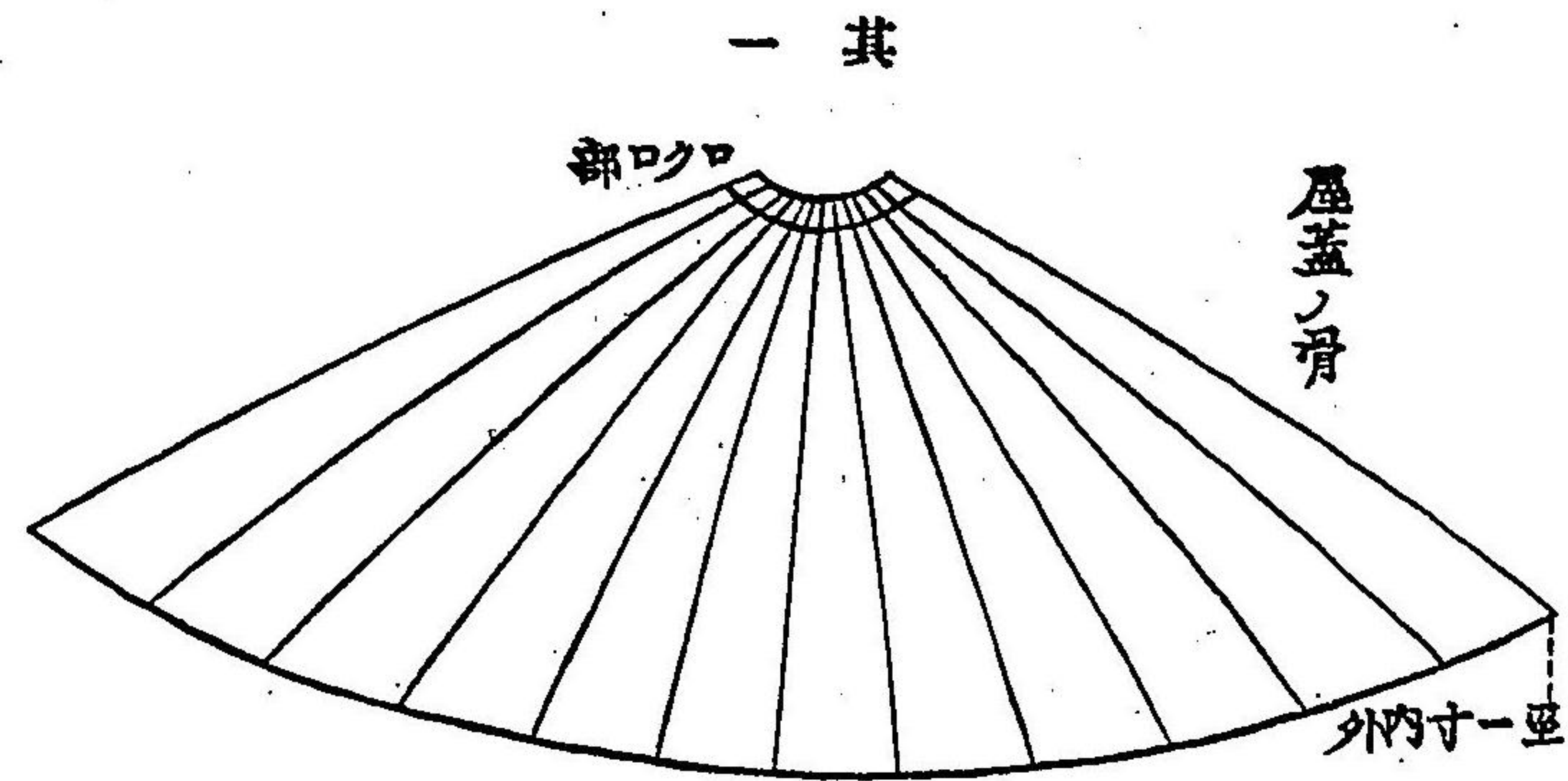
戸門包古蒙



板チ以テ作り左右ニ外ニ向テ開ク
 板チ用ヒサルモノハ絨繒製ノ
 「スダレ」様ノモノチ用ユ

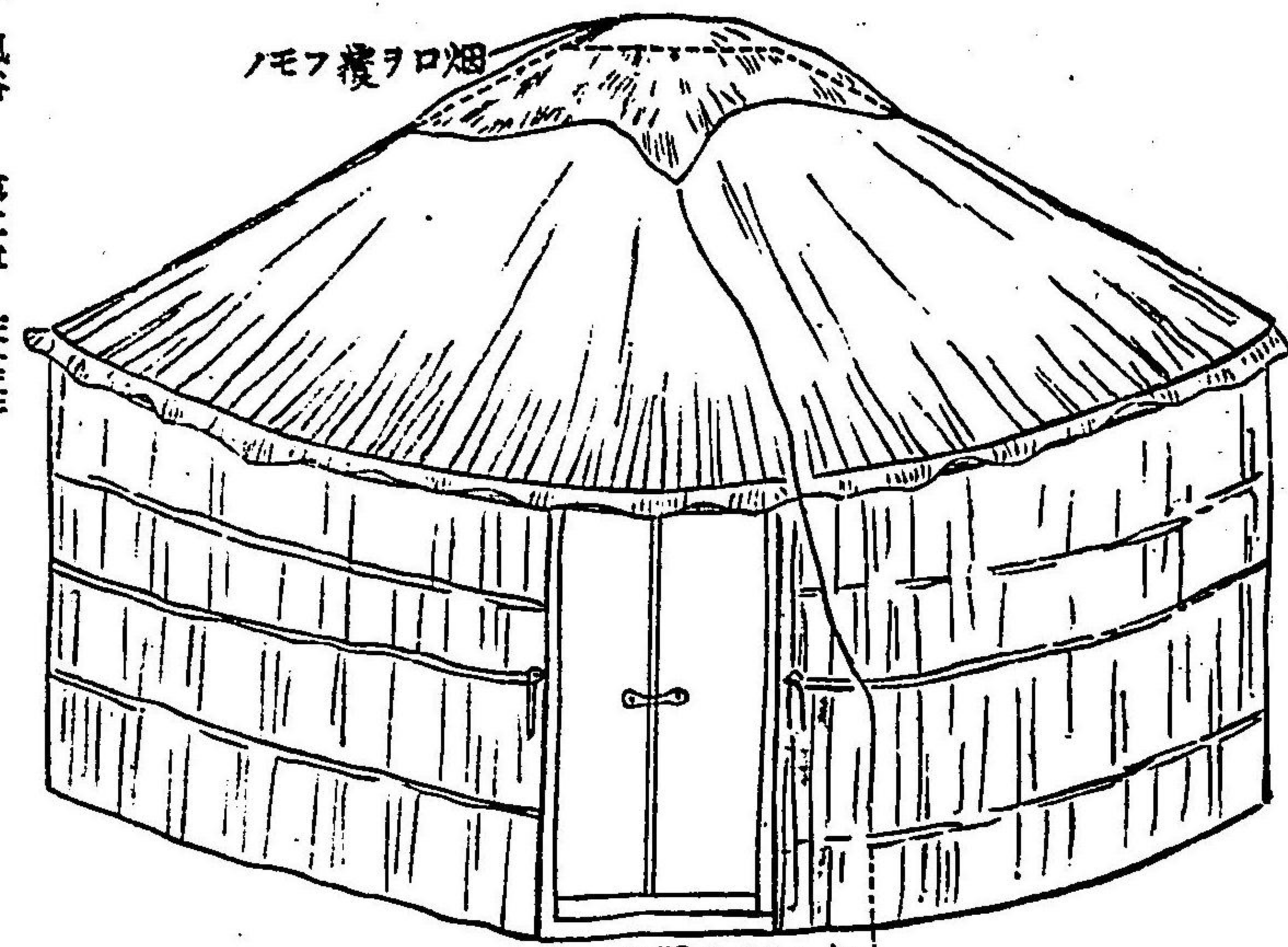
第七編 風俗 第二章 衣食住

造構ノ蓋屋ノ包古蒙



恰モ傘ノ如ク
 開閉スル如ク
 セリ屋根ノ開
 閉ハ上部「口
 ノ」ノ如キ
 部分ニ於テス
 屋根ニ川ニ
 材木ハ細長キ
 丸太ニシテ長
 サ五六尺ヨリ
 家ニヨリ十餘
 尺ニ達ス
 上ノ「口ノ」
 部ハ火チ焚ク
 所ノ煙出シノ
 用チナス降雪
 又ハ夜間ニ之
 チ覆フ

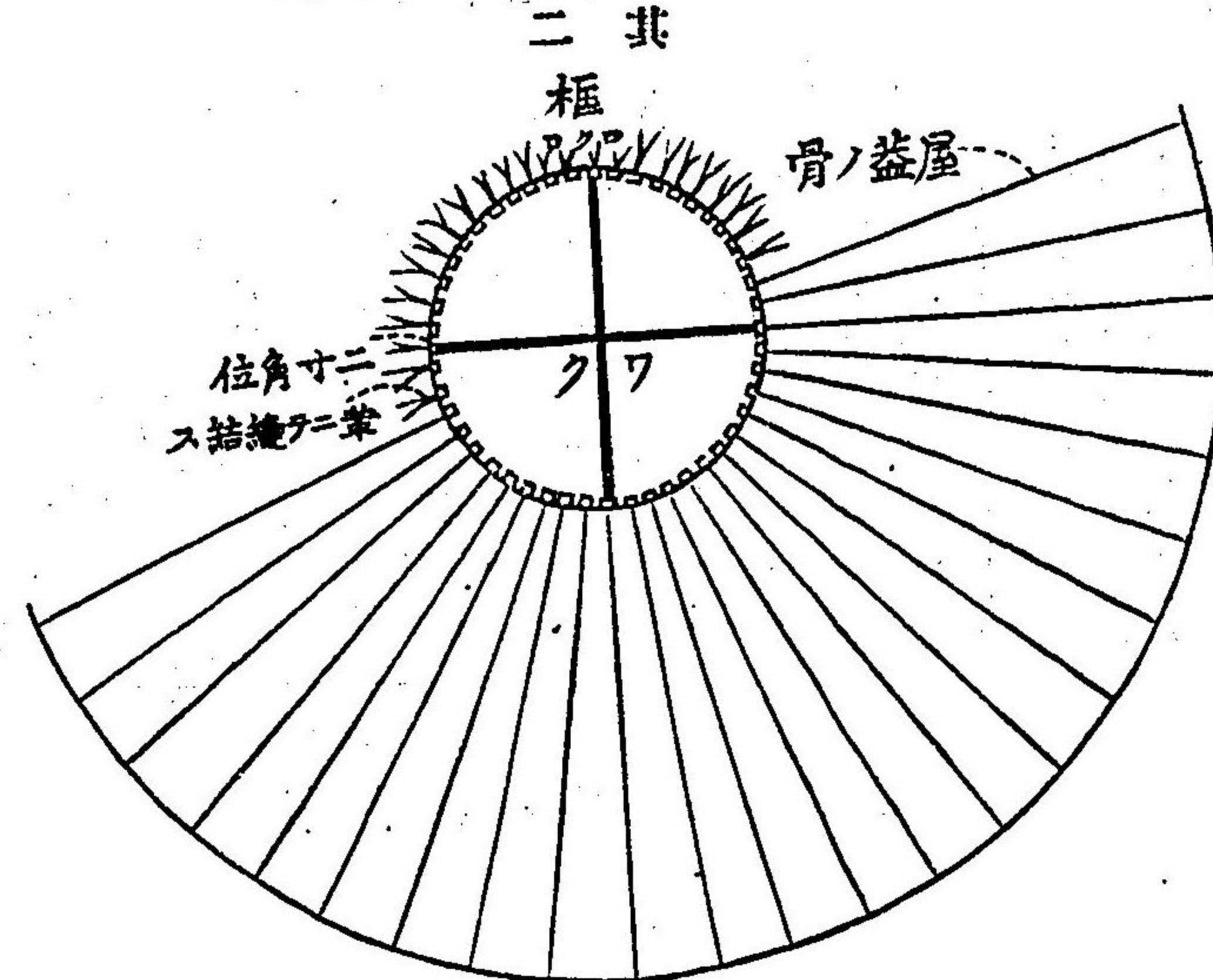
蒙古包完成之圖



スニル開ヲ烟シ知
供用ス開口テニ

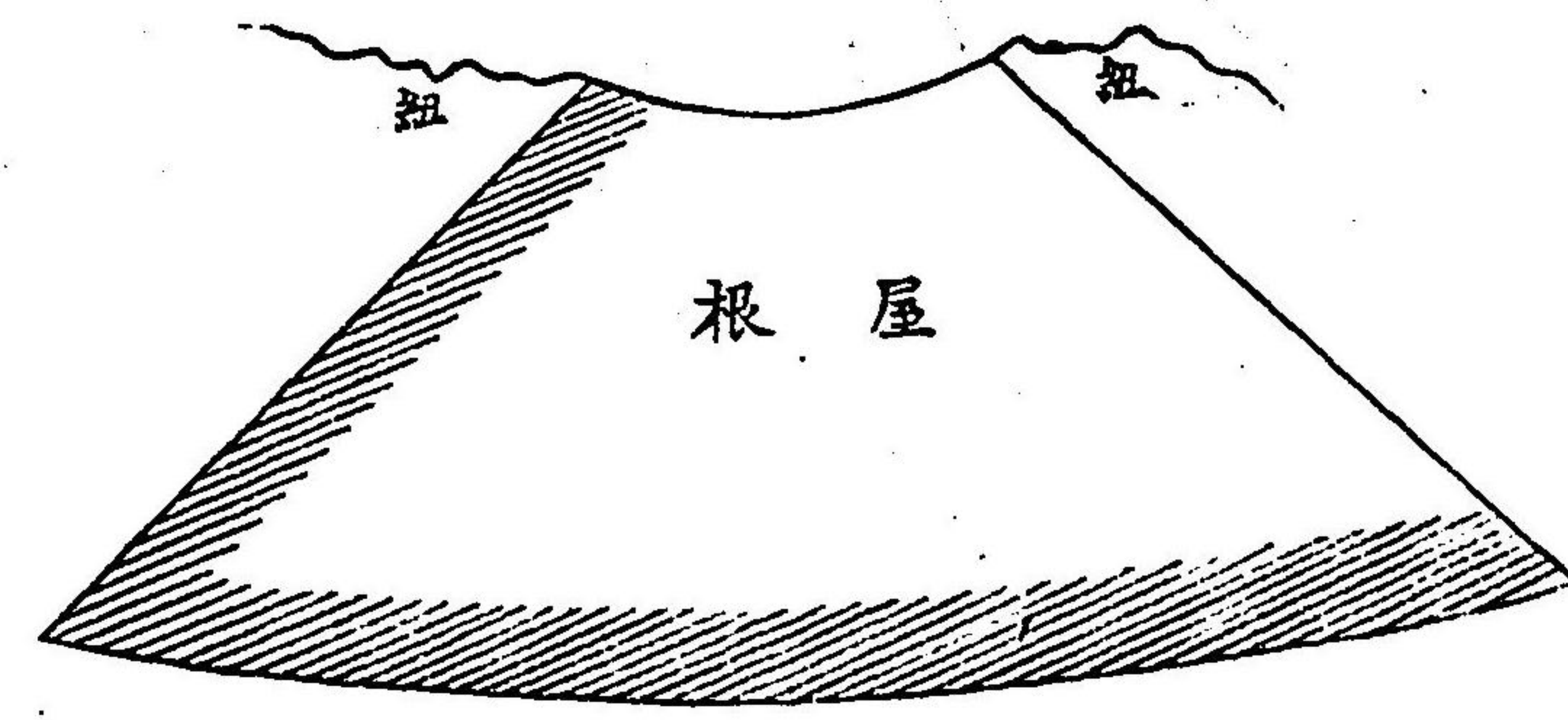
蒙古包ノ圓壁部ヲ被フモノハ凡テ屋蓋被
覆物ト同シ羊毛ヲ以テ製セル粗絨織ナ
巴林、阿爾泰、察哈爾地方ニテハ夏季ニ
於テ蓋又ハ小柳ヲ以テ作レルモノヲ用ユ

屋蓋ノ構造部



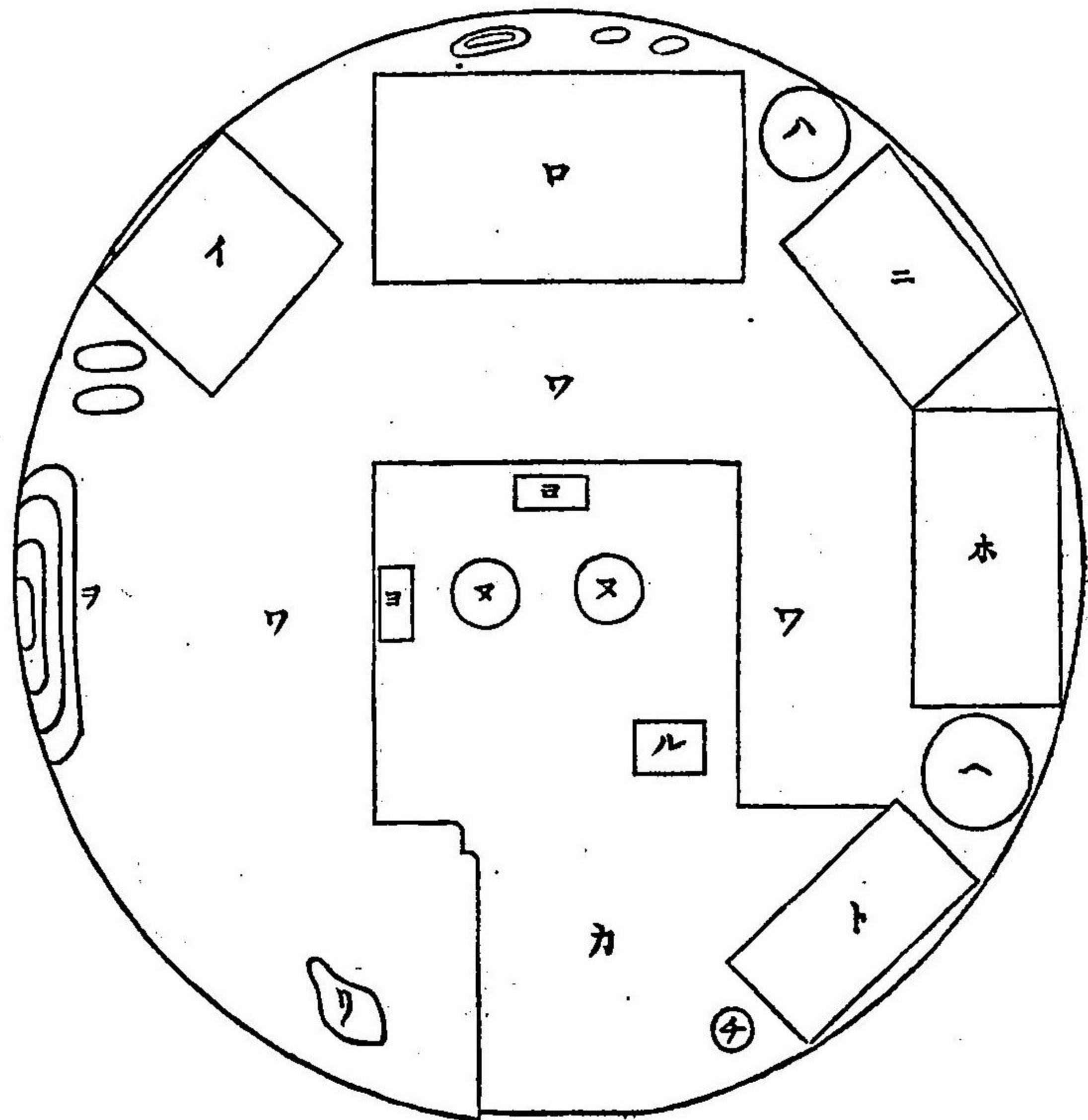
「ロクロ」
部ハ牛皮
ノ細線ヲ
以テ堅固
ニ縫ヒ止
メラル
「ロクロ」
内ノ棒ハ
十字形ア
リ又木
ノ形アリ
凡テ其裡
面ニハ經
文ノ書キ
タルモノ
ヲ貼付ス

屋蓋被覆物



羊毛ヲ以テ製セル粗絨織ヲ以テ屋蓋被覆

略概之列配具家置裝內包古蒙



五七〇

イ、佛壇
 ロ、主人ノ寢臺土間ヨリ一段高キテ常ト
 ス中ニハ暖臺ハ稍高匠ヲ凝セルモノ
 アリ平土間ノモノモアリ
 ハ、木製ノ造酒臺
 ニ、衣類入箱
 ホ、食器置架
 ヘ、牛乳盞(ハ)ニ似タリ
 ト、(ホ)ノ如キ机ニシテ茶入器攪乳器等
 ナ併列ス
 ナ、水桶 通常牛乳ノ容器ト兼用者ハ
 同一ナリ
 リ、空間ナレモ牛又ハ羊ノ幼兒ヲ養フモ
 ノ多シ
 ス、籠
 ル、牛乳入籠(ハ)ヲニテ編メルモノ又ハ
 粗末ナル箱ヲ用ユ
 ナ、不潔ナル寝具及衣類ヲ置ケ
 ヲ、敷物 貧富ニヨリ不同ナレモ牛皮又
 ハ羊皮ノ様サ、ルモノ又ハ絨氈ヲ用
 ヒ更ニ其上ニ長方形又ハ方形(二尺
 位)ノ敷物ヲ置ケモノアリ
 カ、土間ナルヲ常トシ敷物トノ接際ニハ
 木ヲ以テ體裁ヨク境界ヲ作り居レト
 ム移轉列シキモノハ此等ノ設備ナシ
 ヲ、高五六寸位ノ机又ハ代用木ヲ置ケ

茶搗器



オーラ(臼)

木製ニシテ我國ノ餅搗臼ニ似タリ徑六七寸長二尺
 凹深五六寸アリ茶ヲ搗クニ用ヒラル

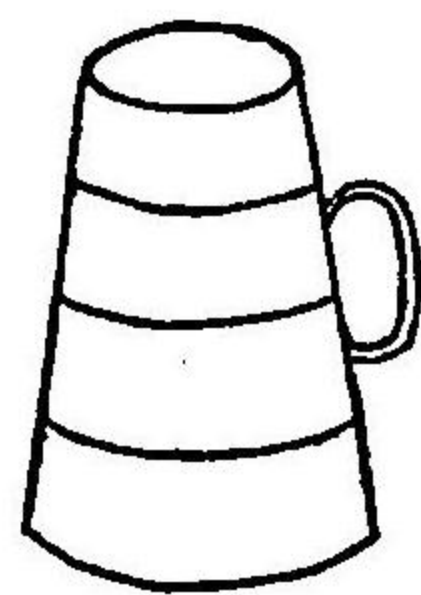
木槌



メシチエ(杵)

此木槌ノ柄ヲ以テ杵トナシ臼ニ茶ヲ入レ粉ニナル
 マテ搗クニ用ユ

茶入器



眞鍮製ニシテ堅牢ナリ

第七編 風俗 第二章 衣食住

釣瓶



木オ(釣瓶)

牛皮ヲ以テ作ル

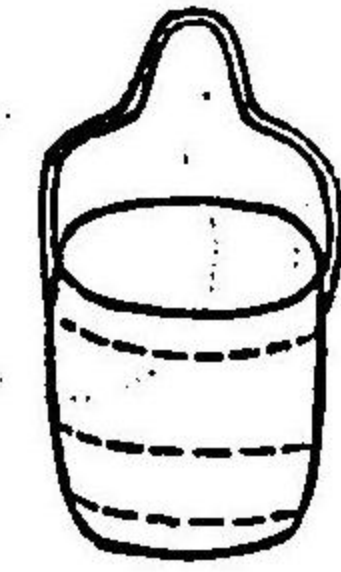
鹿皮製容器



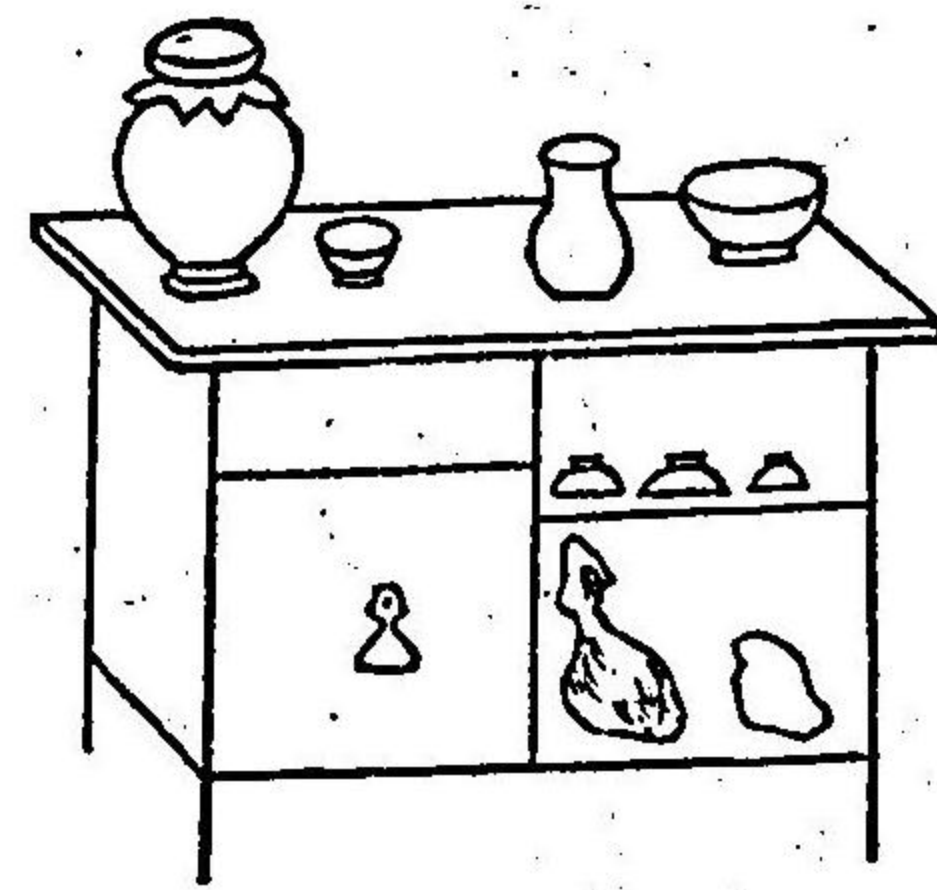
ハタネトルム(袋)

鹿皮等ニテ作り「モンゲン」バタ(チ)容ホリニ用ユ

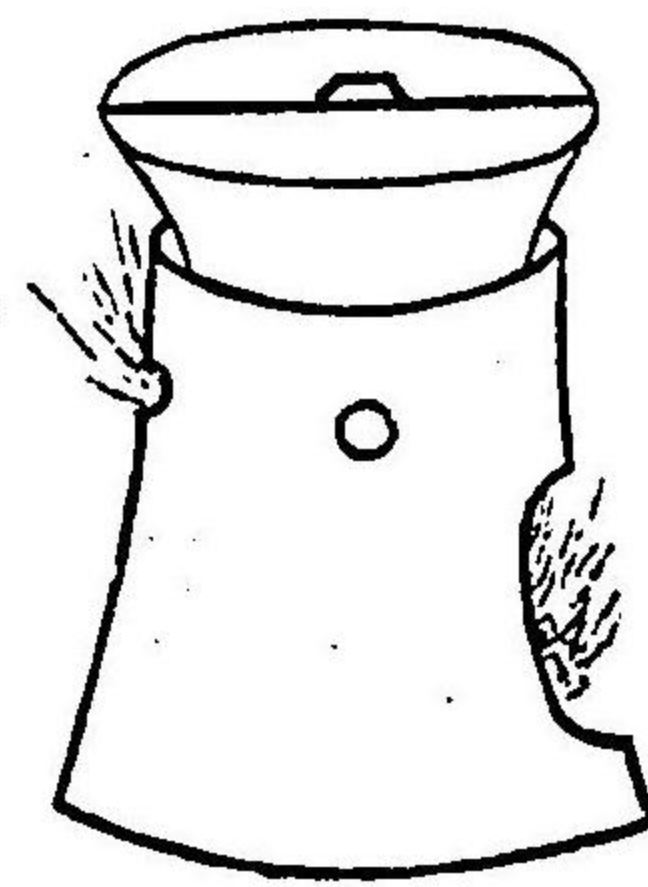
(へ) 器容乳牛



(ホ) 棚置器食



(ヌ) 竈
二其
器土

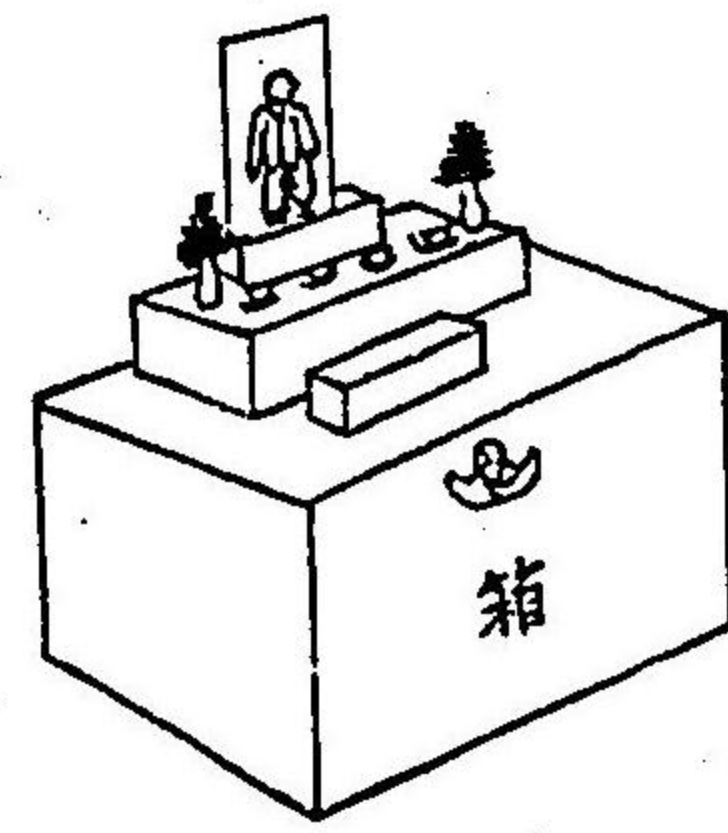


(メ) 竈
一其
器鐵



普通ハ鐵製ノモノヲ用ノモノヲ用ユレド家屋移轉ノ度少ナキ所ニテハ土ヲ以テ造ルモノアリ

(イ) 檀佛



箱ハ高サ二尺位ニシテ内ニ貴重品ヲ收ムルヲ常トシ箱上ニハ佛像ヲ安置シテ以テ佛壇トナス

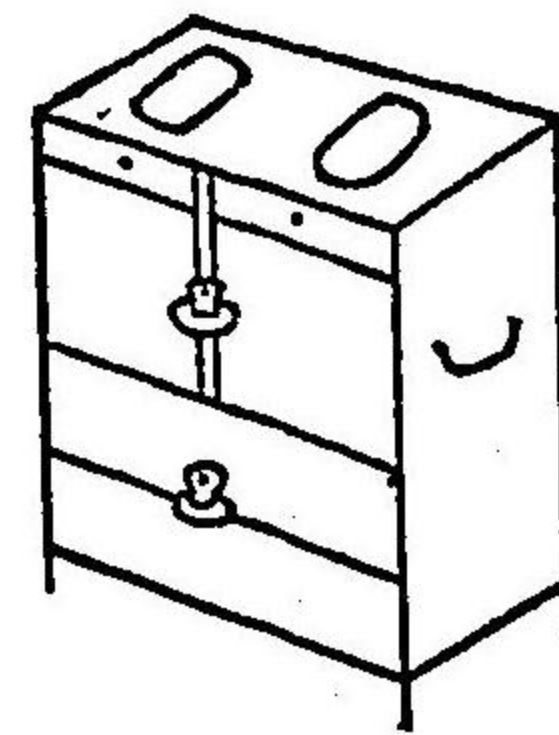
器容製皮牛



家内ニアリテハ乳豆腐等積々ノモノ、容器トナス

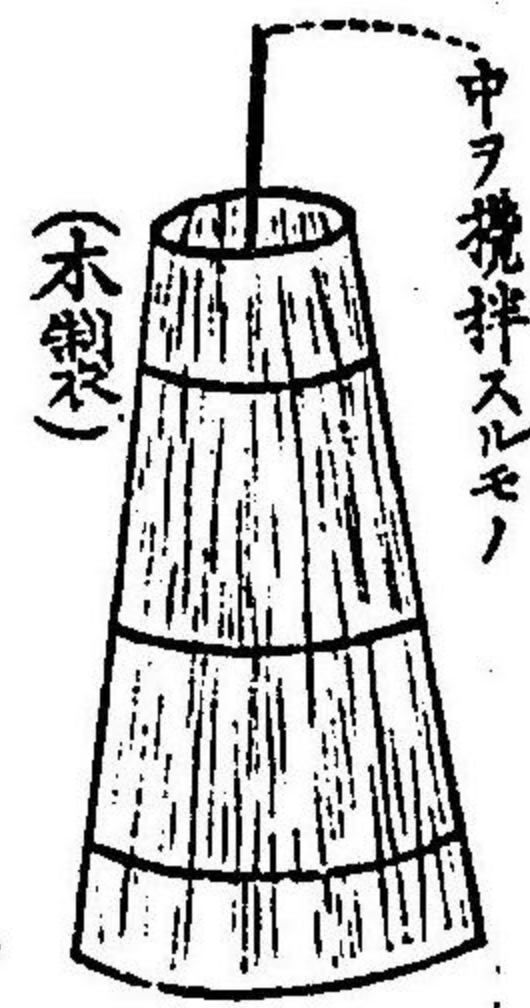
オクタ
(大皮袋 多クハ)
塩ヲ入レテ運搬ニ用フ
八九斗ハノモノ五六斗ハ
モノ等アリ

(ニ) 箱木



衣類等ヲ容ル、ニ用ユ

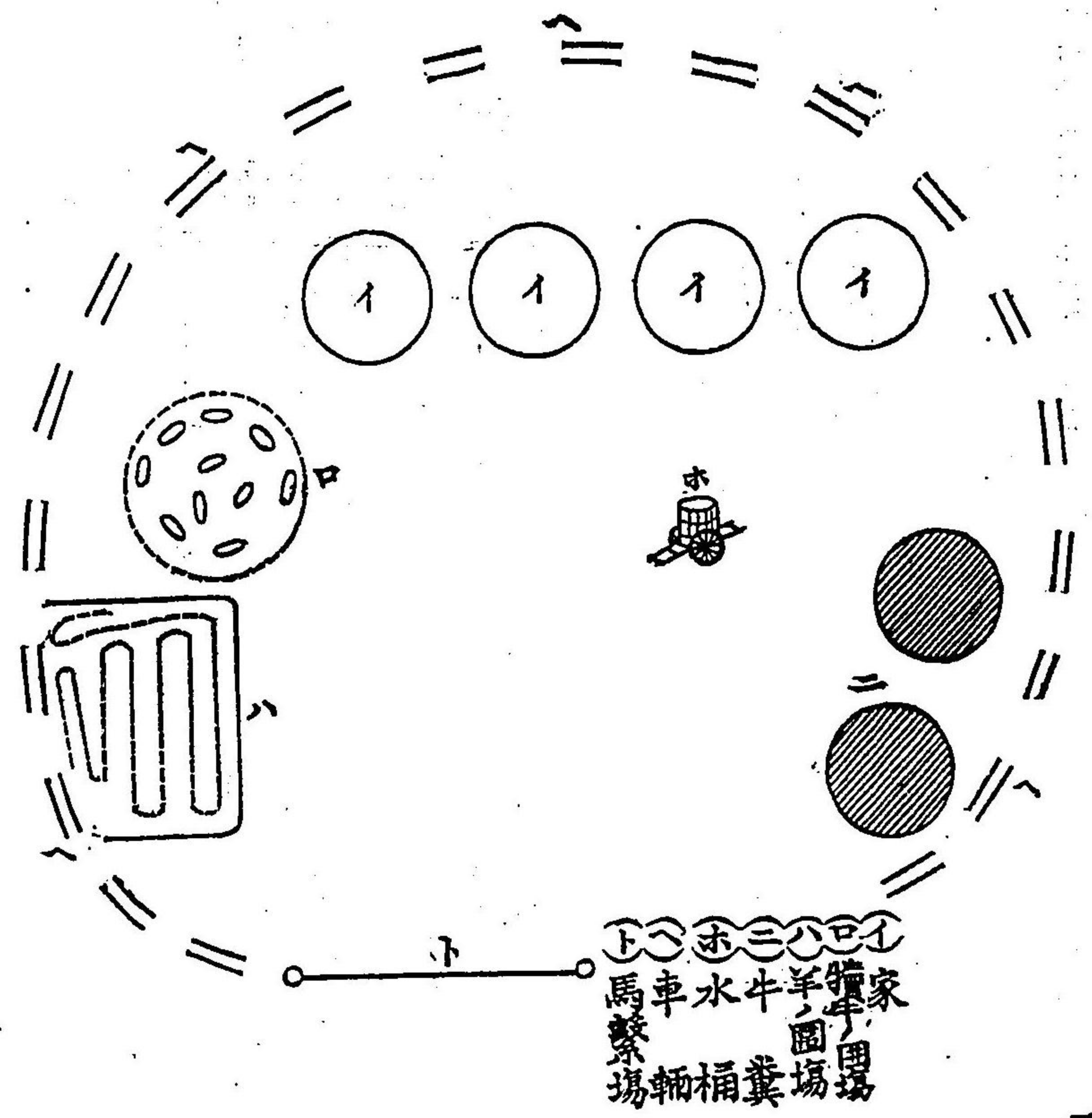
(ハ) 壺ノ製木



酒ヲ作ル爲メ牛乳又ハ羊乳ヲ腐敗セシムルニ用ユ

中ヲ攪拌スルモノ
(木製)

蒙古包周圍之配置



毎戸五六輛乃至十數輛ノ車
輛ヲ有シ之ヲ家ノ周圍ニ排
列シテ外圍トナシ其中ニ家
ヲ編ミ立テ家ノ附近監視ノ
用ク所ニ牝牛及ヒ羊ノ圍場
ヲ相接シテ設ク
又家ノ附近ニ牛糞ノ推積所
ヲ置キテ燃料トス水ハ圖ノ
如ク車ニ桶ヲ載セ牛ヲ使役
シテ日々汲ミ來ルヲ常トス

内部ノ配置ハ土間ニハ中央部ヲ除キ毡子ヲ敷キ富ミタルモノハ正面ニ高坐ヲ
設ケ小屋ニ入りテ左方ハ男子ノ居所ニテ來客ハ此處ニ占位スルヲ禮トス正面
或ハ稍左斜ニ當リテ通常木櫃アリテ其上ニ佛像又ハ活佛ノ寫眞ヲ安置シ其前
ニ佛器ヲ並ヘ乳及肉ヲ備ヘ之ヲ聖壇トシ朝夕ノ禮拜欠クコトナク臥スルモ足
ヲ向クルヲ敢テセス右方ハ即チ婦人ノ居所ニシテ貴重品ヲ納メタル大小ノ櫃
臺所道具水桶及食料品等アリ中央ノ空地ニハ鐵製ニテ一尺餘ノ高ヲ有スル五
徳様ノモノヲ据ユ其中ニ獸糞ヲ盛リテ火ヲ作り或ハ炊爨シ或ハ暖ヲ取ル一個
ノ小屋ハ漸ク四五人ノ居住ヲ與フルニ過キサルト以テ富裕ナル蒙古人ハ如此
小屋數個ヲ有ス彼等ノ此内ニ於テ寢ニ就カントスルトキハ土間ニ敷カレタル粗
毛布ヲ掃ヒテ之ヲ敷布トナシ自己ノ着用セル服ヲ夜具トナシテ所謂着ノミ着
ノ儘唯帶ヲ解キシノミニテ臥スルナリ然レトモ小屋内ニハ一般支那流ノ惡臭ナ
ク唯タ羊肉及乳ノ臭氣ヲ感スルノミ蒙古人ノ不潔ヲ顧慮セサルハ漢人ニ優ル
モ幸ニ住家ハ水草ヲ追フテ常ニ轉徙シ其都度小屋ハ清潔ナル草地ニ立テラル
ハヲ以テ屋内ハ毡子ニ虱ノ繁殖スル外比較的清潔ナリ而シテ此小屋ノ構成ハ

普通婦女ノ職掌ニシテ彼等ハ常ニ遷移スルヲ以テ善ク其事ニ慣レ其動作モ極メテ神速ナリ故ニ瞬間ニシテ其結構全ク終ル如キ實ニ機敏ナリト云フヘシ家具ハ僅カニ二三ノ箱又ハ戸棚敷物及鍋茶碗杓子皮囊水桶木碗鐵架火箸等アルノミ

夏期ハ各々疆界ヲ按シ牧草繁茂ノ處ヲ擇ンテ移住スルモ移住ノ區域ハ略一定シアリテ隨所ニ轉居スルモノニアラス之レ蒙古旗内ノ土地ハ大抵限界アリテ某族ハ何地ヨリ何地ニ至リ某臺吉ハ某地ヲ所有セル等略一定セルニヨリ移住ニ際シテモ又其定マリタル區域内ニ於テ良好ナル水草ノ所在ヲ求ムルナリ故ニ旗界ヲ超ヘテ牧畜スルカ如キハ夫々所罰セラル、規定アリ而シテ彼等ノ斯ク轉徙スルハ概ネ夏季ニシテ之レニ良水ニ乏シキカ爲メニシテ冬季ハ概ネ丘陵ノ陽部ヲ選ンテ居ヲ定メ狼リニ移轉スルコトナシ而シテ冬季ニ用ユル牛糞ハ凡テ夏季ニ於テ採集シ豫メ撰定シ置ケル冬季ノ居所附近ニ堆積シ置クモノトス

トグルクル

二 トグルクル

開拓地隣接ノ地方ニ到レハ移轉式蒙古包ハ漸次固定式トナリ遂ニ支那家屋ト

支那家屋

同様タルニ至ル而シテ蒙古人ハ前記移轉式ノモノヲ「ウルグクル」ト云ヒ固定式ノモノヲ「トグルクル」ト云フ要スルニ「トグルクル」ハ「ウルグクル」ノ進化シタルモノニシテ其外觀ニ於テ差異チキモ固定的構造ニシテ其周圍ハ毡子ニ代フルニ泥土ヲ以テス如斯ハ蒙古包ヨリ家屋ニ移ル中間ニシテ要スルニ支那家屋ヲ構造スルニ材料乏シキヲ以テ止ムナク此ノ如キ雜種ノモノトナリタルナリ照烏達哲里木ノ各盟ニ往々見ル所ナリ

三 支那家屋

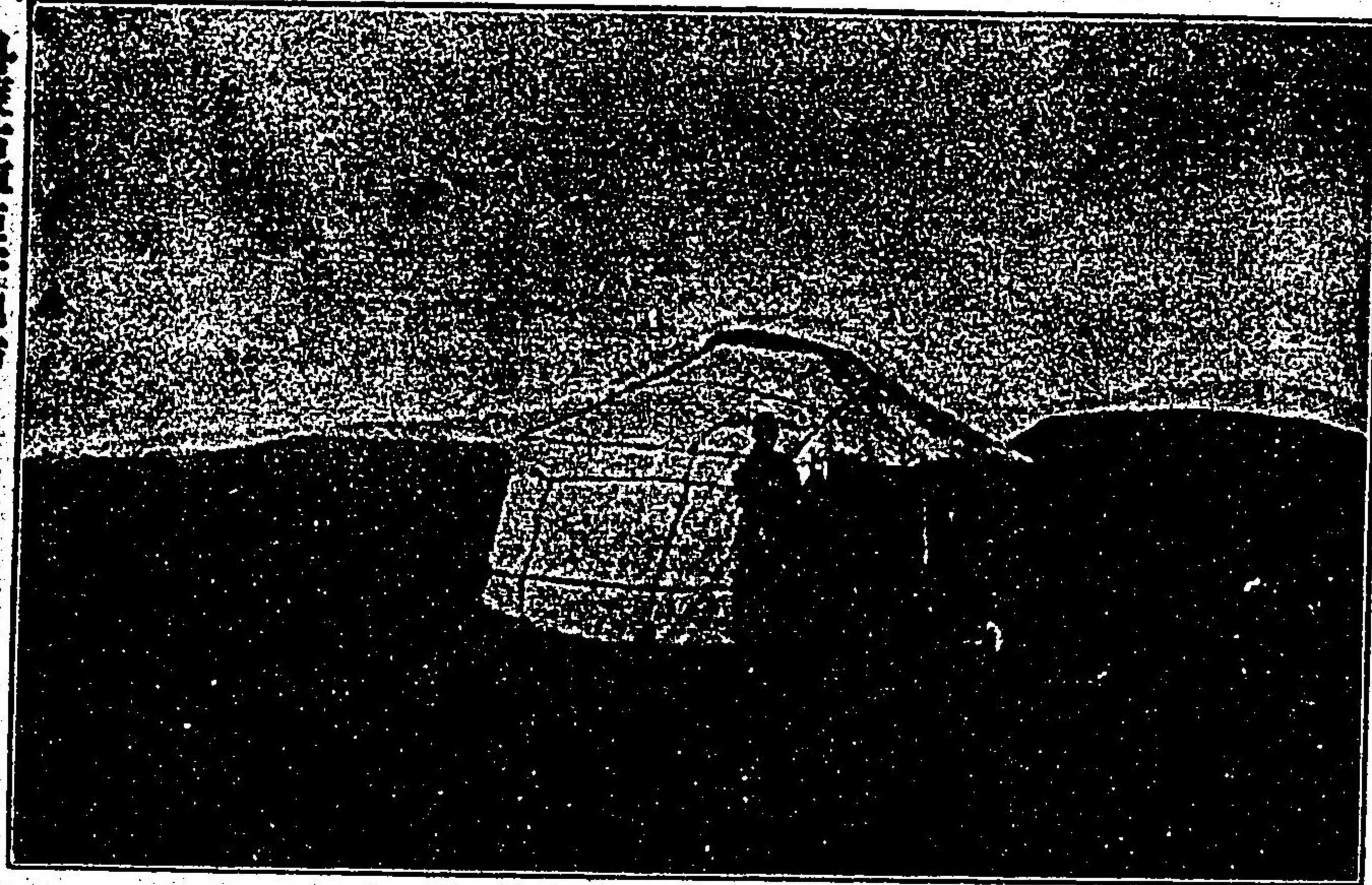
又更ニ開拓地區ニ近ケハ家屋ノ結構ハ皆滿洲式土造若クハ磚製ニシテ唯タ其構造ノ一般ニ宏壯ナラサルト室内ニ於ケル窓牖及坑ノ構成ニ多少ノ相異ヲ見ルノミ即チ滿人家屋ハ窓邊ノ一側ニ坑ヲ通シ時トシテ之レト對向シテ構成セラレ窓牖ハ概ネ南面セル一側ニ設ケラル他側ニ開設スルハ稀有ノコトナリ然ルニ蒙古家屋ハ必ス鈎形若クハ四字形ノ坑ヲ有シ窓ノ數稍多ク設ケラル、ヲ常トス該附近ハ五六戸若クハ十數戸ノ集團スルヲ常トシ三四十戸ヲ算スルモノ少カラス奈曼翁牛特達賴罕賓圖及博王旗下等ナリ

喇嘛廟

以上記スル如ク蒙古民ノ家ハ概ネ矮少ニシテ且ツ集團セサルヲ以テ宿營力甚少シ

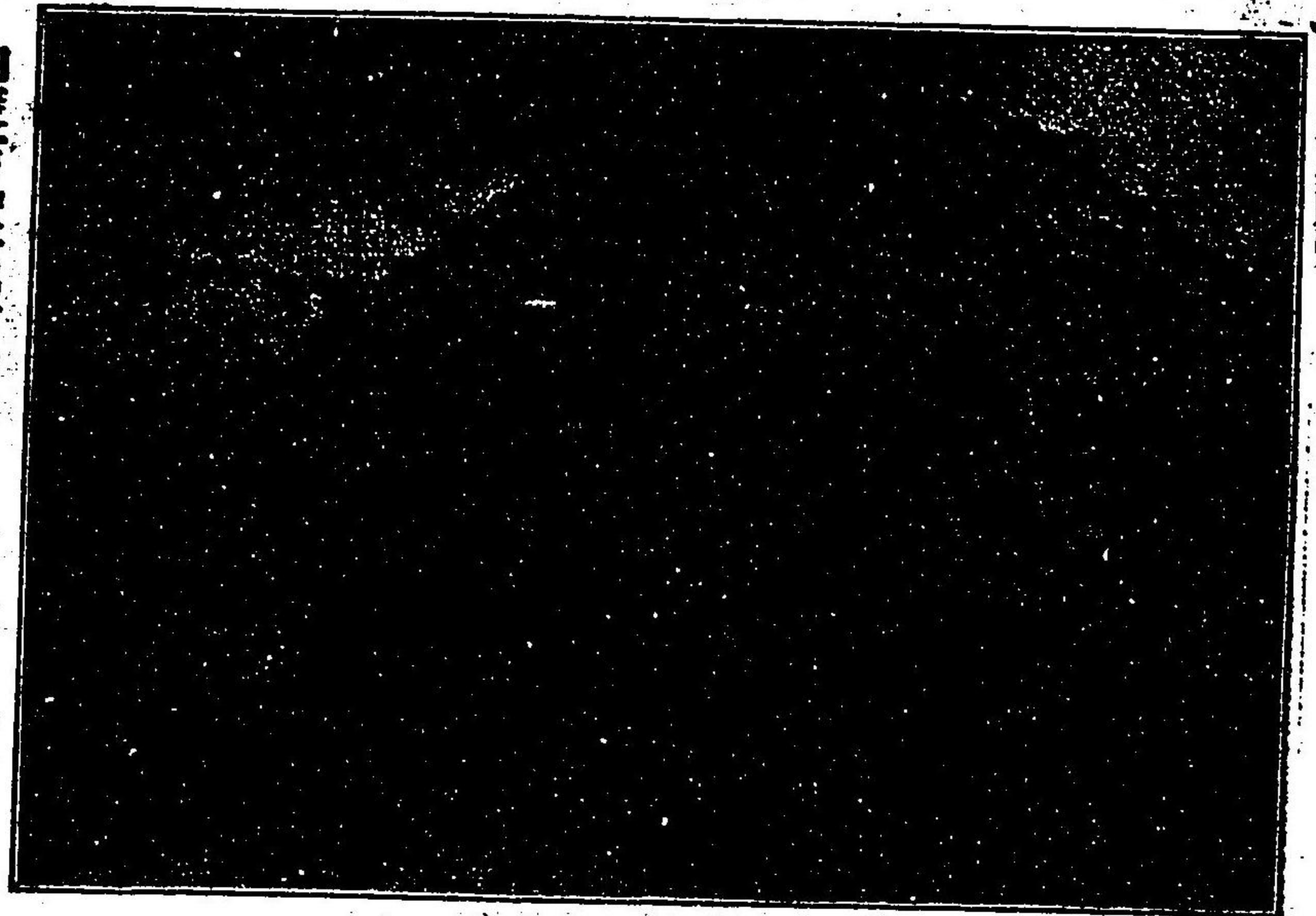
蒙古住民地中特ニ吾人ノ注意ヲ喚起スルハ喇嘛廟ナリ其周圍ニハ大小喇嘛ノ住宅軒ヲ並ヘテ建設セラレ所謂喇嘛街ヲ成形ス該廟ハ蒙古各旗ヲ通シテ殆ント無數ニ建立セラル其結構ハ地方人民ノ貧富ノ度ニ應シテ大小一ナラスト雖モ共ニ景勝ノ地ヲ占メ構造概ネ宏壯清潔ニシテ他ノ蒙古家屋又ハ天幕ニ比シテ頗ル快感ヲ與フ其大ナルモノニ在リテハ戶數數百喇嘛千餘ヲ有シ小ナルモノト雖モ戶數二三十喇嘛百人ヲ下ラス而シテ其附近ニハ喇嘛信徒タル土人ノ張幕居住スル者比較的多數ニシテ且ツ一ニ行商清人ノ天幕ヲ見ルヲ普通トス故ニ該廟ハ他ノ蒙古部落ニ比シテ宿營力アルノミナラス諸多ノ便宜ヲ得ル望ミアリ唯困難ナルハ草秣ノ徵收之ナリ蓋シ該廟ハ固定的ナルヲ以テ附近ノ牧草ノ缺乏スルハ當然ノ事ニ屬スレハナリ

喇嘛廟ノ構造ニ就テハ既ニ宗教ノ篇ニ詳述セル如シ



(ノモルメ包ヲニ子毡季冬)包古蒙

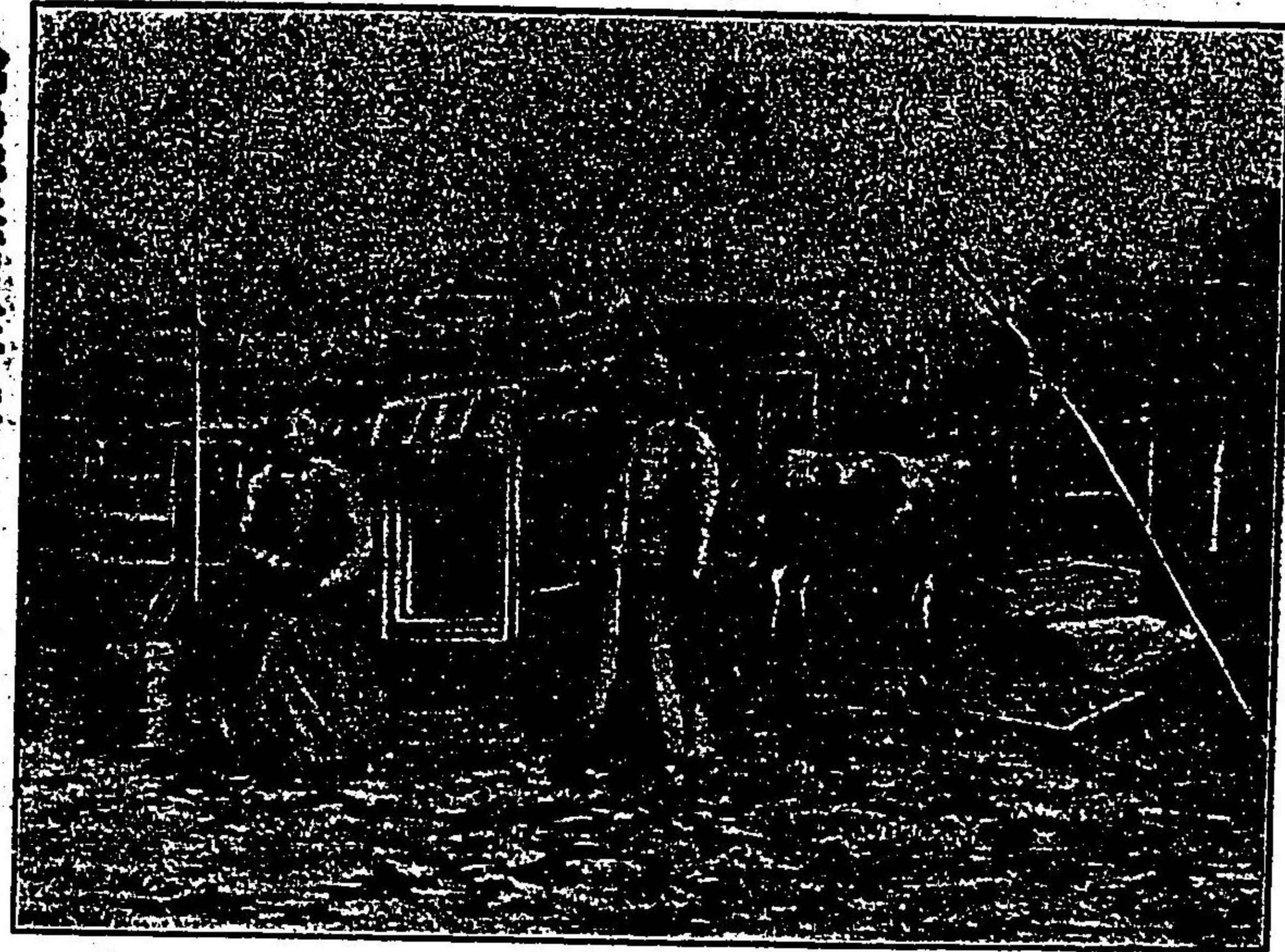
外蒙古草原地方



(ノモルメ包ヲニ等草季夏) 上 同

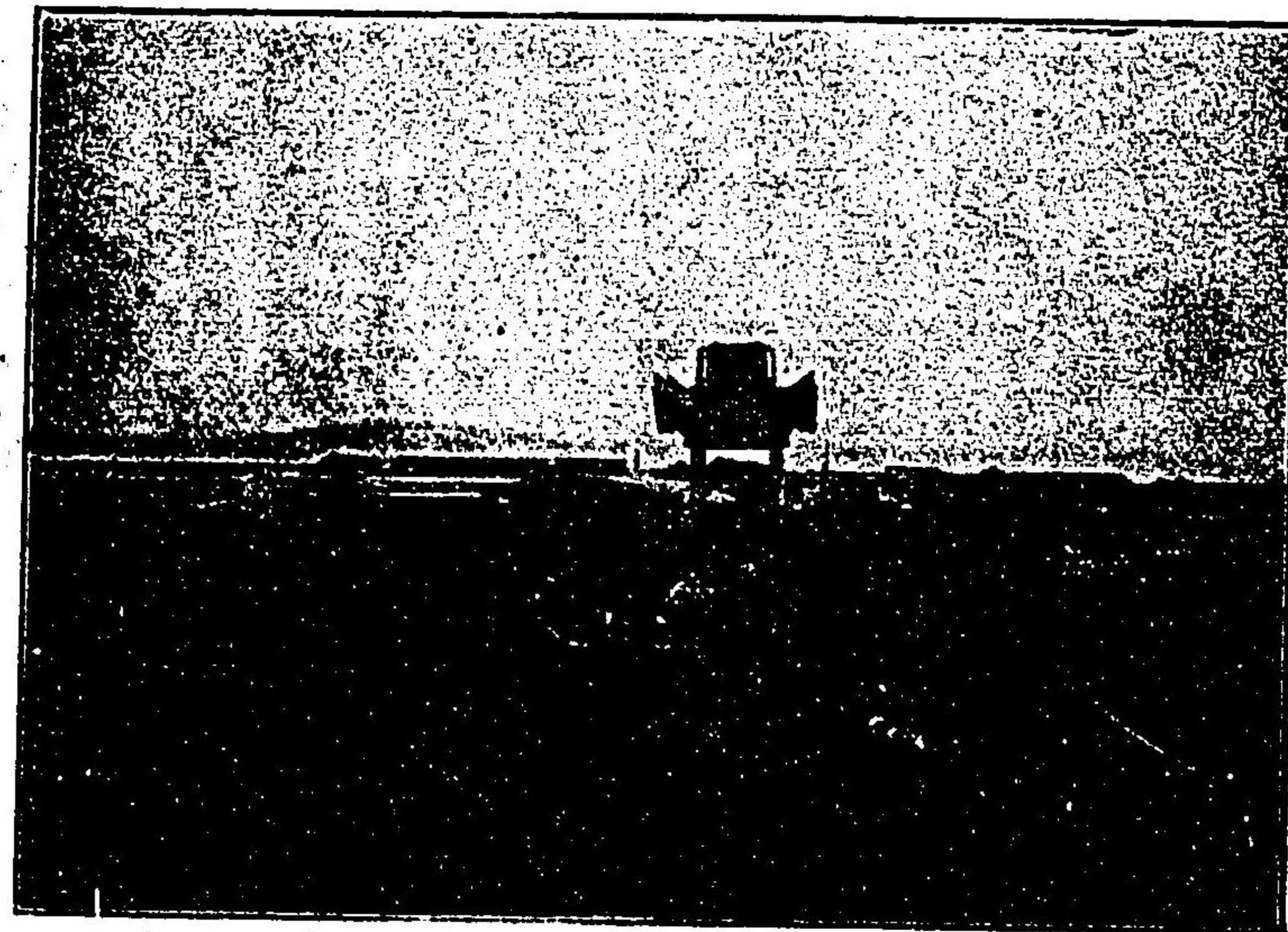
内蒙古巴林地方

昭興池及菅里木地方



ノクノグト

長安門ノ景



屋家其及城土那支

上巻五ノ五二

昭興池及菅里木地方

長安門ノ景

第三章 冠婚喪祭

衣食住ノ状態已ニ前章述フルカ如シカ、ル低度ノ社會カ、ル貧窮ノ土地ニ於ケル諸典式カ單純ナルヘキハ多言ヲ要セサル所ナリ
凡テ吉凶共ニ喇嘛ヲ請シ其言ニ從フ而シテ又タ吉凶共一族親戚相合シ眞實喜憂ヲ共ニス所謂文明國ナルモノ、人情浮薄ナルニ比スレハ誠ニ羨ムヘキモノアリ

第一節 婚姻

蒙古ノ婚姻ハ滿漢人ト同様早婚ナリ十六歳以上ノ男子ニシテ有妻ナラザルモノ尠シ概シテ婦人ハ男子ヨリ二三歳若シクハ四五歳年長ナリ婚姻ハ當事者男女ノ間ニ知ルナク父母ト媒介者ニヨリテ決定セラル、コト支那本部地方ト異ナラズ而シテ通常女家ヨリハ何物ヲモ贈ラス只男家ヨリ女家ニ贈物スルノミ其婚事ノ約束ハ買賣的ナル故ニ男家ヨリ贈ル物品ハ畢竟女ヲ買フ爲メノ代金タルガ如シ約束成ルヤ女ノ父ハ親近ノ者ト共ニ男ノ家ヲ訪ヒ小屋ニ入ルヤ佛壇ノ前ニ拜伏シ佛前ニ羊頭乳絹布等ヲ供フ次ギニ男ノ家ヨリ供スル食膳ノ

馳走トナル入興ノ日ハ喇嘛ニヨリテ指定セラル此日新郎ノ家ヨリ人ヲ出シテ
 新娘ヲ迎フ迎ノ者ハ新娘ノ家ノ入口ニ達シテ待ツ新娘ノ親戚朋友ハ戸前ニ出
 テ圓形ヲ作り女ノ出テ行クヲ拒ム如キ態度ヲ爲ス新娘ハ戸前ニ於テ馬ニ乗セ
 ラレ自己ノ家ノ周圍ヲ三度廻リタル後疾驅新郎ノ家ノ方向ニ導カレ定メノ小
 屋ニ着ク此小屋ハ新郎ノ父ノ家ノ近傍ニ豫メ設ケラレタルモノニシテ此時近
 隣ノ蒙古人及双方ノ親戚朋友ハ婚宴ニ來リ贈リ物ヲ成ヌ次ニ新婦ノ仕度終
 ルヤ先ヅ舅姑ニ紹介セラレ佛像ニ禮拜ス此時喇嘛ノ讀經アリ次ニ新婦ハ窻ニ
 伏拜シ終リニ新郎ノ父母並ニ親戚ニ禮拜ス新郎モ亦近傍ノ小屋ニ集マレル新
 婦ノ親戚一同ヘ同様ノ禮拜ヲ爲シ夫ヨリ宴會トナル此宴ハ七八日モ續クルコ
 トアリテ脂肉酒煙草等ハ最モ盛騰ト考ヘラル時トシテハ宴席ヲ莊重ナラシム
 ル爲メ樂師ヲ招キ歌ハシムルコトアリ
 離婚ハ何等ノ形式モナク極メテ無難作ニシテ唯タ夫ニ於テ離婚ヲ望ムトキハ
 妻ヲ實家ニ追ヒ返シ單ニ離婚スル旨ヲ妻ノ兩親ニ申送レハ足レルノミ
 女子ヨリスルモ亦然リ此場合ニ於テハ唯婚家ヨリ贈ル所ノ一部分ヲ返還セサ

ルヲ得ス既ニ離婚セシ以上ハ男女亦タ隨意ニ再婚スルヲ得ヘシ
 婚姻ニ關シ大清會典ノ定ムル所ニヨレハ通常結納物ハ馬二頭牛二頭羊二十頭
 ヲ最大率トシ之ヨリ少ナキモノハ聽スモ多ク取ルモノハ罰セラル凡テ結婚決
 定後男死スレハ全部返還シ女死スレハ半分ヲ返還スルモノトス又王公以下結
 婚後ニ至リ其婚姻ヲ悔ミ又ハ他人ノ婦女ヲ奪娶スルトキハ夫々所罰セラルト
 アリ

今蒙古ニ於テ實見セル婚姻ノ狀態ヲ舉ケン

婚姻ノ時季ハ三四月又ハ八九月頃ニ多シ婚姻ノ贈物ハ規定ニ由ラス或ハ多ク
 或ハ少キコトアレトモ大抵ハ規定ヨリ多キカ如シ現ニ圖什業圖旗ニ於ケル某
 臺吉ノ一子(十四歳妻二十歳)ヲ迎ヘタルトキノ如キ銀二十一兩馬三頭牛二頭ヲ
 用ヒタリ第二日招待ヲ受ケタルトキハ前記ノ式ハ了リタル後ナリシモ親戚一
 族相會シテ酒宴ヲ催シアリタルカ吾一行ノ着スルヤ先ツ從者ニ酒肴羊肉ト酒
 ヲ運ハシメ置キ新郎新婦共ニ出テ來リ「ハタブ」ト稱スル禮式ニ用ユル絹ノ小片
 ニ恭シク酒ノ充テタル杯ヲ添ヘ一行ニ一杯ヲ呈シ呈シ了テ兩膝ヲ折テ跪座

シ三叩九拜シ更ニ立テ酒ヲ勸メ外國人ト知テ毫モ臆スルノ色ナク尋テ新來客ニ挨拶シ同リ歡聲沸クガ如クナリシ
 夫婦家ニアルトキ并ニ家外ニアルトキモ婦ハ萬事夫ノ處理ニ任カモ敢テ容喙セズ即男尊主義ナレトモ人ニ由リ一概ニ言ヒ難シ又男子ハ正妻ノ外妾婦ヲ置クノ自由ヲ有スルモ家政ノ事ハ皆テ正妻ノ管理ニ任セ妾婦ノ容喙ヲ許サス而シテ妾ハ正妻ト共ニ一家室内ニ同居シ總テ其命令ニ服從シ之ニ背ク事ナシ而シテ正妻ノ妾ニ對スル恰モ姉妹ノ如キ關係ヲ有シ一家能ク和合圖樂ス妾ヲハカエメト云フ又タ生子モ嫡庶ノ別アリテ嫡子ハ家督相續ノ權ヲ有スレトモ庶子ニハ相續ノ權ヲ與ヘズ唯タ王公ノ許可ヲ得テ實子トナスコトヲ得ルノミ
 出產ニ對シテハ吾國ノ如ク助産婦アリ多クハ一族又ハ近隣ノ婦女ニシテ特ニ產婆ト稱スルモノナシ産兒ハ此助産婦ノ手ニテ拭清セラレ布片ニ包ミ草根木皮ノ液汁ヲ飲マシメ産婦ノ看護ヲナス又タ出產後一ヶ月ニシテ喇嘛僧ヲ請ヒテ祝福ノ祈禱ヲ爲シ又村内重ナルモノヲ招キテ會食ス

第二節 葬式

葬式ノ方法ハ地方ニヨリテ小異アルモ大體三種ニ別ル即チ(一)棺ニ納メテ埋葬スルモノ(二)死屍ヲ野ニ晒スモノ(三)火葬シテ其骨ヲ靈地ニ納ムモノ是ナリ第一ノ法ハ邊疆長城附近ニ於ケル蒙古人ノ習慣ニシテ支那風ニ學ヒタルモノナリ最モ普通ナルハ第二ノ法ニシテ死屍ヲ山頂又ハ谷底ニ運ヒ之ヲ放置シ狼等野獸ノ啄噬ニ任スルニアリ
 是レ喇嘛教ノ教義ノ然ラシムル所ナランモ畢竟遊牧地帯ニ在リテハ生活上ノ必要ニ迫ラレ轉々移住シ居々定住ナキヨリ土着人ノ如ク特ニ墓地ヲ守リ其追善供養ヲ爲スニ堪ヘサルノ致ス所ナラン然シテ放置後三日ニシテ野獸ノ食セルヤ否ヤヲ確メ若シ食セサルトキハ更ニ喇嘛ヲ請シテ讀經追吊スト興安岑ノ西北部及東南部ノ山脈地附近ニ行ハル
 第三法ハ稍々富ミタルモノ、間ニ行ハル其茶毘ニ附セラル、ヤ喇嘛ヲシテ讀經セシメ全ク燒ケ終ルヲ待チ骨ヲ拾フテ大喇嘛ノ許ニ持行ク大喇嘛ハ之ヲ粉

墓標

ニ碎キ麥粉ト共ニ練リテ餅ノ如クニ作り儀式ヲ以テ靈塔ニ收メ或ハ之ヲ奉シテ五臺山(山西省ニアリ)ノ靈地ニ納メシム

凡テ百日忌ニ百日忌ニ際シテハ喇嘛僧ヲ請シテ供養ヲ行フ

歸化城附近ニテハ屍ヲ框ノ上ニ置キ馬ヲシテ之ヲ曳カシム屍若シ墜落セハ之ヲ放置シ狼又ハ野鳥ノ食フニ任セ若シ然ラサレハ之ヲ火葬シ其灰ヲ以テ小ナル人像ヲ作り之ヲ家中ニ保存スト云フ

凡テ蒙古ニ於テハ墓標ヲ見ルコト稀ナリ興安岑ノ西北部ニ於テ特ニ然リトス是レ死體ヲ放置スルカ爲メ特ニ墓標ヲ建ツルノ必要ナキニ因セン乎墓標ヲ存スルハ公主王公及有福ナル臺吉并ニ大喇嘛等ニ限ルモ是等モ興安岑ノ東南部ニシテ其西北部ニ於テハ殆ント全ク之ヲ見ル能ハス或蒙古人ハ曰フ蒙古ニモ墳墓ナキニアラサレトモ尊嚴ナル王公ニテモ地上僅カニ數尺ノ土饅頭ニ過キサレハ旗民ノモノハ地平ト均シキナリト然レトモ是レ一ノ曲言ニ外ナラス

王公又ハ公主ノ墳墓ハ通常大ナル水瓶ヲ伏セタルカ如キ形ニシテ石灰ヲ塗リ附近ニ樹木ヲ植ユ

第三節 娛樂

角力

樂器及歌謠

蒙古人ノ娛樂トシテ數フヘキモノハ僅カニ角力唱歌及單一ナル音樂競馬等アルノミ

一 角力 角力ハ彼等ノ最モ好ム遊戲ノ一ニシテ往古ヨリ之アリ現時北部蒙古ニ盛ナリト云フ而シテ鄂博ノ祭日等ニ際スレハ必ス此技ヲ行フ力士ハ我國ノ柔術衣ノ如キ皮製ノ短衣ヲ着ケ長靴ヲ穿テ東西ヨリ一人ツヽ登場シテ力ヲ角ス別ニ土俵ノ設ケナク倒レタルモノヲ以テ負ケトナス日常ニ於テモ其部落ニ二三ノ少年相集マリテ力ヲ角スル光景ハ長城以內ニ見ルヲ得サル所ニシテ一種ノ趣ヲ存ス

二 樂器及歌謠 樂器ハ鼓弓月琴(清國ノモノヨリ形稍大ナリ)等ニシテ就中鼓弓ヲ多シトス其音律太クシテ低ク西歐ノモノニ似タリ而シテ數人相集マレハ之ヲ彈シ合唱ス大抵一村落ニ二三ノ樂器アリ

蒙古歌謠ノ本色ハ男女ノ戀愛ヲ意味シ鄙猥ニ流ルヽモノ多キカ如シ

或種ノ歌ヲ選ヒテ其内容ヲ聞クニ昔某王一姫ヲ寵愛シテ至ラサルナシ然レトモ其姫喜ハス心窃ニ一小喇嘛ヲ戀想シ終ニ悶死セルヲモノシタルナリト其他此類ニシテ以テ俗習ノ一斑ヲ窺フニ足ランカ

三 競馬及乘馬 競馬ハ特ニ儀式立テ行フコトハ只鄂博祭日位ナレトモ其他狩獵放牧ノ序等機會アル毎ニ之ヲ行フ又タ自己所有ノ馬ノ中ニテモ之ヲ行ヒ某馬ハ如何ノ性質ニテ某地マテ半日ニテ達ス等不完全ナカラ標準ヲ立テ、其遲速耐力等ヲ明ニス之カ爲メ日々乗用馬ハ不絶牧馬群ノ中ヨリ取替ヘ勞働ヲ均一ニスルト共ニ其性質ニ通曉シ騎馬ノ調教ヲナス

而シテ大ナル狩獵(狩獵ニハ數旗連合ノモノ又ハ一村ノモノ自己丈ノモノ等アリ皆旗武ノ)又ハ鄂博ノ祭日等ニハ互ニ良馬ニ騎乗スルヲ名譽トシ狩獵ニ在テハ王公ノ面前ニ一番槍ノ功ヲ奏セントシ祭日ニ在テモ先頭第一ノ名譽ヲ得ント競フ之カ爲メ自家所有ノ馬群中最良ノモノヲ撰ヒ壯者ヲ騎手トシ以テ之ニ赴クカ、ル競争ニ用ユル馬ハ「チロロ」走馬ト稱シ彼等ノ最モ愛スル所ニシテ其數多カラス數百頭ヨリナル馬群中ニテ眞ノ走馬ハ一二頭ニ過キスト云フ

此走馬ハ終生賣却スルコトナキカ如シ

競馬ハ蒙古人ノ最モ好ム所ニシテ鄂博ノ祭日等ニハ大概之ヲ行フ蒙古人ハ家居日常門前ニ馬ヲ繫キ鞍ヲ裝シ牧畜用辨等皆乘馬シテ之ヲ辨ス故ニ老幼婦女ニ至ルマテ荷モ諸官能ヲ活動シ得ルモノハ能ク馬ニ慣レ又能ク乗馭ス小兒五六才ニ至レハ父兄ニ伴ハレテ牧場ニ至リ往復父兄ニ助ケラレテ馬背ニ絶リ十才前後ニ至レハ大抵獨立シテ巧ミニ乗馭シ裝鞍ナキ馬ヲモ自由ニ乗ルニ至ル如斯彼等ハ幼少ヨリ自然的ニ馬ト親ミ之ヲ馭スルノ法ヲ教ヘラル、ヲ以テ乘馬極メテ巧ナリ

蒙古人ノ騎術ハ恐ラク天下ニ冠タルヘク元朝ノ祖先カ世界ノ大半ヲ蹂躪シ勇名ヲ轟シタルハ全ク此騎術ノ力ナリ其騎スルヤ上體ヲ垂直ニシ膝下ハ後方ヘ少シク曲リ如何ナル運動ヲ爲スモ上體而已動キテ下體ノ位置ハ崩ル、コトナク全ク馬匹ト同體ヲナス而シテ上體ヲ少シク前ヘ屈ルヤ馬ハ驕然疾駆ス又騎者ハ軀足中多ク鎧上ニ直立シ鞍ニ腰ヲ置クコトナク終日馬背ニ在ルモ疲勞ノ態ナク馬ヲ下レハ活氣ヲ失シテ動作鈍キモ騎乗セハ忽チ輕捷トナリ疾駆シテ

數十里ノ行程モ尙隣地ヘ往クカ如キ概アリ去レハ距離ノ觀念他國人ヨリモ短キハ已ムヲ得サルコト、ス邦人ノ旅行者カ某地ヘノ距離ヲ問ヘルニ「門前」ナリト答ヘシカハ定メシ一二丁ノ距離ナルヘシト思ヘルニ後其距離ノ二里餘ナルコトヲ知レリト蒙古人カ距離ノ觀念ハ概ネ此ノ如シ而カモ距離ヲ知レル蒙古人ハ極メテ少ク「ヘデホロベ」ニ「ヘデカチラベ」ニ「何里デスカ」ノ問ニ對シ正確ナル答ヲ得ンコトハ覺束ナシ之レ蒙古人ハ距離ヲ知ルノ必要ナケレハナリ而シテ彼等ノ答フル距離ハ大概實距離ヨリモ近カキニ失スルカ如シ

蒙古人ハ馬アリテ始メテ活潑ノ動作ヲ爲シ得ルノミ若シ歩行セシメンカ水ヲ離レシ魚ノ如ク全ク能力ナシ即チ歩度ハ重ク不作法ニシテ脚ハ兩側ニ開キ上體ハ前方ヘ傾キ病後ノ人ノ歩行ニ彷彿タルモノアリ

婦人モ又乘馬ニ關シテ全ク男子ト同様ノ教育ヲ受クルヲ以テ其技術毫モ男子ニ劣ラス但シ乘馬スルハ旅行ノ際又ハ男子ニ代リ戶外ノ業務ニ服スル時ノミニ限リ平常ハ騎乘スルコト少ナシ又東南部開拓地隣接ノ地ニ於テハ漸次柔弱ニ流レ殆ント婦人ノ乘馬スルヲ見サルニ至リ喀喇沁土默特等ノ地方ニテ若シ

第四章 儀禮

偶々乘馬スルトキハ驢馬ヲ用ヒ小鞍上滿圍ヲ布キ男子其跡ヨリ鞭ヲ以テ附隨スル等己ニ固有ノ習俗ヲ脱却セルアリ眞ニ蒙古ノ本領ヲ有スル勇婦ハ興安山脈東南側ヨリ其西北部地方ニ於テ始メテ之ヲ目撃スルヲ得ヘシ

古來蒙古ハ武ヲ以テ本位トセルヲ以テ其軍容ヲ整シ軍規ヲ嚴肅ナラシムルタメニハ上下ノ分ヲ明カニシ禮儀ヲ正シクスルノ必要ヲ感シタリシナラン故ニ其風俗ノ素朴野鄙ナルニ係ラス頗ル禮義ヲ重ンシ王公ノ命ハ事ノ如何ニ拘ハラス絶對的服從心ヲ有シ其家居ノ動作ヨリ其他一切ヲ秘シ他人ニ語ルヲ憚リ殊ニ王公ノ惡德非行ノ如キハ自ラ語ラサルノミナラス之ヲ藏ハントスル誠忠ノ美風アルコト恰モ我邦古武士ノ其君公ニ對スルカ如シ

現今行ハルル禮儀ハ清朝ノ定メニ從フヲ以テ大體滿洲人ト異ナルコトナシ然レトモ些細ニ觀察スレハ地方ニ由リ又ハ家ノ構造ニ由リ多少ノ差異ナキ能ハス然レトモ冠婚葬祭其他一私事ニ關シテハ己ニ述フルカ如ク喇嘛教ノ教ヲ本

トシ蒙古固有ノ禮儀ヲ襲用セルモノ多キカ如シ

本章ハ儀式禮式、日常行事並ニ旅客ノ接待ニ別チテ以下詳細記述スル所アルヘシ

第一節 儀式

儀式トシテハ殆ント記スヘキモノナシ只北京朝勤ノ際ハ定メノ典儀アルノミ
其他蒙古内ニ於テハ王公ノ外出ニ關シテモ通常人ノ如ク極メテ簡略ナルヲ以
テ面識アルニアラサレハ王公ト臺吉等トヲ辨別スル能ハサル位ナリ尤モ旗内
ニ於テ遠隔ノ地ニ赴クカ又ハ狩獵鄂博ノ祭典等ニ際シテハ夫レ々々古例典儀
アルカ如シ

大旗

大清會典ニヨルニ親王以下儀仗トシテ用ユ可キ織大傘ノ上部及ヒ周圍ニ布ヲ
垂レタルモノ、纛(大旗)小旗及ヒ隨從官ノ數ハ夫々一定セリ即チ左ノ如シ

- 親王 鎗金赤纛二、纛二、小旗十、典儀四品一人 五品一人
- 郡王 同 一、同一、同一、八、同 五品一人 六品一人
- 貝勒 赤纛一、同一、同一、六、同 五品一人

- 貝子 同 一 同 六、同 六品一人
- 公 同 一 同 七品一人

第二節 禮式

禮式ハ便宜上公務及私事トシ公務ヲ又室内野外ノ二様ニ分テ記述セントス

一、公務ヲ取扱フトキハ定メノ官帽ヲ冠スルヲ以テ禮式トス挨拶ノトキ嗅煙
草ヲ呈シ煙草ヲ勸メテ互ニ交換シ後用件ニ移ル

公務ノ場合

- (イ) 室内ニ於テハ王公ニ對スルトキハ冠帽ノマ、其侍從ニ導カレ居室ニ至
リ入口ニ於テ一度敬禮シ更ニ數歩ノ地點ニ近付キ右膝ヲ屈折シ左膝ヲ立テ
、最敬禮ヲナシ報告上陳ヲナシ再ヒ敬禮ヲナシテ去ル普通王公ニ面謁ヲ許
サル、ハ四品官以上ナリ王以下ノ長官ニ對スルトキモ略同一ナリ
- (ロ) 室外ニ於テ王公ニ召サル、トキモ又タ同一ノ姿勢ニテ數歩ヲ隔テ、跪
座シテ言上シ又ハ命ヲ拜ス總テ品級ナキモノハ王公ニ近寄ルヲ得ズ王以下
ノ上官ニ對スル下級者ノ体度又畧同シ

二、私事ノ場合ニ於テハ官帽ヲ用ヒサルヲ通例トスレトモ婚儀葬祭等ノ大典
又タ賓客ヲ迎送スルトキ等ニハ之ヲ用ユ

(イ) 室内ニ於ケル場合

蒙古包ノ場合ニハ外來者車輛又ハ乘馬ニテ門前ニ來ルトキ下車馬セサル前ニ聲
ヲ發シ家人ヲ呼ビ犬ノ監視ヲ乞ヒ家人ノ聲ニ應シテ出ツレバ下車馬シ馬ヲ定
規ノ馬繫場(蒙古ハ貧富共ニ毎月必ス數頭乃至數十ニ繫キ家人ノ案内ニ由リ入口
ニ近ツキ馬鞭ヲ入口ニ置キ門戸ヲ入り、モンドー又ハアモルヨウ御機嫌ヨロシ
ウノ意ト挨拶シ入口ヨリ向テ左方ニ着座シ腰袋ヨリ嗅烟草入(香ノ一種ニシテ
鼻ニ嗅ク惡臭ヲ防クモノナリ)ヲ出シ左手ニ持テ左肩ヲ下ケテ之ヲ主人ニ進ム
レハ主人モ同シク嗅烟草入ヲ取出シ來客ニ渡シ互ニ鼻ノ下ニ當テ嗅ク真似ヲ
ナシクリストモンド(家内無事ナリヤ)アトセヘンニ馬群ハ良好ナリヤ)等數語ヲ
交換シ語ル間ニ嗅烟草入ヲ互ニ元ニ返却シ來客ハ次ニ主人ノ妻兄弟子供ニ至
ルマテ次第々々ニ同様ニ嗅烟草ヲ渡シテ挨拶ス最後ニ先來ノ來客アラバ知人
ト否トニ拘ラス之ニモ同様挨拶ヲナシ徐ロニ用件ヲ談シナガラ來客ハ「ター」ベ

ニ「烟管ハアルカ」又ハ「タモ」烟草ト畧稱シテ右手ヲ出セハ主人烟管ヲ渡シ之ヲ
自己ノ烟草ヲ詰メ火ヲ付ケテ吸ヒ其吸ヒ口ヲ烟草入ノ袋ニテ拭キ右手ニ持テ
吸口ヲ先キニ向ケ右肩ヲ下テ之ヲ主人ニ渡ス主人モ又同様ニ來客ノ烟管ニ自
己ノ烟草ヲ詰メ之ヲ來客ニ渡ス其仕方來客ト同一ナリ來客如斯同室内ノモノ
ニ一々之ヲ行フ其中主婦ハ來客ノタメニ茶ヲ暖メ奶皮子又ハ奶豆腐ヲ勸メ茶
ヲ勸メ長座ノ客ナラバ食事ノ容易ヲナシテ之ヲ勸ム而シテ用ヲ了リ辭シ去ル
トキニモ又嗅烟草入ヲ呈スルヲ正式トスレトモ知人ナルトキハ之ヲ略ス而シ
テ來客ノ去ルトキハ主人其他家内中之ヲ室外ニ送り出テ馬又ハ車ニ乗ルマテ
見送ルヲ常トス茶及烟草ハ談話中常ニ飲ミ少シバカリノ用ニテモ長座スルノ
風アリ右ハ對等ノ場合ナレトモ主人ヨリ上位ノ人來ルトキハ主人自己ノ座ヲ
讓リ正座ニ就カシメ下位ノ人ナラバ來客ノ方主人ニ對シ一層叮嚀ナル差アリ
嗅烟草及烟草ヲ勸ムルコトハ公務ノ場合モ同一ナリ
蒙古包ニ於テハ入口ニ對スル向席ヲ上位トシ其右方ヲ婦人席トシ左方ヲ客席
トスルヲ普通トス

支那家屋ノ場合モ禮ニ於テ異ナルナキモ來客坑(座席ニシテ土間ヨリ約二尺位高ク内部ニハ煙道ヲ通シ腰ヲ取ル作ル)又ハ椅子ニ腰ヲ掛ケ又ハ席上ニ座ス席上ニ座スルトキモ大概脱靴スルコトナシ支那家屋ニテハ蒙古包ノ如ク一家團欒シアラズ此家屋ニテハ入口ヨリ右左ニ室アルヲ常トシ上位ハ右室ニテハ右奥左室ニテハ左奥ニアルカ如シ家ノ構造ニ由リ一定セス

婦女ノ禮式蒙古ニテハ我國ノ如ク婦女モ來客ノ席ニ來リ主人ト共ニ之ヲ待ツ其禮儀ハ內蒙古各旗ハ概ネ皆兩膝ヲ屈シ踵ニ体ノ重ミヲ托シ腿部ヲ平ニシ兩手ヲ腿部ニ上ケ掌ヲ下ニシテ重ネ頭ヲ下クルナリ外蒙古車臣汗部等ニテハ婦女ハ直立ノマ、兩手ヲ均ク前ニ出シ掌ヲ上ニシ來客バ之ニ掌ヲ觸ル、ノミ恰モ握手ニ近キモノナレトモ其法ハ指ヲ伸セルマ、ニシテ握ルコトナシ

(口) 室外ニ於ケル場合

王公其他長上ニ逢フトキハ僅ニ道ヲ避ケ下車下馬シテ禮ヲナス其所要ナキトキハ通過ヲ待テ又乘馬シテ行進ヲ續ケ同等ノモノナレバ互ニ下車馬シ急カシテ休憩スルトキハ嗅烟草烟草ノ交換ヲナシ急グトキハ互ニ口上ヲ述へ上車又

乘馬シテ續行ス

途中ニテ逢フタル人ニ所要アルトキハ先ツ口上ノ挨拶ヲナシ嗅烟草ヲ互ニ交換シ談話ヲ始ム

他旗又ハ滿漢人外人等ト逢遇セハ何人ニテモ必ス近寄テ挨拶シ何レヨリ來リ何レニ行クヤ何用ヲ帶フルヤ等ノ要件ヲ問ヒ確シムル風アリ但シ大勢ナルトキハ恐テ近付カス

禮式ハ略ホ上述ノ如シ其他又蒙古固有ノ禮トシテ膝姿ノ如キ姿勢ニアリテ右手ヲ振テ右耳ニ當ツルコトアリ又蒙古人ハ平常ノ作法トシテ 一、裸體ヲ出サハルコト 二、火ニ向テ足ヲ出サハルコト 三、小便ハ男女トモ腰ヲ屈メテ膝ヲ屈シテ放尿シ又大小便共決シテ佛體ノ存スル方ニ向ハサル等殊ニ慎メルカ如シ禮物贈答ニハ「ハダブ」(王公及盛吉高級喇嘛ハ絹布ニテ薄淺黃以下ノ色)ト稱スルモノヲ附シ此レナケレバ禮ヲ欠クモノトス又タ名刺ノミ出ス場合ニモ又タ「ハダブ」ヲ用ユ

「ハダブ」ハ佛前ニ供ズルコトアリ西北部各王公府ニハ其事務所内ノ一隅ニ佛像

ヲ祭リ其前ニ繩ヲ張り「ハダブ」ヲ吊シアルモノヲ屢見受ク
佛ヲ拜スルトキハ立テ合掌シ「オン」マニバタメホシ「ト」連稱シツ、五體ヲ地ニ投
シ頭ヲ以テ地ヲ叩キ如斯起伏連續ス又寺院ノ門前ノ數千米突位ヨリ此法ヲ行
ヒ漸次寺院ニ近付寺院ニ至リ佛前ニテ此法ヲ行フモノモアリ
要之蒙古ノ禮儀ハ佛ニ對スルモノ王公ニ對スルモノ及普通社會ノモノトアリ
テ鄭重ヲ極ム貴人ニ對シテハ頗ル尊敬ノ意ヲ表スト雖トモ之ヲ久フシテ其ノ
禮ニ堪ヘス遂ニ游牧民ノ真相ヲ現シ言語從テ粗野トナリ談笑自若全ク貴人ノ
前ニアラサルモノ、如シ蓋シ游牧ノ生涯ハ他ノ檢束ヲ受クル事ナキヲ以テ自
由放逸ノ習慣自カラ性トナリ知ラス識ラス此ニ至ルモノナランカ

第三節 日常行事

蒙古人日常行事大畧左ノ如シ
イ、毎朝起キタル後各自茶碗ニ少量ノ水ヲ取り口ヲ漱キ再ヒ其漱キタル水ヲ
用ヒ顔ヲ洗フ

- ロ、家畜ヲ放牧ス
- ハ、屢喫茶ス
- ニ、日中家畜ニ水ヲ與フ川又ハ湖ノ邊ニ住ムモノハ自由ニ家畜ノ飲ムニ任ス
- ホ、家畜ヲ連レ歸ル
- ヘ、搾乳
- ト、夕食
- チ、就寢

其他不時ニ寺院又ハ王公府へ徭役ニ徵セララル、コトアリ
蒙古人ハ日々此ノ如キ單調ナル生活ヲ繰リ返シツ、アルヲ以テ特ニ休日ナル
モノナキカ矢張滿漢人ノ例ニ倣ヒ一年中新年及ヒ陰曆三月三日、五月五日、七月
十五日、八月十五日、九月九日、ハ所謂五節句ト唱シ居レリ
其他日ヲ期シテ祖先ノ祭禮ヲ行ヒ喇嘛ヲ招シテ一家ノ周圍ヲ清淨ニスル事ア
リ鄂博ノ祭禮ニハ部落民各自野外ニ集團シ歡樂シテ日ヲ送ルコトアリ鄂博ハ
前述セシカ如ク旗界ノ標識及ヒ喇嘛廟ノ附近ニ設ケラレタルモノナルカ其他

畢魁水災ニ際シテ其禍ヲ叛ハンカ爲メ又ハ王公ノ繼嗣ノ乏シキ場合等ハ其祈禱ノ意味ヲ以テ佛體ヲ埋メテ新ニ鄂博ヲ立ツルコトアリ鄂博ノ祭禮ハ通常三四月及ヒ八九月頃ニ行ハル

第四節 蒙古ニ於ケル旅客ノ接待

已ニ記スルカ如ク蒙古人ハ途上又室内ニ於テ外旗人又ハ滿漢人等ニ逢ヘハ問查的ニ來意ヲ問ヒ其言ノ如何ヲ次々ニ傳フル風アリ又外人等ノ來リタルコトハ道路ノ遠キヲモ厭ハスシテ直ニ馬ニ騎リ所管佐領ノ許ニ至リ何日何様ノ旅客幾人何方ニ向ヒ何物ヲ携帶シテ行ケリト報告シ其王府ニ報スヘキコトハ佐領ヨリ人ヲ派シテ之ヲナス其他近隣部落ニ於ケル事件ノ新タニ耳ニ入ルアレハ互ニ相報シテ相傳ヘ忽チ流布シ其迅速ナルコト恰モ電信ヲ使用スルカ如シ今實地調査者カ各地ニ於テ實見セル外人ニ對スル接待ノ狀況ヲ參考ノタメ左ニ掲ク

(甲) 旅客ニシテ官ノ保護アルモノ即チ護衛兵又ハ官ノ與フル道案内ヲ伴フモ

ノハ其取扱甚タ町重ニシテ之ニ反シ(乙) 孤獨旅行者又ハ官ノ保護ナキモノニ對シテハ一切無頼者ナリ故ニ旅行者ハ先ツ其主宰者ノ所在地ニ到リ保護ヲ請フヲ尤モ便宜トス

(甲) ノ場合ニ於テハ旅行者ハ案内者又ハ護衛兵ノ嚮道ニ由リ隨意ニ隨所ニ立寄り前記セル彼等ノ食品ノ何物ニテモ徵發賣收スルコトヲ得而シテ蒙民等ハ王府ノ命ナレハ凡テ何事ニテモ拒ムコトナク喜ンテ之ニ應シ報酬ノ如キハ與ヘラルレハ取り與ヘラレサルモ不平ヲ言フコトナシ又斯カル旅行者ニ對シテハ畧一定ノ作法アリ護衛者又ハ案内者ヨリ宿泊ノ通知ヲナストキハ「タラカ」(屯長)ハ宿舍ヲ割宛テ其村内ヨリ羊其他所要品一切ヲ集メ村民ヲ指圖シテ諸事不自由ナキ様奔走盡力ス客到着スレハ先ツ遠來ノ勞ヲ犒ヒ茶ヲ出シ村民交互挨拶ニ出テ時至レハ羊ノ料理セシモノヲ進ム羊ノ料理ハ四肢及ヒ臟腑等ヲ別個トシ其全體ト頭トヲ粗末ナル木製ノ盆ニ載セ恭シク一禮シ主人役タル屯長ハ僻遠ノ地進ムヘキモノナキモ云々町噲ニ挨拶ヲ述ヘ了リテ自己又ハ配下ヲシテ小刀ヲ以テ頭ノ耳ニ及ラ入レ兩肩ノ「ロオス」肉ノ所ヲ切り頭ヲ下ケ小刀ヲ横ニ

置キ自由ニ食セヨト勸ム正客自ラ小刀ヲ取ラサレハ配下ヲシテ主客ニ切テ勸メシム随伴ノモノニハ四肢臟腑等ノ部分ヲ別ノ容器ニ盛リテ出ス而シテ正客之ヲ口ニセサル間ハ誰モ肉ニ手ヲ觸レサレトモ正客一刀ヲ下セハ随伴者村内ノモノ總掛リニテ忽チニシテ殘骨ノミニ變ス然シテ正客ノ前ニアルモノハ之ヲ取り下ケ飯ヲ出スヘキヤ否ヲ尋ネ正客之ヲ求ムレハ取下ケタル羊肉ノ一部ヲ入レ「ホレバタ」又ハ小麦粉ヲ以テ初メ羊ヲ煮タル汁ニテ粥様ノモノヲ作りテ進ム食事了レハ又談話ヲ始メ翌日ノ旅行ニ要スル人(馬)等ノ準備ヲ命シ屯長等ハ席ヲ辭ス來客多クシテ一戸ニ入ル能ハサルトキハ別ノ家ニ分レテ寢ニ就カシム翌朝ニ至レハ屯長又來リ茶ヲ勸メ人馬ノ準備ヲナシ出發ヲ待ツ途中休憩スルトキモ又宿泊ノトキト略同シク只食事ヲ單一ニスルノミ又途中馬ヲ要スレハ何人ノ馬タルヲ問ハス王命ト稱シテ徵發スルカ故ニ一モ不自由アルコトナク甚シク丁重ヲ極ム(官吏ノ旅行ハ皆是方法ニ由ル外國人等モ巧ニ申込メハ此恩典ニ浴スルコト有リ)

(乙)ノ場合ニ於テハ何レニ行クモ宿泊ヲ肯セス或ハ病氣ニ或ハ佛事ニ事寄セ辭退スルヲ常トス偶、宿泊ヲ許スモ親切ヲ盡スコトハ稀ナリ甚シキハ牛乳ヲ乞フモ與ヘサルコトアリ門前ニ野宿シアル人カ水ヲ汲ムタニ之ヲ厭フモノアリ其理由ハ別ニアラサルモ凡テ此地方ノ習俗ナリ故ニ假令蒙民ナリトモ旅行ノトキハ天幕食品食器等一切ノ要具ヲ携行ス

第五章 衛生

蒙古人間ニハ衛生ナルモノ存在セス人生ノ優勝劣敗ハ自然ノ儘ニ演出セラレテ些ノ變形ヲモ受クルナシ然レハ氣候ト病魔ニ對抗シ得ル如キ強壯者ハ生存シ然ラサルモノハ凡テ斃ル就中小兒ノ死亡率ハ大ナルモノ、如ク羸弱者ハ早く夭折シ殘レルハ最モ強壯ナル者ニ限レルカ故現在ノ蒙古人ハ極メテ強健ナルモノ、ミニシテ其身體ハ鐵ノ如ク猛烈ナル寒氣モ之ヲ犯スナク連日ノ勞役モ更ニ疲憊ヲ覺ニス眞ニ兵卒トシテ好箇ノ體格ト謂フヘシ蒙古ヲ旅行スル者ノ常ニ愁ク所ハ晩夏既ニ冷氣ヲ催セル頃小兒ノ赤裸々トナリテ走り遊ヒ親タルモノ之ニ衣ヲ與ヘントセサルコトナリ強者生存ノ理ハ勿論ナレトモ斯クシ

テ幼少ノ頃ヨリ自體ヲ鍛鍊シ抵抗力ヲ増長セシムルコトモ亦タ蒙古人ヲシテ
強健タラシムル一因タルヤ明カナリ

蒙古人ハ醫藥ヲ用キサルニアラス又全ク醫道ヲ解セサルニアラス喇嘛教ハ夙
ニ醫術ヲ攻究シ譬ヘ草根木皮トハ云ヒナカラ大ニ發達セルトコロアリテ其醫
學校トモ謂フヘキモノハ現ニ西寧附近ノ塔爾寺ニアリ年々此處ニ赴キテ醫術
ヲ學ブモノ少ナシトセス畢竟布教ニ伴フ仁術トシテ之ヲ喇嘛ニ修メシメタル
モ後世宗教ノ腐敗ト共ニ漸次諸種ノ弊害ヲ生スルニ至レリ即チ病氣ヲ凡テ惡
魔ノ作用トシ惡魔驅除ノ爲メニ祈禱ヲ行フ如キ過大ノ報酬ヲ望ム如キ是ナリ
然レハ富者ハ喇嘛ノ來診ヲ得ルモ貧者ハ之ヲ難スルヲ常トス
斯カル狀態ナルヲ以テ一度疫病ノ流行ニ當テハ其慘狀實ニ想像外ナルヘシ然
レトモ天ノ配劑ハ不可思議ニシテ文明ニ伴フ時疫等ハ從來未ダ嘗テ其流行ヲ
見スト云フ其最モ多キハ梅毒患者ニシテ之ニ次クモノハ眼疾ナリ
其他頭痛腹痛若シクハ腰痛ヲ訴フルモノ多キヲ見ル若シ夫レ今日個人的利益
ニ汲々トシテ國家的觀念ナキ投機者流ハ則チ止ム苟モ眞乎博愛主義ニ基キ仁

術ヲ施サハ彼ノ歡心ヲ得ンコト容易ニシテ他日以テ大ニ利用ノ途アルヲ疑ハ
サルナリ

蒙古地方ニ於ケル害虫ハ滿州地方ト同シク不潔ノ特産物タル蠅蚊床虫及虱蚤
ノ類ナリ蚊ハ概シテ其數多カラサルヲ以テ敢テ安眠ヲ妨害スルニ至ラス床虫
ハ土造家屋ニ於テ屢々發見セシモ是亦其數多ラス又蠅虱蚤ハ到ル處ニ存在
ス茲ニ奇ナル現象ハ遊牧地帯ニ於テハ家畜ノ數多ナル自然ノ結果トシテ蠅ノ
發生從テ夥多ナルヘシト豫想サル、モ事實ハ寧ロ之ニ反スル事はナリ畢竟家
畜ハ日出ト共ニ人家ノ周圍ヲ離レテ放牧セラル、ヲ以テ蠅群モ亦タ之ニ跟隨
シテ家居ニ遠カルニ因ルヘキモ其然ル原因ハ土地一般ニ乾燥シ地表ヲ覆フニ
短草ヲ以テシ人家少ナキ爲メ害虫發生ノ基因少キカ致ス所ナラン傳染病ノ起
ラサルモ又茲ニ外ナラス

蒙古包ノ内ニハ偶、牛羊體ニ寄生スルコト「ダ」ニノ類又ハ稀ニ床虫ノアルコトア
レトモ支那家屋ニ比シ遙カニ少シ

蚊虻ハ谷間ノ小川ノ所在ニ多ク蛇ハ各地共少ク其他ノ害虫ハ至テ稀ナリ

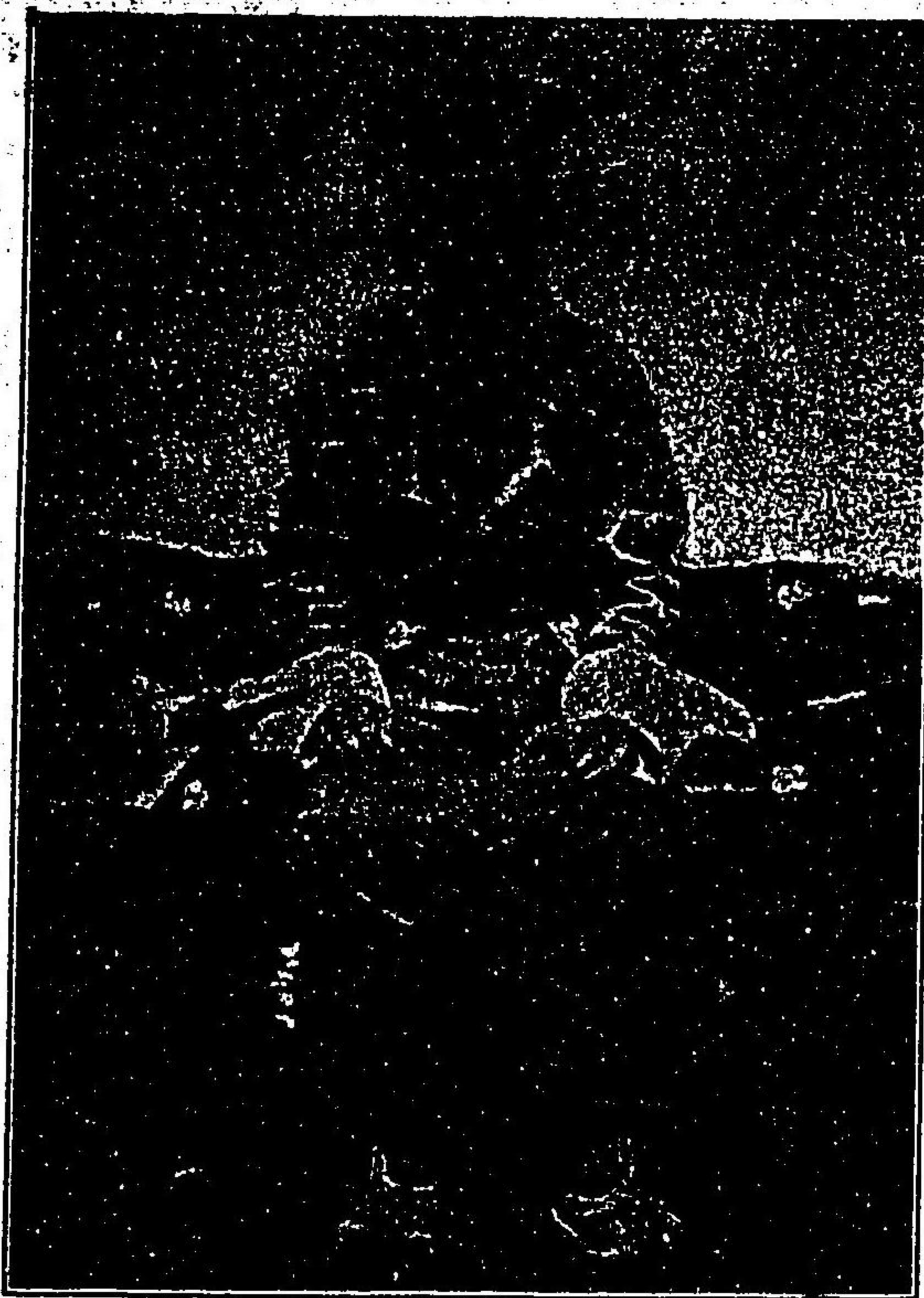
床虫等ノ豫防トシテ旅行者ノ携フヘキハ少量ノ石油又ハ除虫菊ヲ可トス
 飲料水ハ一般ニ天然水ヲ用ヒ甚タ危険ナルモノモアリ張家口庫倫間ノ官道各
 驛及開拓地方ニアツテハ概ネ井戸ヲ有シ飲料水ヲ得ルコト容易ナリ而シテ官
 道附近ノ井戸ハ水脈ノ近キ所ニ之ヲ設ケラル、カ故ニ概シテ淺ク水面ヨリ平
 地面マテ五六尺ヲ普通トス水質ハ概ネ良好ナリ又タ東部鄭家屯洮南府附近ニ
 於テモ到ル處井戸ヲ用ユルヲ得ヘシ此地方ハ水質多クハ不良ニシテ曹達ヲ含
 メリ
 遊牧地ニ於テハ井水ト溜水ヲ混用ス然レトモ其所在ハ多ク遠隔シテ時々一日
 乃至二日行程ニシテ始メテ水ヲ得ルコトアリ故ニ斯カル地方ニテハ村落ヲ繞
 フテ迂回シテ旅行スルヲ至便トスルモ然ラサレハ常ニ水ヲ携行セサレハ旅行
 困難ナリ
 一般ニ井戸ノ構造ハ甚タ不完全ヲ極メ其ノ開口ハ僅カニ丸太ヲ横タヘテ井桁
 トナシ又樹枝束柴若シクハ編條ヲ被覆シテ崩壞ヲ防グニ過キス其ノ側壁ハ自
 然土ノ儘ナルヲ以テ汚水ハ絶ス浸透シ且ツ開口ハ直チニ地平ニ接スルヲ以テ

汚物ト塵埃トハ常ニ流下混入シ而カモ其ノ鑿堀ノ度深カラス且淺深セラレサ
 ルヲ以テ井底ニハ泥土堆積シ忽チ混濁スルヲ常トス故ニ飲用ニ際シテハ必ス
 先ツ之ヲ清澄ニシテ後煮沸スルヲ要ス湖沼水流等ハ一見甚タ清澄ニシテ掬ス
 ヘキ如キモ其ノ附近ハ實ニ家畜ノ集合所ニシテ糞尿ヲ混濁スルヲ普通トス一
 般ニ水質ハ唯タ口ト眼ニ感應スル點ニ就テ察スレハ或一部ヲ除クノ他ハ飲用
 ニ適スルモ多少ノ鹽分ヲ含ミ且ツ混濁ヲ認ムルカ常ニシテ水量亦豊富ナラス
 シテ多數人員ノ旅行ニハ特ニ豫メ設備ヲナスニアラサレハ通行困難ナリ
 要スルニ飲料水ト燃料ハ蒙古ヲ行クモノ、爲メニ最モ必要ニシテ旅客ハ絶エ
 ス此二者ニ關シ心ヲ勞セサルナシ
 就中飲用水ニ於テ然リトス官道ヲ行クモノハ驛站ニ於テ之ヲ供セラル、カ故
 何ノ苦痛ヲ感セサルモ其他ノ道路ヲ取ルモノハ常ニ飲用水ヲ求メテ前進シ其
 野宿ハ水ノ所在ニヨリ決セラル、ヲ常トス而シテ此水ノ所在ハ地方ノ者若シ
 クハ數回ノ經驗アルモノニ非レバ之ヲ知り難キカ故蒙古ニ行クモノハ必ス此
 ノ如キ嚮道者ヲ雇用同伴スルヲ要ス又旅客ハ水桶ヲ携行スルヲ普通トス之レ

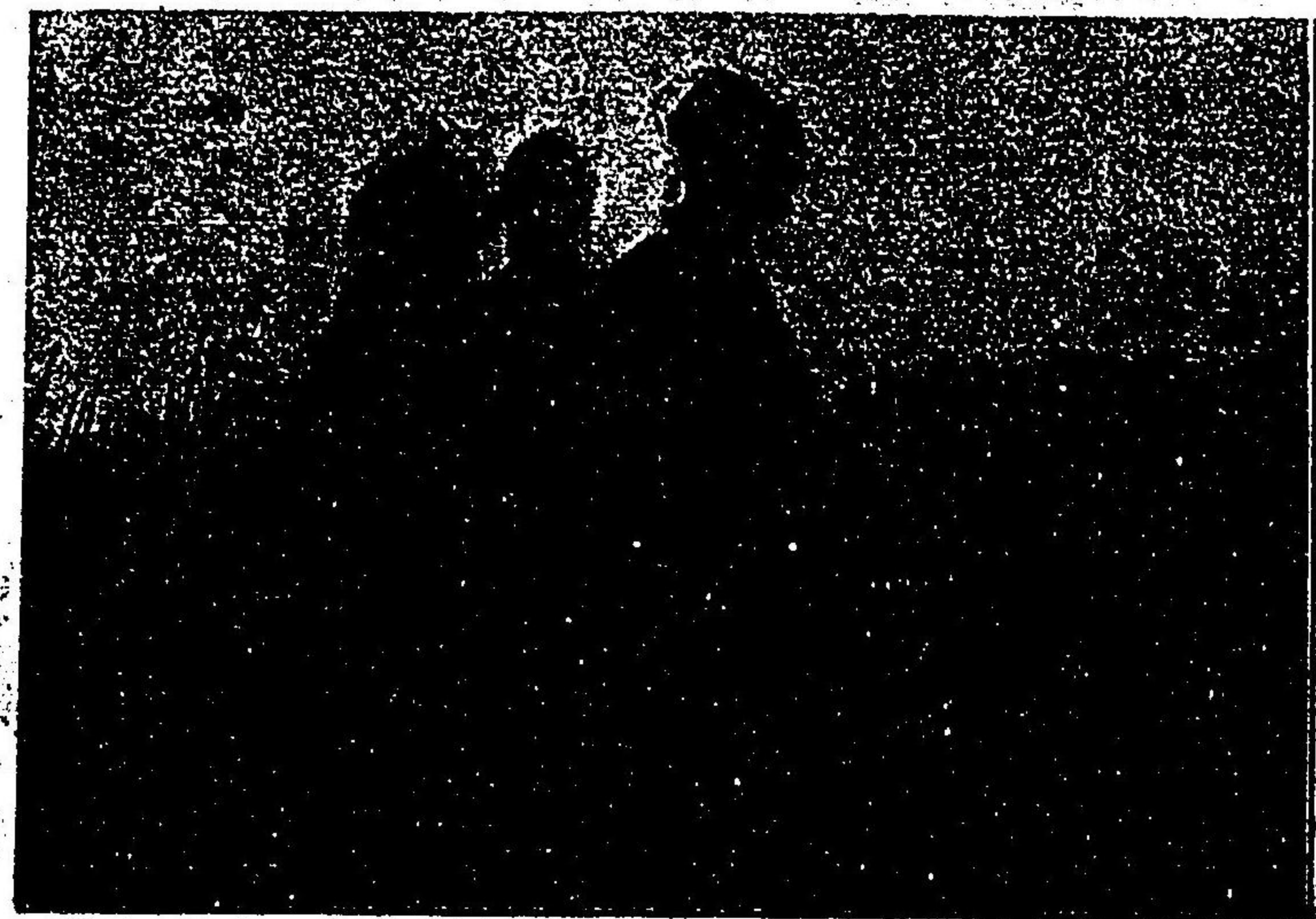
獨り無水ノ地ヲ往クトキニ必要アルノミナラス水ノ爲メニ野宿ヲ制限セラレ
 サルト良水ニ出會スルトキ之ヲ汲ミ貯フルノ便アルトノ爲ナリ蒙古ニテ普通
 ニ用ヒラルハ水桶ハ高サ約一尺二三寸ノ小判形桶ニシテ水量約一斗ヲ容ルヘ
 シ
 要スルニ水ハ蒙古地帯ニ於テハ甚タ不自由ヲ免カレサルハ事實ナリ然レトモ
 其既設ノ井戸及河水ノ狀況蒙古ニ於テハ河流ノ末尾何處トモナク地中ニ消滅
 スルモノ多シヨリ推スニ地下ニ豫想外ノ水量ヲ保有スルモノト判斷セサルヘ
 カラス凡ソ各季節ニ於ケル飲料水ノ多寡ハ蒙古ニ於テ動カシ得ヘキ軍隊ノ數
 及鐵道敷設ノ難易ヲ決スル大ナル因ヲナスヲ以テ特ニ注意スヘキ點ナラ
 ン乎

第六章 社會ノ狀態

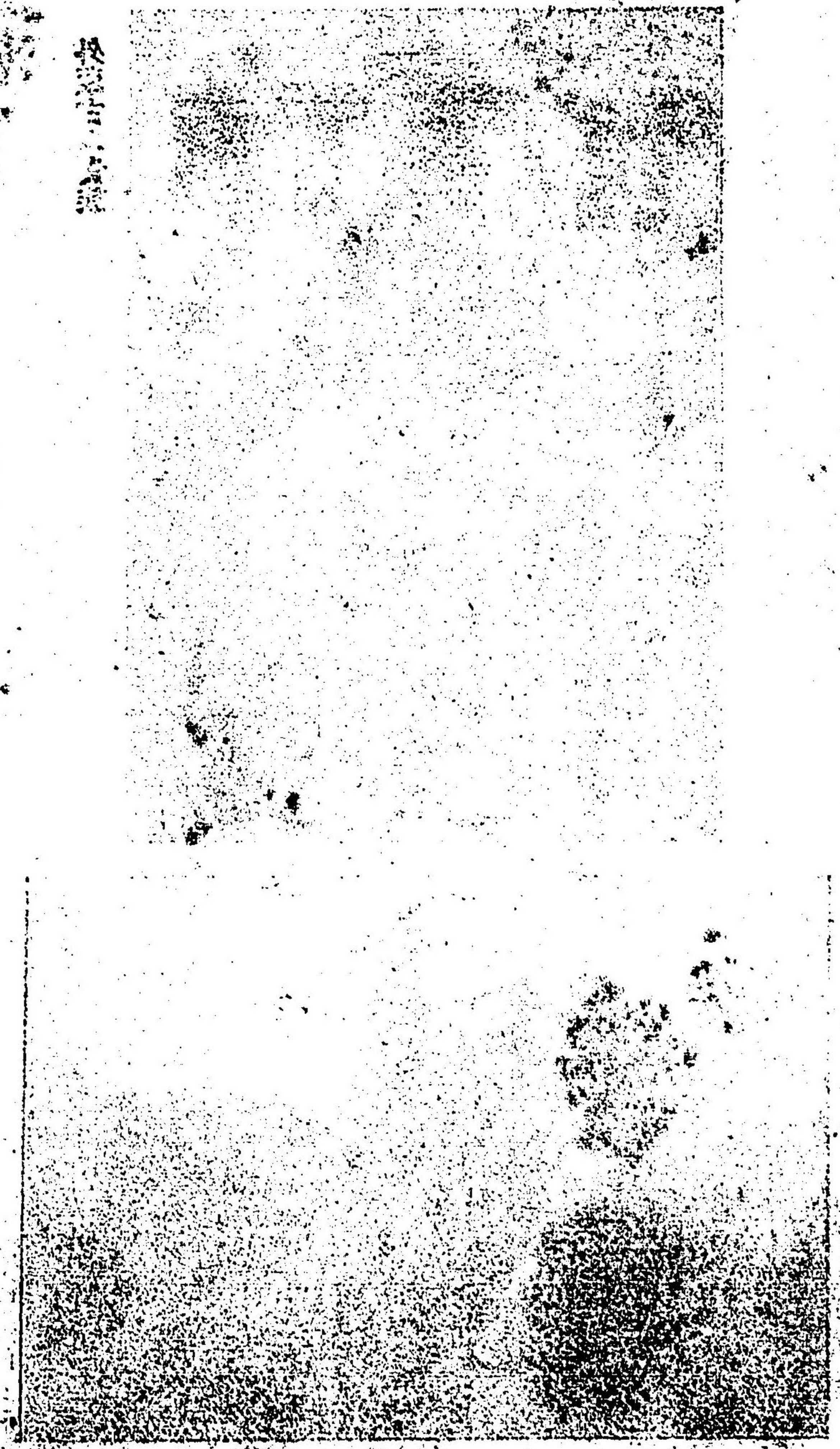
蒙古ノ社會ハ極メテ單純ナリ其階級ハ大別シテ三トス王族喇嘛及平民(蒙古人
 ハ之ヲ黑人ト云フ)之レナリ



外蒙之民族



外蒙之喇嘛



蒙古の歴史

王族ハ前ニ述ヘタル如ク元朝ノ後裔若シクハ其重臣ノ子孫ニシテ或ハ王公ノ爵ヲ受ケテ各旗ノ酋長タリ或ハ臺吉以下旗人ニ下リ居ルヲ以テ其總數ハ極メテ多ク一旗内ノ人口三萬ヲ有スル旗内ニハ王族約三四千ヲ數フルモノアリ即チ全人口十分ノ一以上ヲ占ムルノ割合ナリ

此ノ如キ多數ノ王族カ各王族タルノ體面ヲ保持シ能ハサルハ明カニシテ彼等ノ中ニハ單ニ品級ヲ有スル外他ニ一物ヲ有セサルモノ多シ

大清會典ノ制定スル處ニヨレハ蒙古ノ封爵ハ親王、郡王、貝勒、貝子、鎮國公、輔國公ノ五等トシ位次ハ凡テ清國皇族ト同視セラレ共ニ世襲ニシテ替ルナキモ札薩克トナルモノノ外ハ皆閑散トス

而シテ公主ノ子、親王ノ子弟ニハ一等臺吉ヲ授ケ(土默特、興喀喇沁、全部ハ塔布蘇圖、同シキコト)郡主ノ子、郡王、貝勒ノ子弟ニハ二等臺吉、縣主、郡君ノ子、貝子、公ノ子弟ニハ三等臺吉ヲ授ケ臺吉ノ子弟ニハ概ネ四等臺吉ヲ授クトセリ之レ各旗共四等臺吉ノ數多數ナル所以ナリ而シテ四等臺吉ノ嗣子ハ代々四等臺吉ヲ受クルトモ其他ノ子弟ハ下テ黑人ノ列ニ入ル

喇嘛ハ蒙古ニテハ社會ノ上流ノ階級ニ屬ス喇嘛トナルモノハ王公臺吉ノ子弟若シクハ黑人ヨリス

喇嘛ニ關シテハ前篇宗教ノ下ニ之ヲ詳述セルカ如ク喇嘛僧トナルモノハ幼少ヨリ家ヲ出テ、寺院ニ入り僧侶ノ共同生活ヲナシ又一生妻帯スルコトナク蒙古人ハ世嗣ノ外ハ悉ク喇嘛トナルノ慣例アルヲ以テ其數亦極メテ多ク大ナル寺院ニ在テハ數千人ヲ收容シ普通ノ寺院ニテモ猶數百人ノ喇嘛僧アリ

喇嘛僧ノ蒙古社會ニ於ケル勢力ハ侮ル可ラサルモノニシテ其言フ所ハ王公ノ命令ニ次テ重セラレ事件ト場合ニヨリテハ王公ノ命ヨリモ尊重セラルルノミナラス高德ナル喇嘛ニアリテハ王公ト雖モ之ニ反背スル能ハサルナリ

喇嘛僧ハ蒙古人中稍事理ニ通シ居リ殊ニ上流ノ階級ニアリテ精神上蒙古人ヲ動カシ得ルヲ以テ蒙古ニ於テ事ヲナサント欲スル所ノ必ス此喇嘛ノ社會的勢力ヲ輕視ス可ラサルナリ

只喇嘛僧徒ノ内情ニ至テハ漸ク腐敗墮落ノ狀アルヲ免レズ近時ハ有力ナル臺吉等ハ家ニ數男アルモ喇嘛トナサ、ルモノアリ喇嘛モ又清規ヲ守ルモノ少ナ

ク世俗ノ間ニ伍シテ婬靡ノ風ニ流レ奸詐ノ術ヲ逞フシ社會ニ害毒ヲ流シツ、アリ只蒙古人ノ強烈ナル宗教心ハ依然トシテ猶ホ喇嘛ノ勢力ヲ失墜セシメザルノミ

王公喇嘛ノ二者ヲ除クノ外ノ蒙古人ハ凡テ黑人ナリ黑人ニハ種々ノ種類アリ古代ニ於テ蒙古人ノ奴隸タリシモノ、子孫アリ或ハ滿漢人ノ土着セルモノアリ其他種々ノ區別アリト雖モ要スルニ王族若シクハ喇嘛ヲ除ク外蒙古人ハ凡テ黑人ナリ

此等蒙古人ハ政治上ニハ各旗長ノ下ニ隸屬シ精神的ニハ喇嘛ニ支配セラレツ、各自牧畜ヲ事トシテ今日猶ホ太古ノ風ヲ存シ簡易ナル社會的生活ヲ營ミツ、アルモ世運ノ趨勢ニ伴ヒ漸次地方ノ開放セラレ、ト共ニ滿漢人及ヒ外國人トノ接觸ヲ來シタルヲ以テ自然ノ情勢上其社會的影響ヲ受クルコト少ナカラ

元來蒙古人ハ昔時勇敢ナル人種ナリシモ喇嘛教ニ心醉セシ以來漸次殺伐ノ氣風ヲ脱シ争鬪ヲ好マス平和ヲ喜フニ至リ從テ此等半開民中ニ屢々見ルカ如キ

各旗間ノ反目争鬪ノ事ナク外國人ニ對シハ多少嫌疑スルノ情ヲ免レサルモ故
 ナク迫害ヲ加フルコトナシ故ニ外國人ノ蒙古旅行ハ比較的安ナルカ如シ但シ
 往々ニシテ蒙古人ハ外國人ノ有セル物品ニ奇異ノ感ヲ懷キ宿舍ニ於テ之ヲ窃取
 スルコトアリ稀ニハ其少數孤弱ナルヲ利トシテ劫掠ヲ行フコトナキニ非ス
 概シテ之ヲ言ヘハ社會ノ生存競争ノ激甚ナラサルコト利慾ノ觀念ノ比較的淡
 キコト等ノ爲メ滿漢人ニ比シ盜賊ノ類甚タ少ナク乞丐ノ如キハ殊ニ稀ナリ社
 會ノ秩序ハ案外平和ニ保持セラレツ、アルモノ、如シ
 此故ニ蒙古人ノ憂患トスル所ハ常ニ彼等ノ財産トスル家畜ヲ失ヒ其平和ナル
 生活ヲ擾亂セラル、ニアリ

旗内ニ於ケル小盜ハ屢々家畜ヲ掠奪スルコトアルモ此等盜賊ハ凡テ他旗内ノ
 蒙古人ニシテ平時ハ家居シテ生業ヲ營ミツ、アルニ拘ハラヌ一朝生計ノ困難
 ヲ來シタルトキハ走リテ他旗内ニ入り家畜ヲ掠奪シ來ルモノニシテ元ヨリ多
 人數ノ團體ヲ形成セルモノニアラス稀ニハ竊盜ヲ事トスルモノアルモ自己旗
 内ニ於テハ決シテ掠奪ヲ働カサルハ容易ニ發見セラル、恐アレハナリ

黒龍江省ノ邊界ニ住スル蒙古人ハ索倫人ノ禍害ヲ蒙ルコト少ナカラス索倫人
 ハ未開ノ種族ニシテ殆ント竊盜ヲ以テ生活シツ、アルカ如ク殊ニ牛馬ヲ偷ム
 コト尤モ巧妙ナリ彼等ハ平生多ク山林ノ間ニ住シ屢々蒙古人ノ部落ニ來リテ
 家畜ヲ奪取スト云フ

東清鐵道沿線一帶ノ地方ハ無賴ノ露國人往々ニシテ蒙古部落ニ出沒シ蒙古人
 ノ無智ナルニ乘シ家畜ヲ騙取シ去ルモノアリ又頗ル同地方蒙古人ノ憂フル所
 ナリトス

東部蒙古一帶ノ地ニ於テハ所謂馬賊ノ出沒スルアリテ往々諸部落ヲ劫掠シ去
 ルコトアリ

由來滿蒙境界地域附近ハ馬賊ノ巢窟ヲ以テ稱セラレ就中小庫倫及鄭家屯附近
 ハ著シキモノトス蓋シ該地域ハ滿洲ノ富源ニ近キト土地不毛錯雜ニシテ潛匿
 ニ便ナルトニ由リ出テ、ハ掠奪ヲ恣ニシ一旦追討ニ遭ヘハ巧ミニニ踪跡ヲ晦ス
 ニ適スルヲ以テ漸次滿洲馬賊ハ官兵ノ耳目ヲ避ケテ該方面ニ隱退シタルト該
 地方ノ開墾セララル、ト共ニ本來ノ生業ヲ失ヒタル蒙古人ニシテ恒産ナキ無賴

ノ徒ハ相率ヒテ匪徒ニ投セシ結果ナリトス而カモ清國官憲ノ彼等ニ對スル一定ノ主義方針ナキト所置ヲ誤リタル政策トハ容易ニ掃蕩ノ効ヲ奏シ得サルノミナラス寧ロ益々該方面ニ於ケル匪類勢力ヲ助成スルノ傾向アリ今馬賊ノ素質ニ就テ類別スレハ概ネ左ノ三種アリ即チ一ハ威望アル頭目ノ指揮ヲ受クルモノニシテ稍節制ト秩序トヲ備ヘ彼等ハ旗鼓堂々官兵ト對陣シ又ハ白晝公然村落ニ占據シテ富豪ヲ脅カシ或ハ人質ヲ抑置シテ莫大ナル金員ヲ徵收スル等傍若無人ノ所業ヲ敢テスルモ決シテ恣ニ殺戮ヲ事トシ或ハ貧窮ヲ犯スコトナキハ恰カモ我邦往時ノ義賊ノ類ナルモ此等ハ今日殆ント見ル可ラサル所ニシテ大數ハ即チ一定ノ頭目ヲ有セス同類相集リテ徒黨ヲナシ或ハ單獨ノ行動ヲ爲スモノニシテ所謂統然タル鼠賊夜盜ノ類ニ過キス強者ニ遭ヘハ則チ忌避遁逃シ弱者ニ遇ヘハ即チ驕然殺傷シ只其財貨ヲ得テ自己ノ使用ニ供スレハ即チ足ルノミ何ノ主義カアラン何ノ定見カアラン

滿蒙疆域ノ間ニ出沒セル馬賊ハ概ネ此種少數ノ鼠賊輩ニシテ稀ニハ一團ヲ作リテ橫行スルモノアルモ此等多クハ滿洲方面ヲ劫掠セルモノニシテ偶々官兵

ノ彈壓アルヤ其銳鋒ヲ避ケテ跡ヲ此地ニ托スルノミ移住民部落及蒙古部落ヲ襲撃スルモノノミハ大ナル集團ヲ見ス而シテ此等馬賊ハ純然タル滿洲馬賊ナリ滿漢匪徒ノ之ニ伴ヘルアリ稀ニハ蒙古人中之ニ投スルモノナキニアラス其他西喇木倫河ノ上流沙漠地方ニアリテハ往々少數ノ團體ヲカセル流賊伏在シテ行人ヲ劫シ又ハ所在ノ村落ヲ掠ムルモノナルモ此等ハ凡テ一定ノ根據地ヲ有セス隨意ニ出沒橫行スルモノナリ

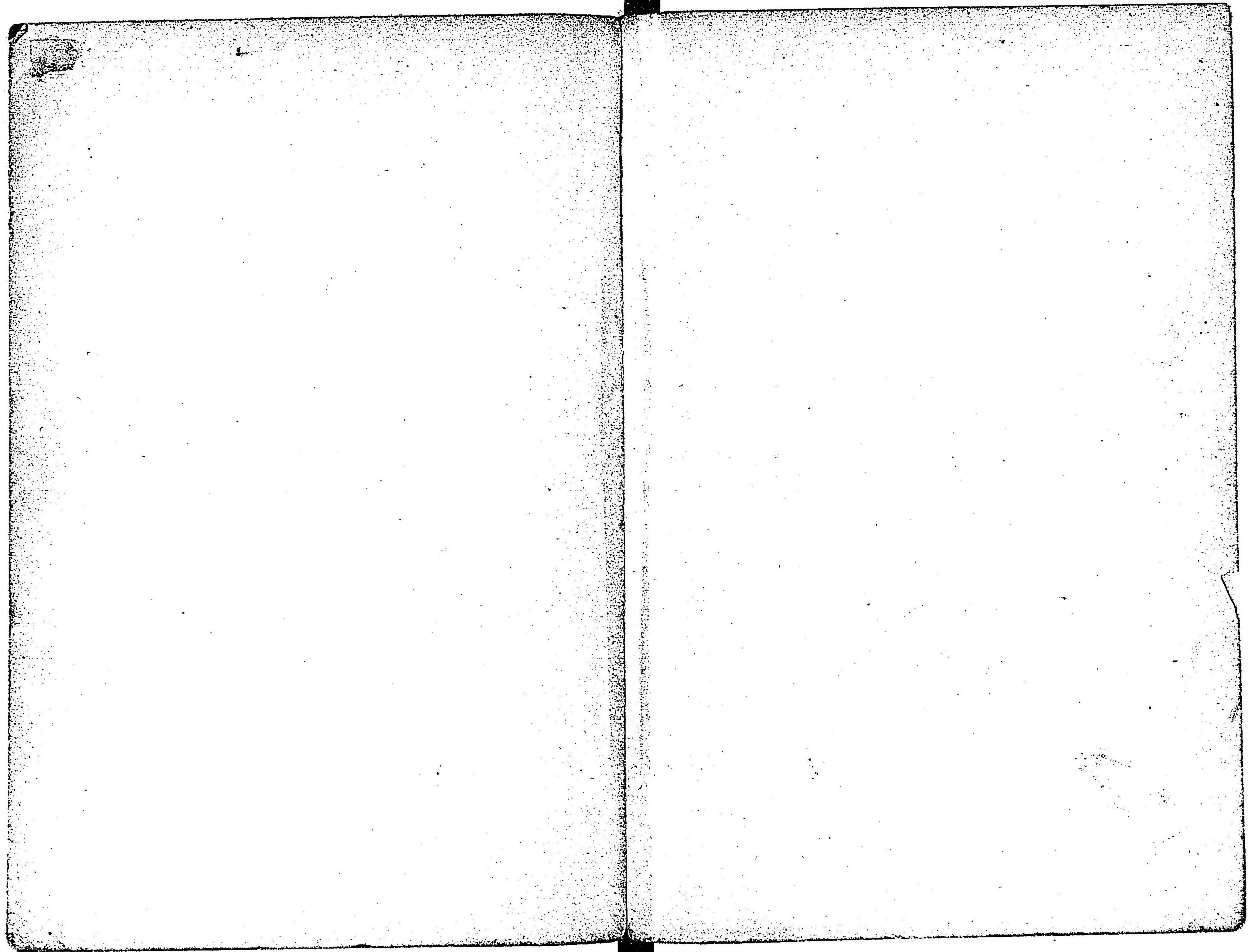
東部蒙古誌上卷終

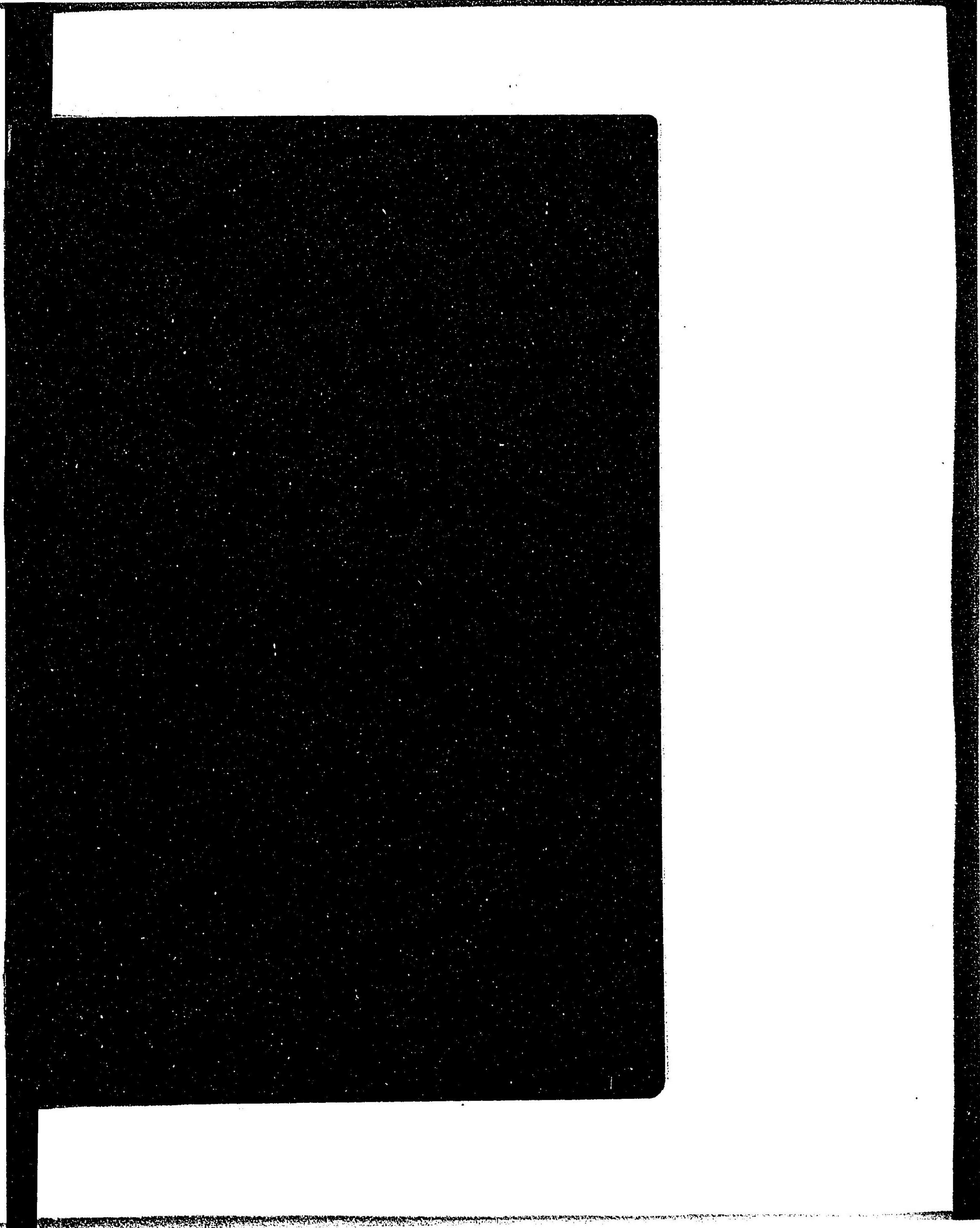
9820
67

37931



2352





026637-001-4

特70-40

東部蒙古誌草稿

辻村/編

上

M41

ADD-0324

